

会津美里町第8期介護保険事業計画策定に係る
調査票集計・分析業務

— 調査結果報告書 —

令和2年6月

会 津 美 里 町

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査種類及び対象者	1
3	調査実施方法	1
4	アンケート回収結果	1
5	調査期間	2
6	集計について	2

II 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 集計結果

◇	調査対象者の基本属性	3
1	あなたのご家族や生活状況について	4
2	からだを動かすことについて	7
3	食べることについて	11
4	毎日の生活について	15
5	地域での活動について	21
6	たすけあいについて	23
7	健康について	27
8	認知症にかかる相談窓口の把握について	30
9	リスク判定	
(1)	運動器	31
(2)	転倒	32
(3)	閉じこもり	33
(4)	低栄養	34

(5) 口腔機能	35
(6) 認知機能	36
(7) うつ傾向	37
(8) 手段的日常生活動作 (IADL)	38
(9) 知的能動	39
(10) 社会的役割	40
(11) 生活機能総合評価	41

<h3>Ⅲ 在宅介護実態調査 集計結果</h3>

A 調査対象者様ご本人について	43
B 主な介護者の方について	48
◇ 考察	54

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

会津美里町第9期高齢者福祉計画・会津美里町第8期介護保険事業計画(令和3～5年度)を策定するため、日常生活圏域における高齢者ニーズ等を把握することを目的に調査を実施する。

2 調査の種類及び対象者

種 類	対 象 者
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	令和元年11月1日現在、会津美里町内にお住まいの65歳以上の方から、地区別年齢階層別割合を考慮し無作為抽出(介護保険の要介護認定を受けている方を除く(要支援認定を受けている方は対象に含む) (1,600人)
在宅介護実態調査	令和元年11月1日現在、会津美里町内にお住まいの65歳以上の方で、介護保険の要支援、要介護の認定を受けている方(施設入所等の方を除く)から抽出(556人)

3 調査実施方法

種 類	実施方法
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	郵送調査(郵送による配付、郵送による回収)形式
在宅介護実態調査	

4 アンケート回収結果

種 類	対象者数	白紙回答	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活 圏域ニーズ調査	1,600 票	0 票	1,108 票	69.3%
在宅介護実態調査	556 票	17 票	328 票	59.0%

5 調査期間

種 類	調査期間
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	令和元年11月22日（金）～令和2年1月31日（金） （令和2年2月3日（月）到着分まで集計）
在宅介護実態調査	

6 集計について

- ・集計結果を百分率（％）で表す場合、小数点第2位を四捨五入し第1位までの表記とした。このため、百分率の合計が100にならない場合がある。
- ・母数（n=●と表記）は、回答者全員が答えるべき設問については回答者数、条件付き設問については、その設問に答えるべき該当者の数とする。
- ・複数回答を可とした設問で、選択肢をひとつも選択しなかった場合は「無回答」として集計する。
- ・単数回答（一つのみ選択）の設問において、複数選択した場合は、上記と同様に「無回答」として集計する。
- ・グラフ表示に際して、選択肢が多い場合などは、一部値の小さい数値の表記を省略する場合がある。
- ・クロス集計において、性別や年齢、地区の各回答が無い対象者は、各クロス集計表から除外している。そのため、性別や年齢、地域別の各合計は全体とは一致しない。

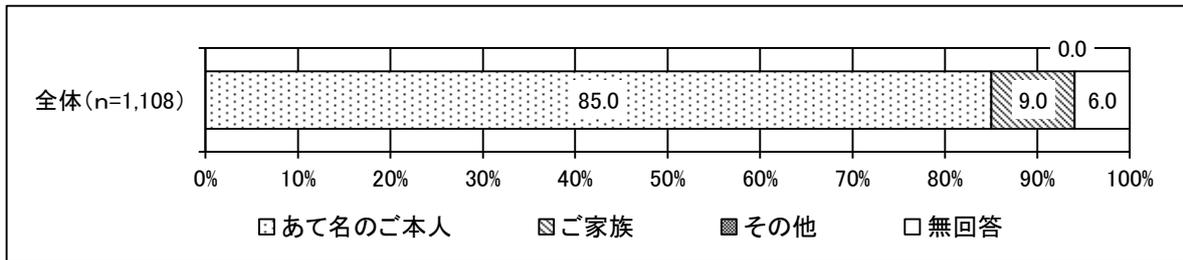
Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 集計結果

◇ 調査対象者の基本属性

1 調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

調査票の記入者は、「あて名のご本人」が 85.0%と多数を占めており、「ご家族」は 9.0%となっている。

◇図1 調査票を記入されたのはどなたですか

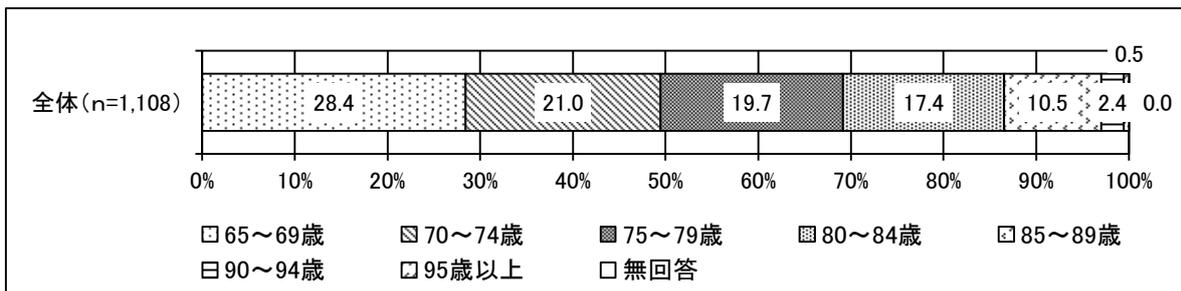


2 年齢・性別

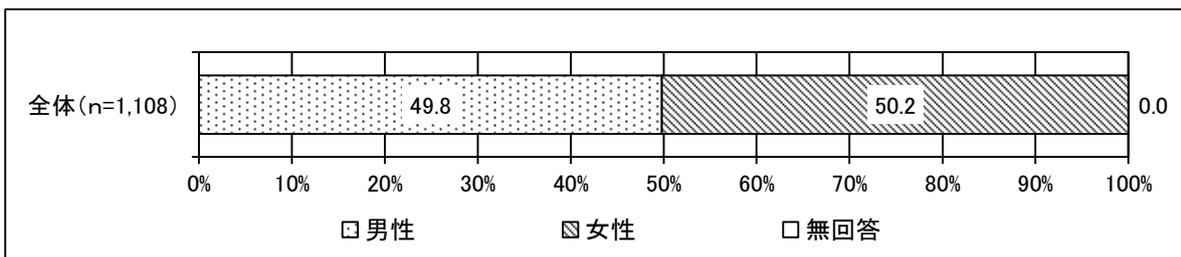
年齢は、「65～69歳」が 28.4%と最も高く、以下、「70～74歳」(21.0%)、「75～79歳」(19.7%)、「80～84歳」(17.4%)、「85～89歳」(10.5%)、「90～94歳」(2.4%)、「95歳以上」(0.5%)と続く。年齢が高くなるに従い比率は低下している。

性別は、「女性」が 50.2%、「男性」が 49.8%と、女性の比率がわずかに高くなっている。

◇図2 年齢



◇図3 性別

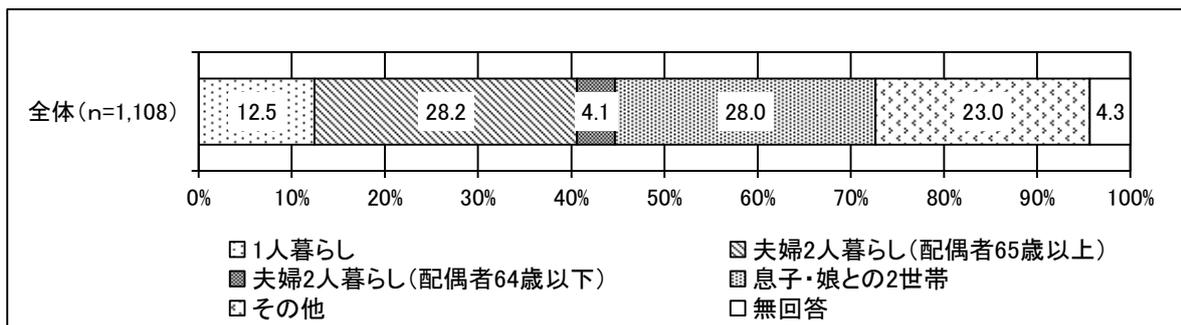


1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が28.2%と最も高く、以下、「息子・娘との2世帯」(28.0%)、「1人暮らし」(12.5%)、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」(4.1%)と続く。なお、「その他」は23.0%となっている。

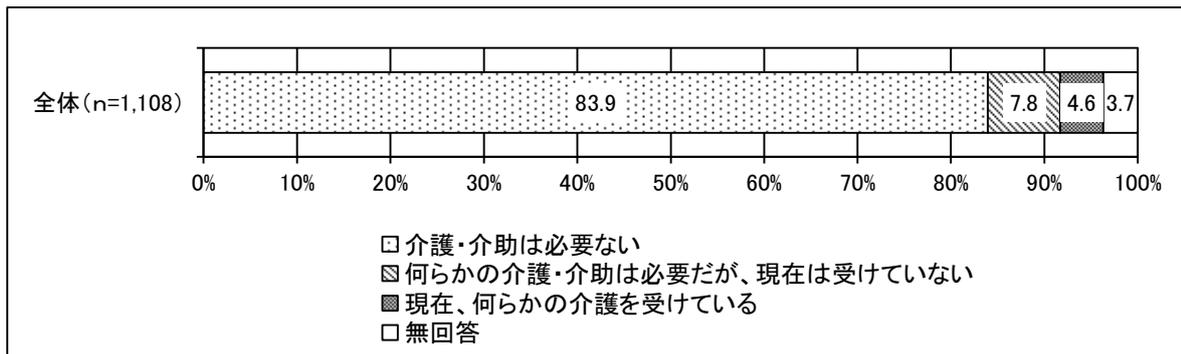
◇図4 家族構成をお教えてください



(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

普段の生活で介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が83.9%と多数を占めており、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は7.8%、「現在、何らかの介護を受けている」は4.6%となっている。

◇図5 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

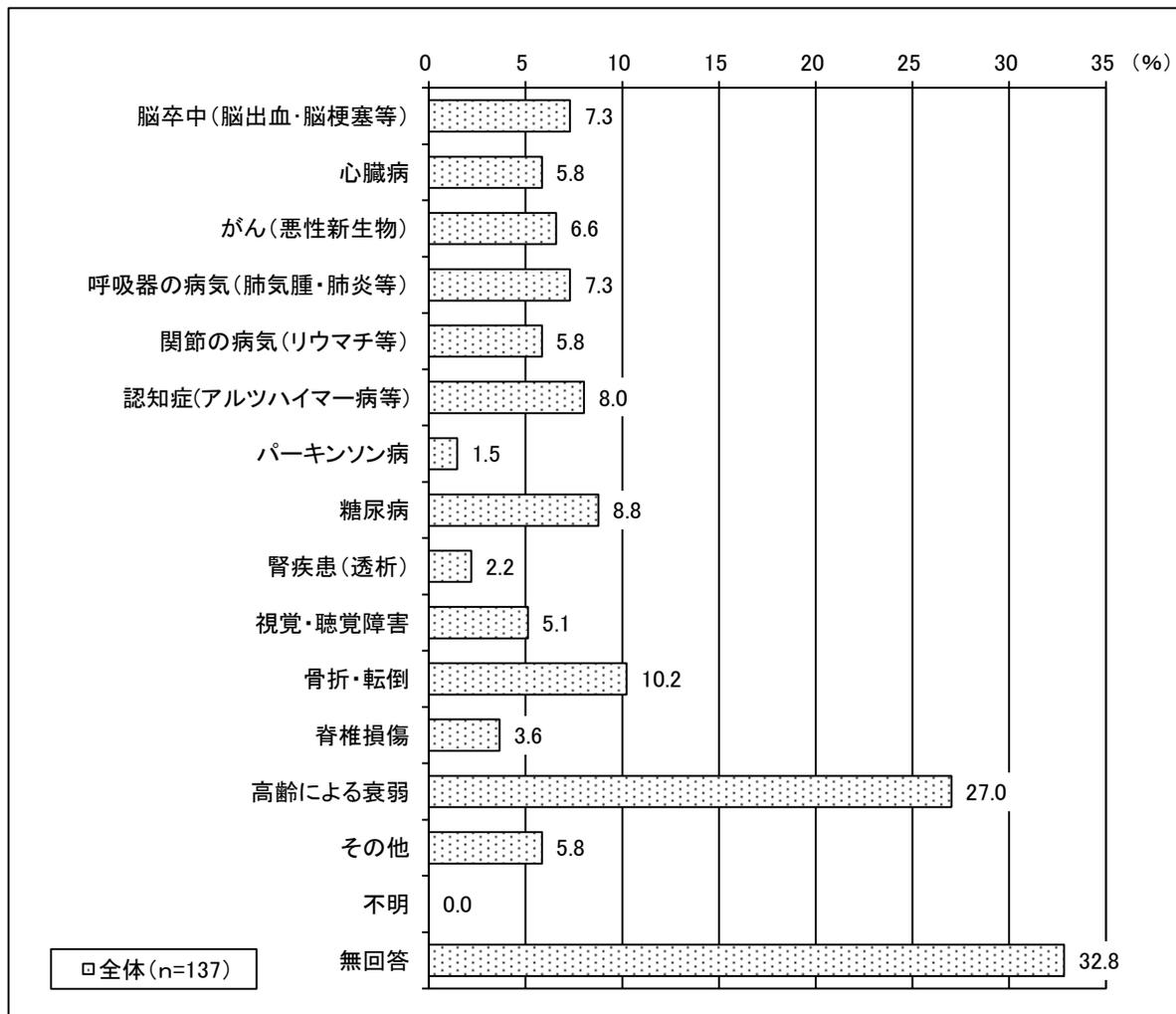


【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (いくつでも)

介護・介助が必要になった主な原因については、「高齢による衰弱」が27.0%と最も高く、以下、「骨折・転倒」(10.2%)、「糖尿病」(8.8%)、「認知症(アルツハイマー病等)」(8.0%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」及び「呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)」(ともに7.3%)と続いている。

◇図6 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか

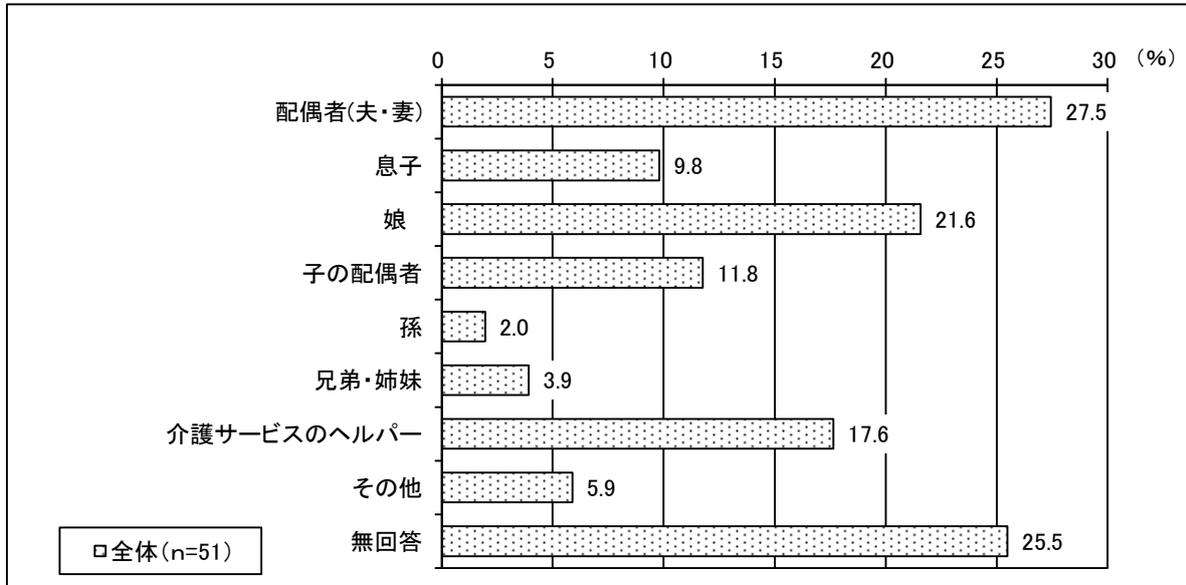


【(2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

②主にどなたの介護、介助を受けていますか (いくつでも)

主に誰の介護、介助を受けているかについては、「配偶者(夫・妻)」が27.5%と最も高く、以下、「娘」が21.6%、「介護サービスのヘルパー」が17.6%、「子の配偶者」が11.8%、「息子」が9.8%と続いている。

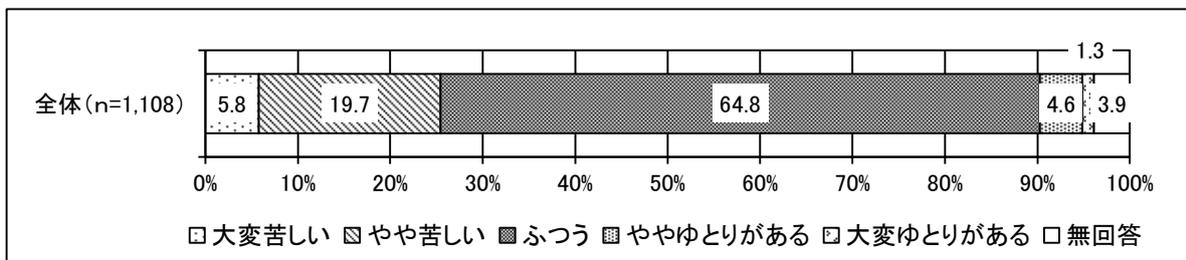
◇図7 主にどなたの介護、介助を受けていますか



(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

現在の暮らしの状況を経済的にみると、「ふつう」が64.8%と過半数を占め最も多いが、「やや苦しい」(19.7%)と「大変苦しい」(5.8%)を合わせて“苦しい”と感じる人は25.5%であり、一方、「ややゆとりがある」(4.6%)と「大変ゆとりがある」(1.3%)を合わせた“ゆとりがある”は5.9%と低い比率にとどまっている。

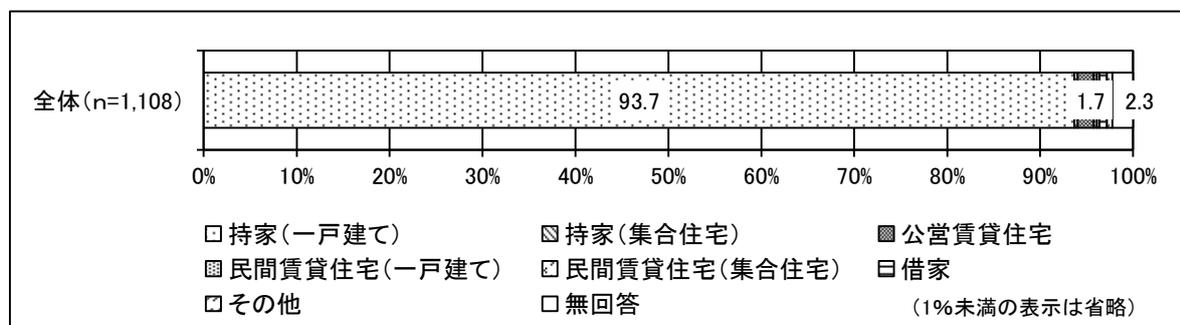
◇図8 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか



(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

住まいについては、「持家（一戸建て）」が 93.7%と多数を占めており、以下、「公営賃貸住宅」が 1.7%、「借家」が 0.8%、「持家（集合住宅）」及び「民間賃貸住宅（一戸建て）」がともに 0.4% 「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 0.3%となっている。

◇図9 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

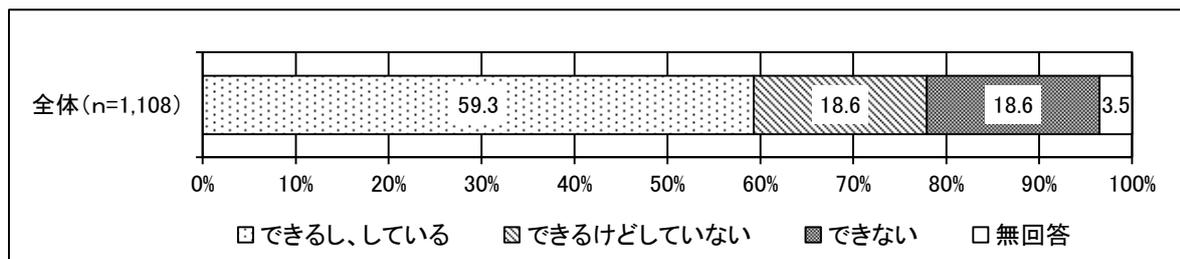


2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が 59.3%と半数を占めており、「できるけどしていない」及び「できない」はともに 18.6%となっている。

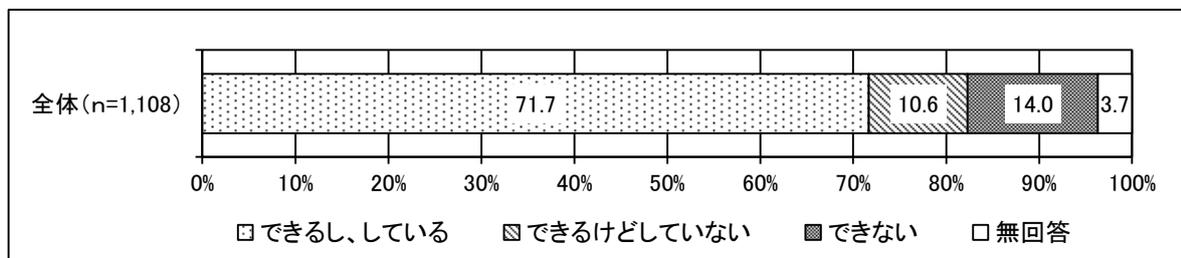
◇図10 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか



(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が 71.7%と多数を占めており、「できない」は 14.0%、「できるけどしていない」は 10.6%となっている。

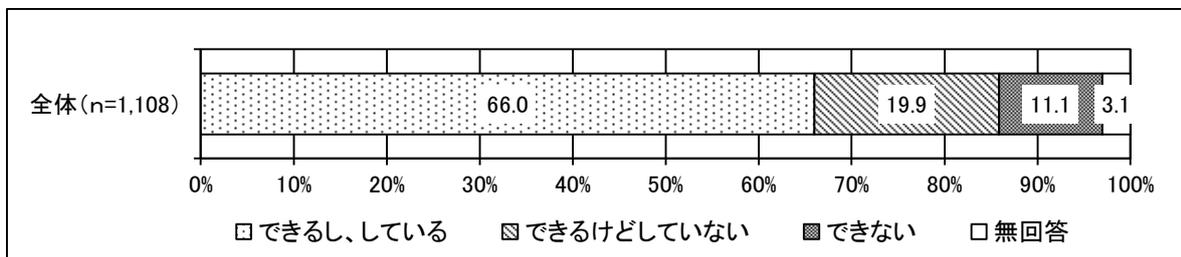
◇図 11 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか



(3) 15分位続けて歩いていますか

15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が 66.0%と過半数を占めており、「できるけどしていない」は 19.9%、「できない」は 11.1%となっている。

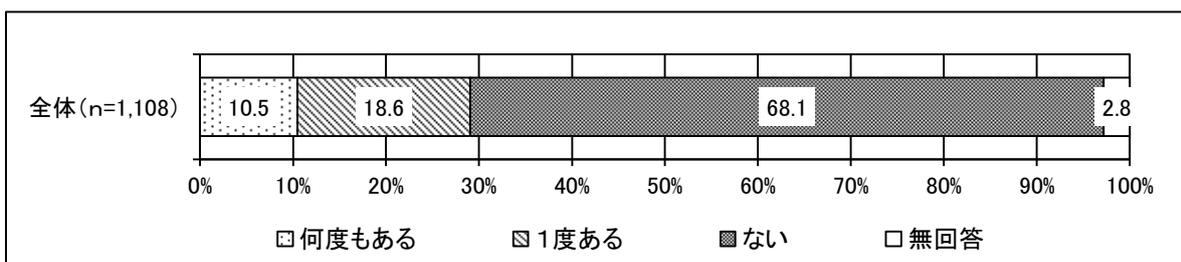
◇図 12 15分位続けて歩いていますか



(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

過去1年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が 68.1%と過半数を占めており、「1度ある」は 18.6%、「何度もある」は 10.5%となっている。

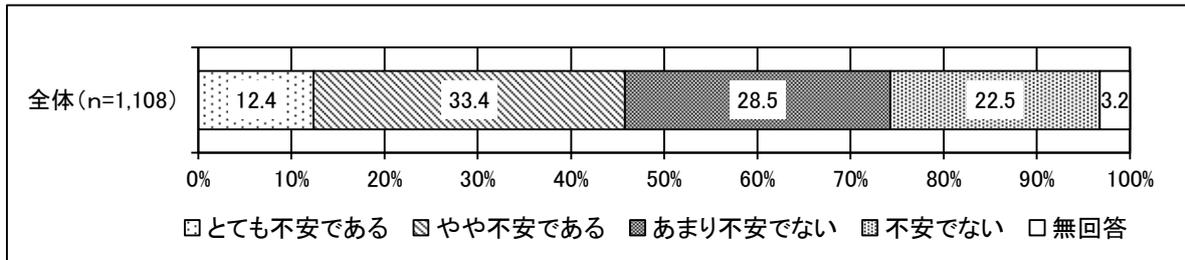
◇図 13 過去1年間に転んだ経験がありますか



(5) 転倒に対する不安は大きいですか

転倒に対する不安は大きいかについては、「やや不安である」(33.4%)と「とても不安である」(12.4%)を合わせた“不安である”が45.8%、「あまり不安でない」(28.5%)と「不安でない」(22.5%)を合わせた“不安でない”は51.0%であり、“不安でない”と回答した方の比率がやや高い。

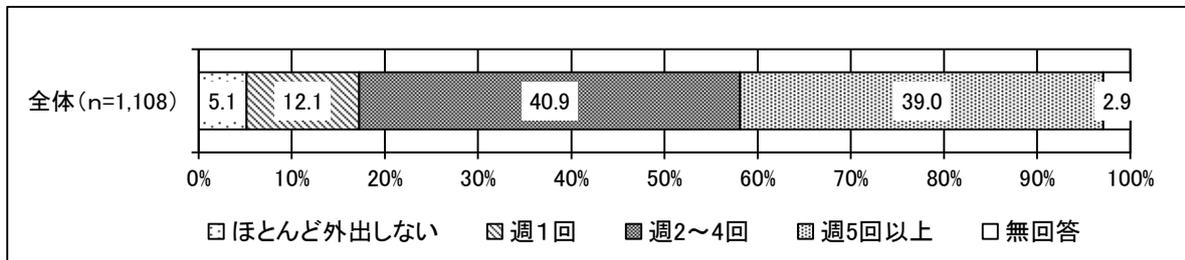
◇図 14 転倒に対する不安は大きいですか



(6) 週に1回以上は外出していますか

外出の頻度は、「週2~4回」が40.9%と最も高く、「週5回以上」が39.0%、「週1回」が12.1%となっており、「ほとんど外出しない」は5.1%となっている。

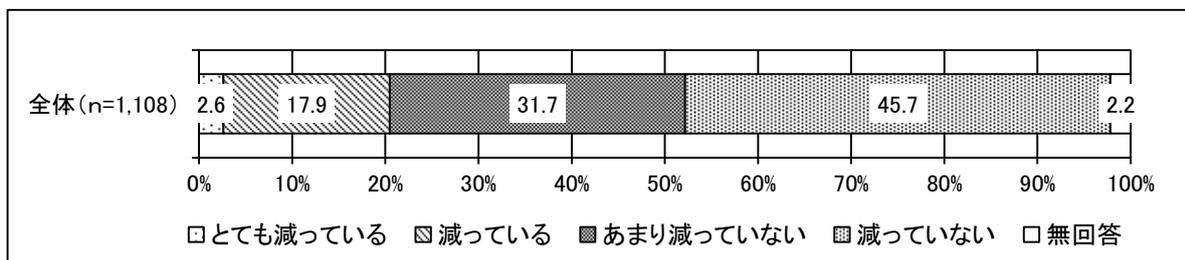
◇図 15 週に1回以上は外出していますか



(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「減っていない」が45.7%と最も高く、「あまり減っていない」は31.7%、「減っている」は17.9%、「とても減っている」は2.6%となっている。

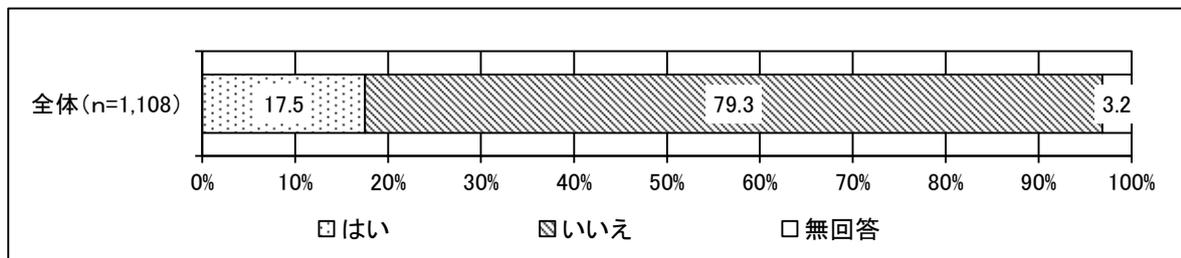
◇図 16 昨年と比べて外出の回数が減っていますか



(8) 外出を控えていますか

外出を控えているかについては、「いいえ」が79.3%と多数を占めており、「はい」は17.5%となっている。

◇図17 外出を控えていますか

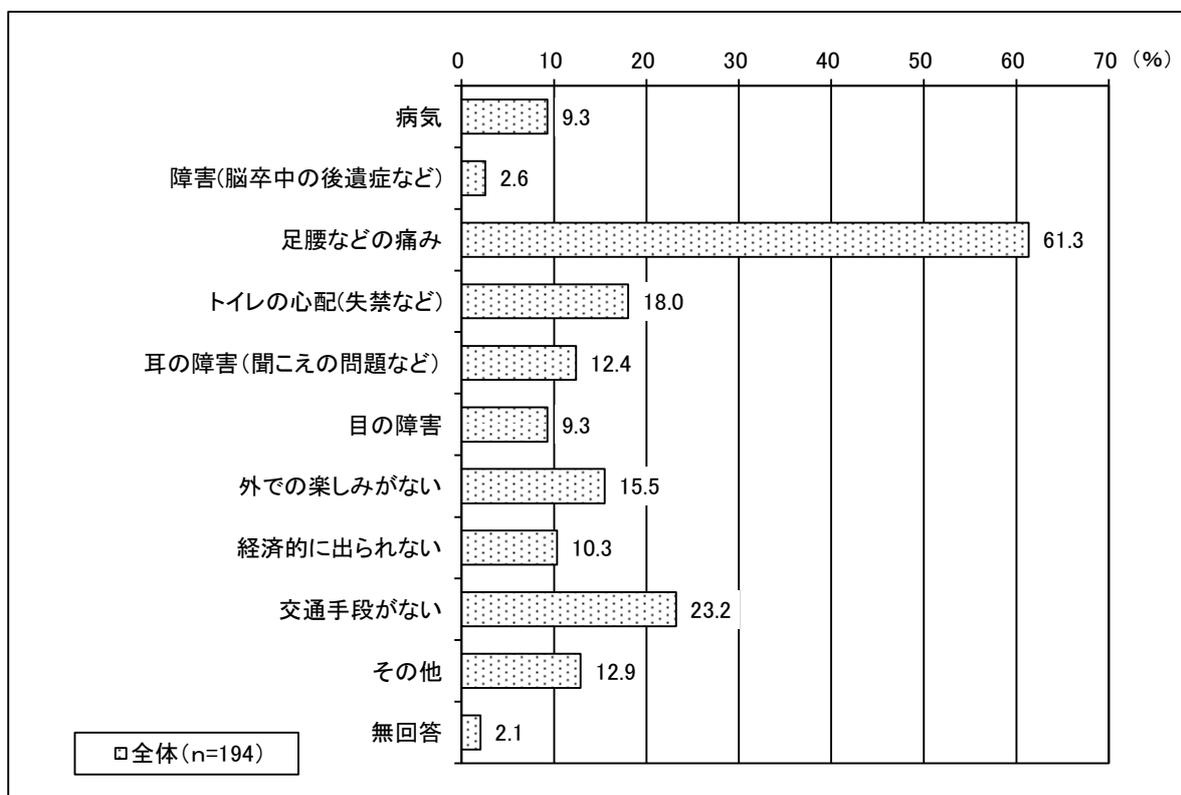


【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

①外出を控えている理由は何ですか(いくつでも)

外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が61.3%と最も高く、以下、「交通手段がない」(23.2%)、「トイレの心配(失禁など)」(18.0%)、「外での楽しみがない」(15.5%)、「耳の障害(聞こえの問題など)」(12.4%)と続いている。なお、その他(12.9%)では、“介護”や“用事がない”などの回答があった。

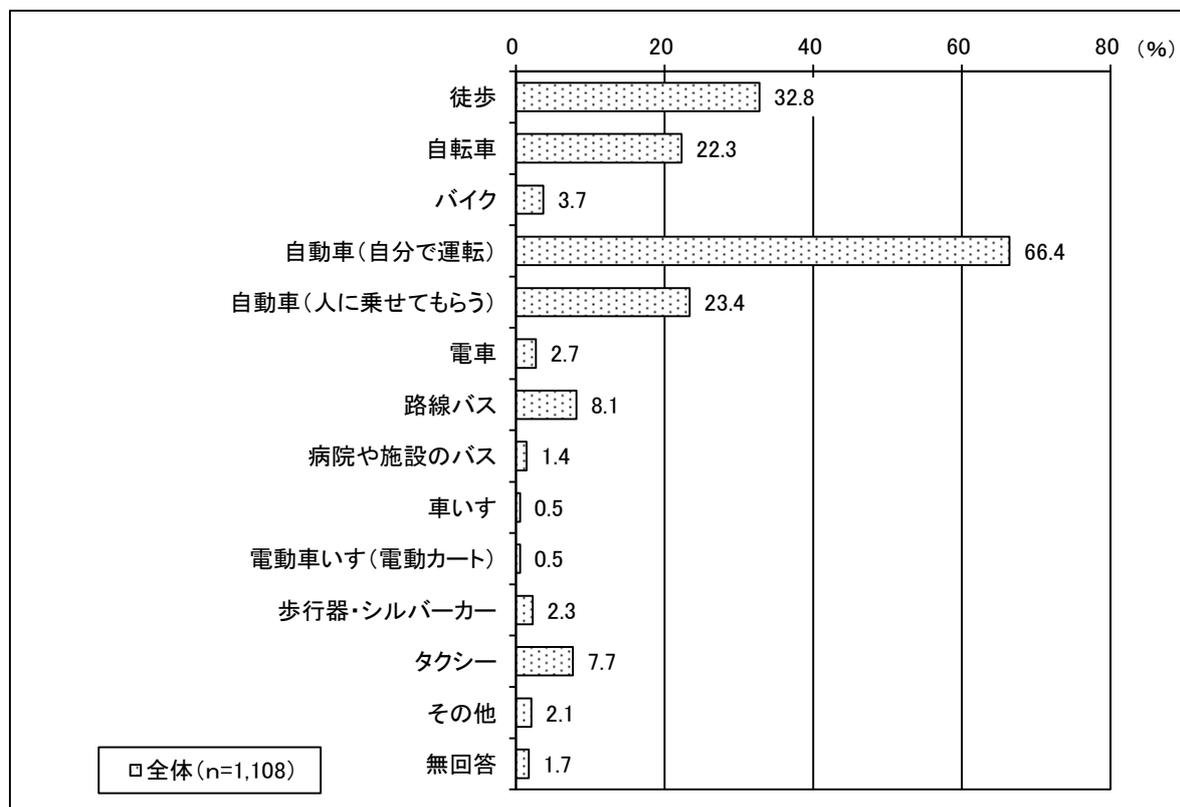
◇図18 外出を控えている理由は何ですか



(9) 外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも)

外出する際の移動手段については、「自動車 (自分で運転)」が 66.4%と最も高く、以下、「徒歩」(32.8%)、「自動車 (人に乗せてもらう)」(23.4%)、「自転車」(22.3%)と続いている。

◇図 19 外出する際の移動手段は何ですか

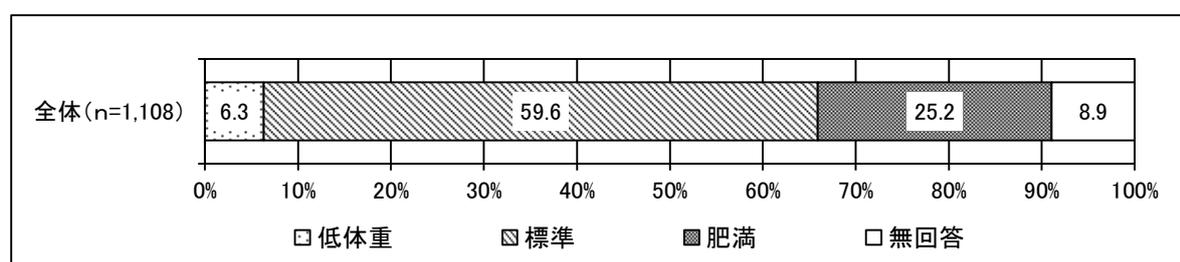


3 食べることについて

(1) 身長・体重

体重と身長の関係から肥満度を表すボディマス指数 (BMI : Body Mass Index) により肥満度を算出すると、「標準」(BMIが 18.5 以上 25.0 未満)が 59.6%と過半数を占めており、「肥満」(同 25.0 以上)は 25.2%、「低体重」(同 18.5 未満)は 6.3%となっている。

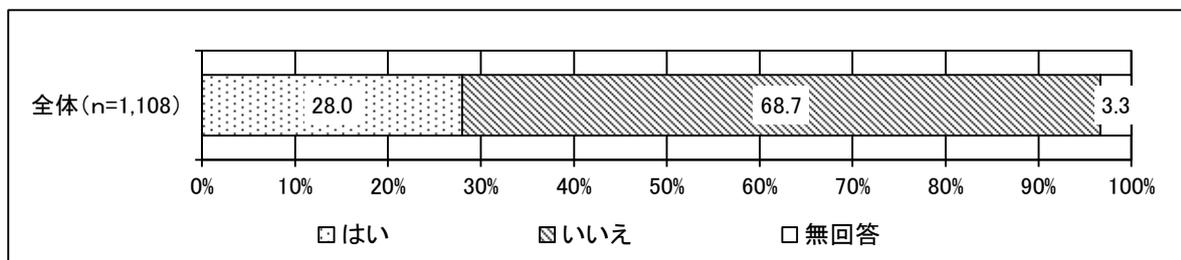
◇図 20 身長・体重



(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「いいえ」が 68.7%と過半数を占め、「はい」は 28.0%となっている。

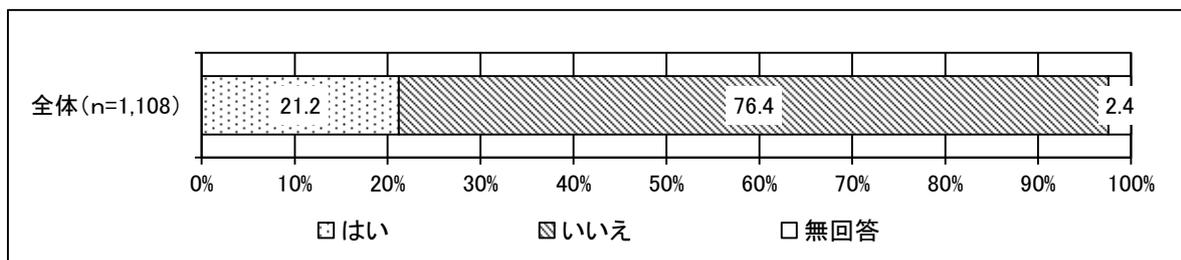
◇図 21 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか



(3) お茶や汁物などでむせることがありますか

お茶や汁物などでむせることがあるかについては、「いいえ」が 76.4%と多数を占め、「はい」は 21.2%となっている。

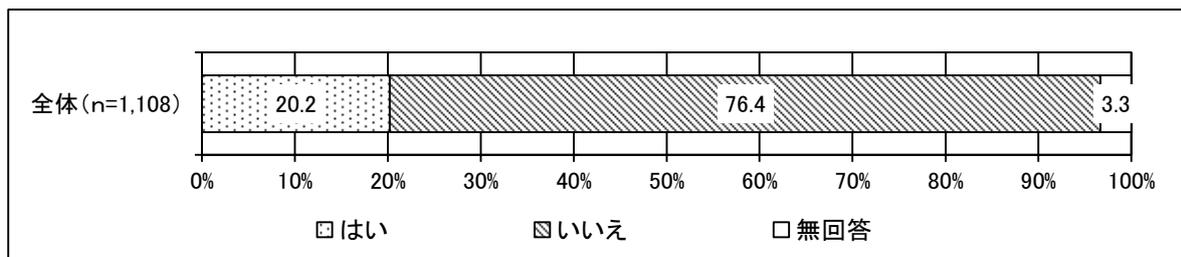
◇図 22 お茶や汁物などでむせることがありますか



(4) 口の渇きが気になりますか

口の渇きが気になるかについては、「いいえ」が 76.4%と多数を占め、「はい」は 20.2%となっている。

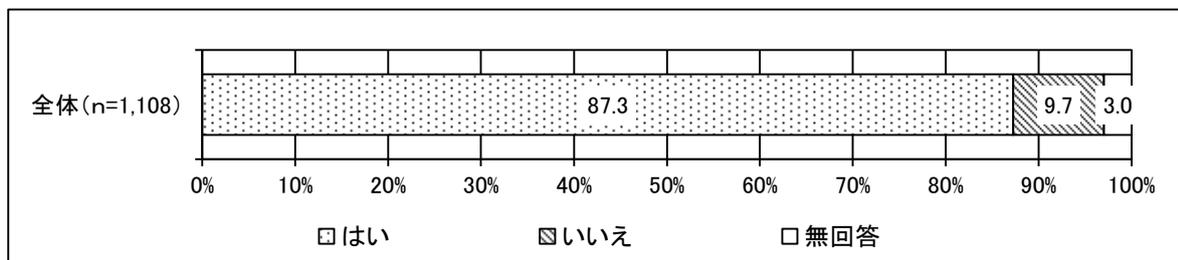
◇図 23 口の渇きが気になりますか



(5) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか

歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているかについては、「はい」が87.3%と多数を占め、「いいえ」は9.7%となっている。

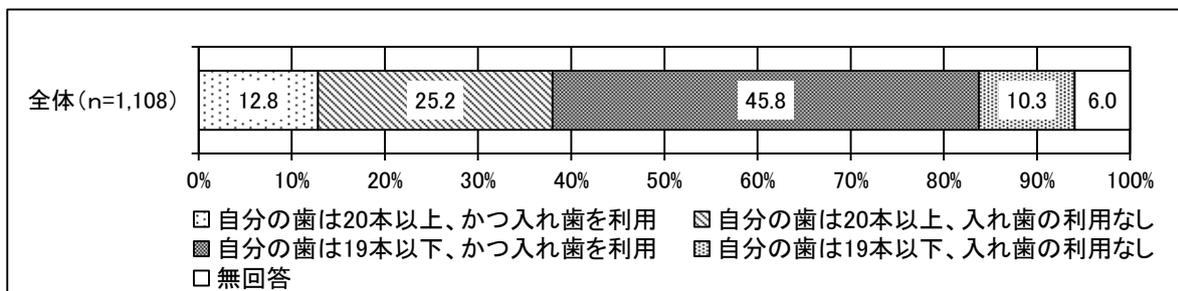
◇図 24 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか



(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が45.8%、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が25.2%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が12.8%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が10.3%となっている。

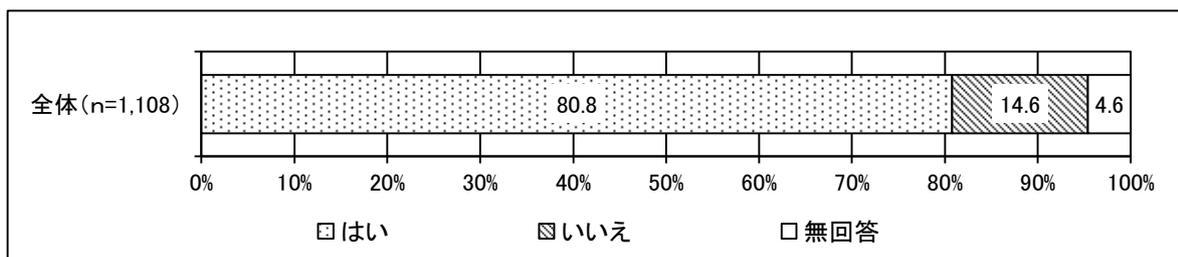
◇図 25 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください



①噛み合わせは良いですか

噛み合わせは良いかについては、「はい」が80.8%と多数を占めており、「いいえ」は14.6%となっている。

◇図 26 噛み合わせは良いですか

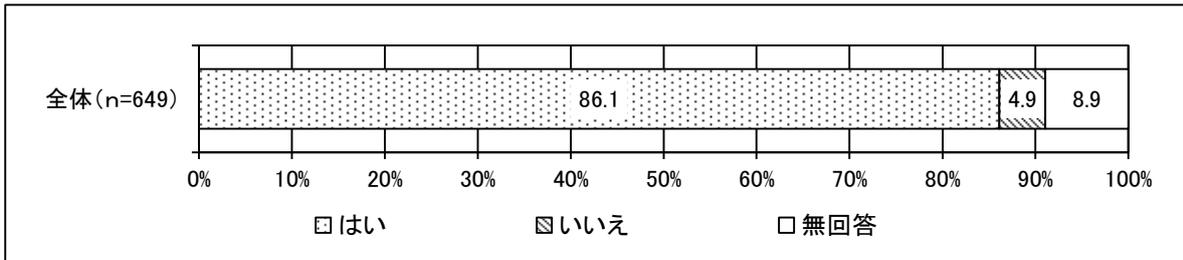


【(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】

②毎日入れ歯の手入れをしていますか

毎日入れ歯の手入れをしているかについては、「はい」が86.1%と多数を占めており、「いいえ」は4.9%となっている。

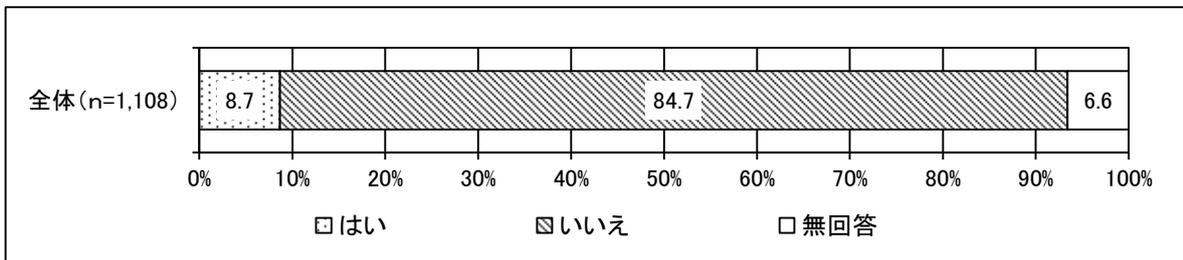
◇図 27 毎日入れ歯の手入れをしていますか



(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「いいえ」が84.7%と多数を占めており、「はい」は8.7%となっている。

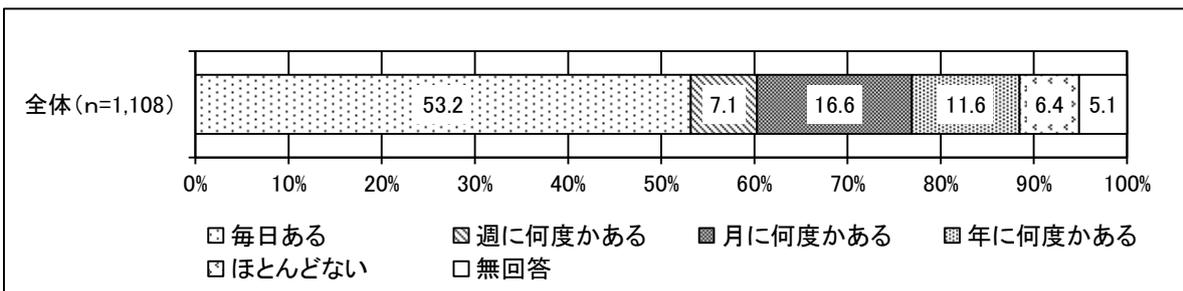
◇図 28 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか



(8) どなたかと食事をとにもする機会がありますか

どなたかと食事をとにもする機会はあるかについては、「毎日ある」が53.2%と最も高く、以下、「月に何度かある」(16.6%)、「年に何度かある」(11.6%)、「週に何度かある」(7.1%)と続いており、「ほとんどない」は6.4%となっている。

◇図 29 どなたかと食事をとにもする機会がありますか

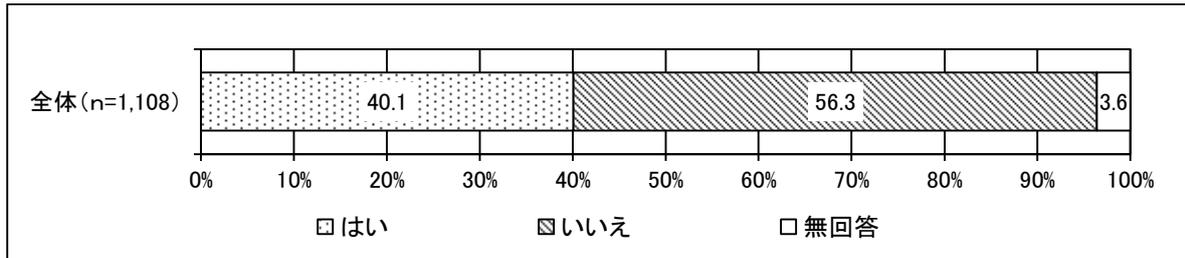


4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか

物忘れが多いと感じるかについては、「いいえ」が 56.3%、「はい」が 40.1%と、「はい」の比率が 16.2 ポイント高くなっている。

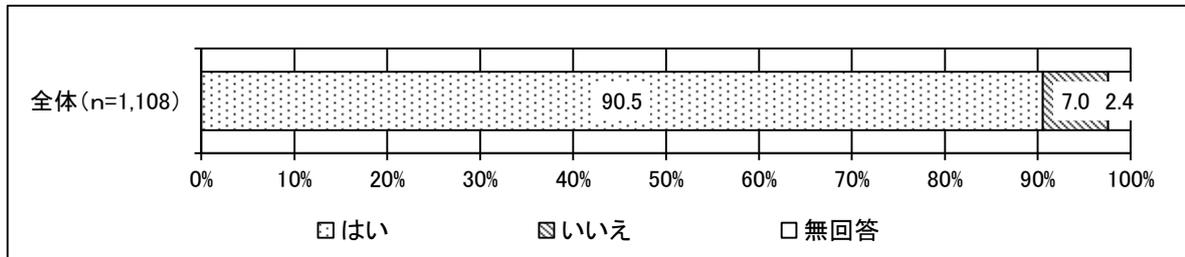
◇図 30 物忘れが多いと感じますか



(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについては、「はい」が 90.5%と多数を占め、「いいえ」は 7.0%となっている。

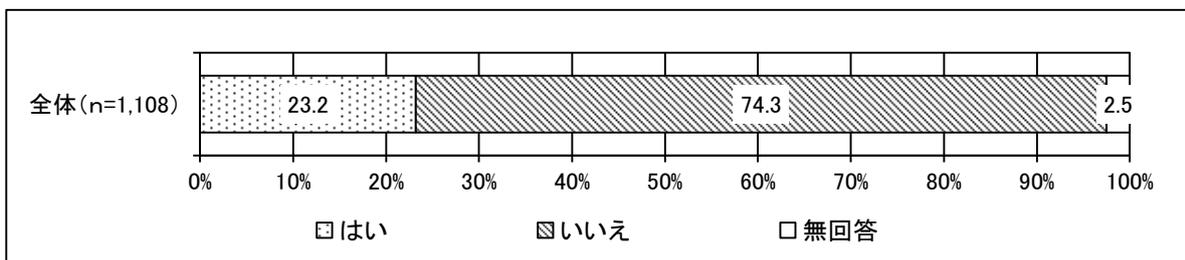
◇図 31 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか



(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか

今日が何月何日かわからない時があるかについては、「いいえ」が 74.3%と多数を占め、「はい」は 23.2%となっている。

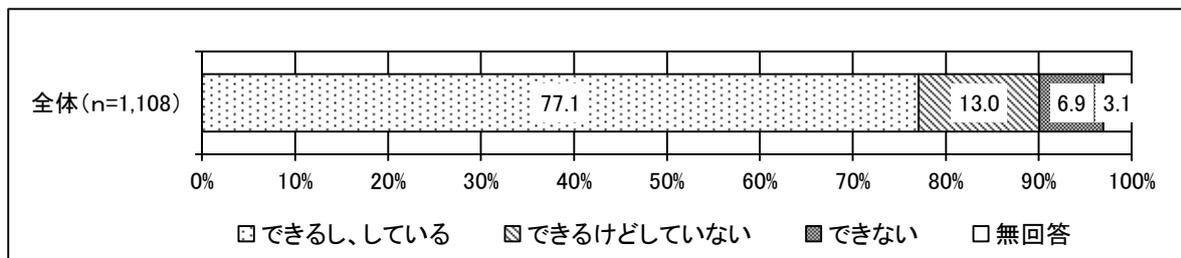
◇図 32 今日が何月何日かわからない時がありますか



(4) バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）

バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が77.1%と多数を占めており、「できるけどしていない」は13.0%、「できない」は6.9%となっている。

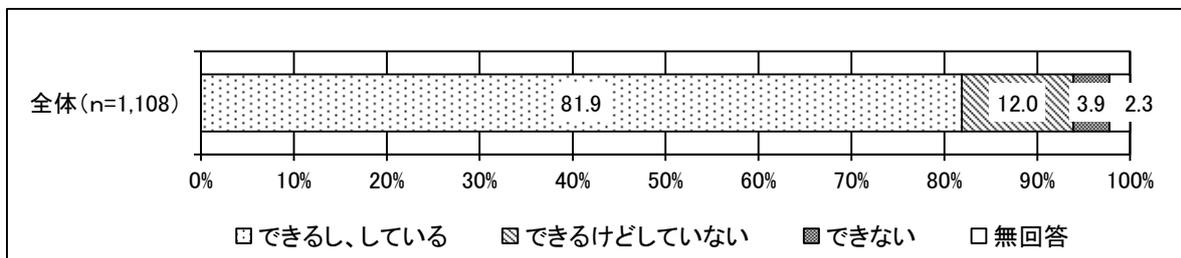
◇図 33 バスや電車を使って1人で外出していますか



(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が81.9%と多数を占めており、「できるけどしていない」は12.0%、「できない」は3.9%となっている。

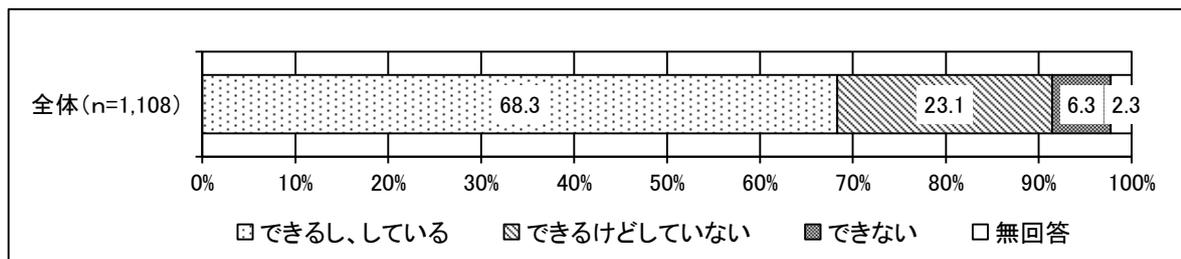
◇図 34 自分で食品・日用品の買物をしていますか



(6) 自分で食事の用意をしていますか

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が68.3%と過半数を占めており、「できるけどしていない」は23.1%、「できない」は6.3%となっている。

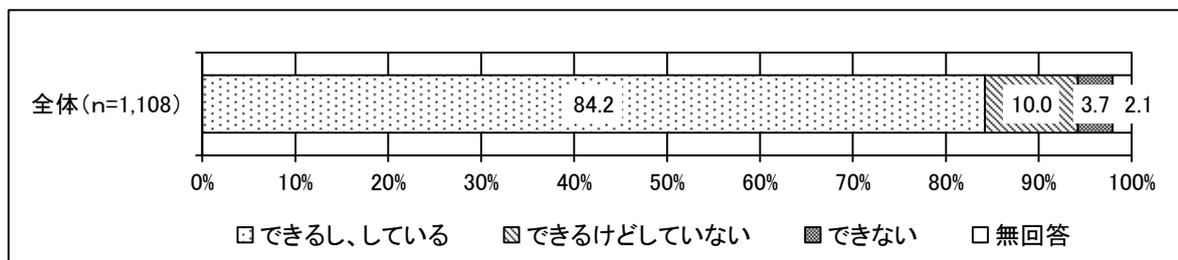
◇図 35 自分で食事の用意をしていますか



(7) 自分で請求書の支払いをしていますか

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が84.2%と多数を占めており、「できるけどしていない」は10.0%、「できない」は3.7%となっている。

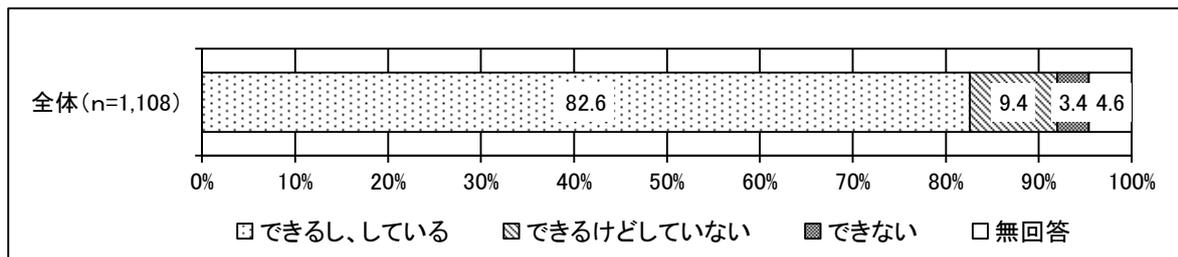
◇図 36 自分で請求書の支払いをしていますか



(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が82.6%と多数を占めており、「できるけどしていない」は9.4%、「できない」は3.4%となっている。

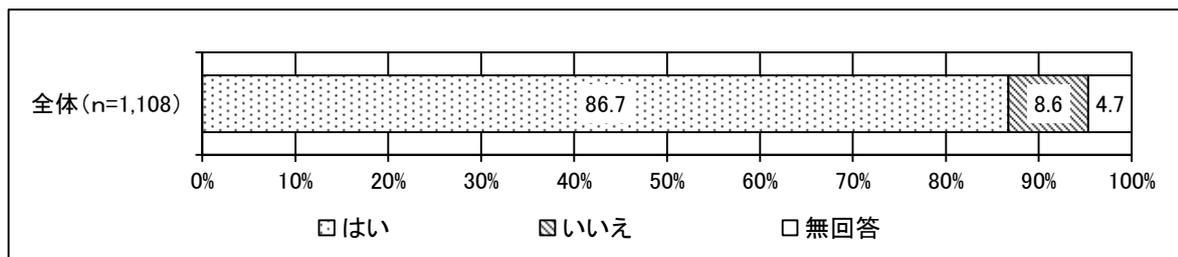
◇図 37 自分で預貯金の出し入れをしていますか



(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか

年金などの書類を書けるかについては、「はい」が86.7%と多数を占めており、「いいえ」は8.6%となっている。

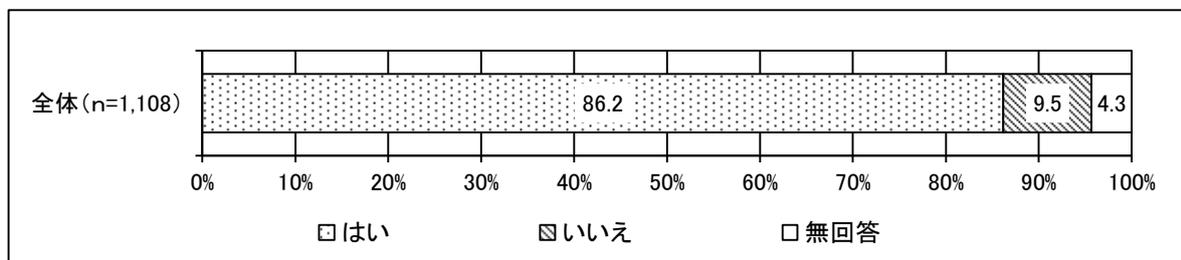
◇図 38 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか



(10) 新聞を読んでいますか

新聞を読んでいるかについては、「はい」が86.2%と多数を占めており、「いいえ」は9.5%となっている。

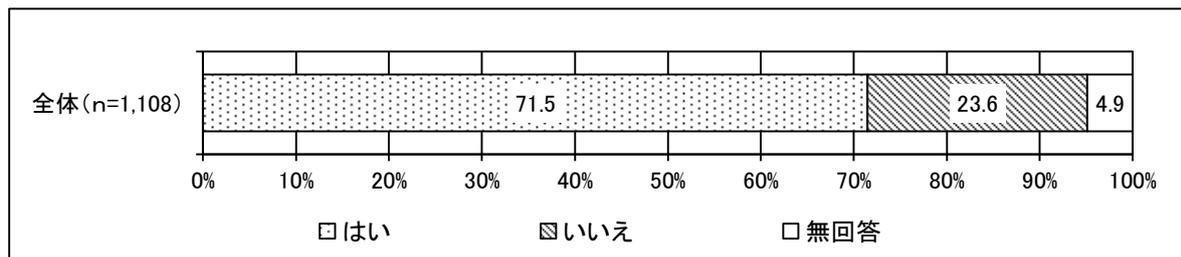
◇図 39 新聞を読んでいますか



(11) 本や雑誌を読んでいますか

本や雑誌を読んでいるかについては、「はい」が71.5%と多数を占めており、「いいえ」は23.6%となっている。

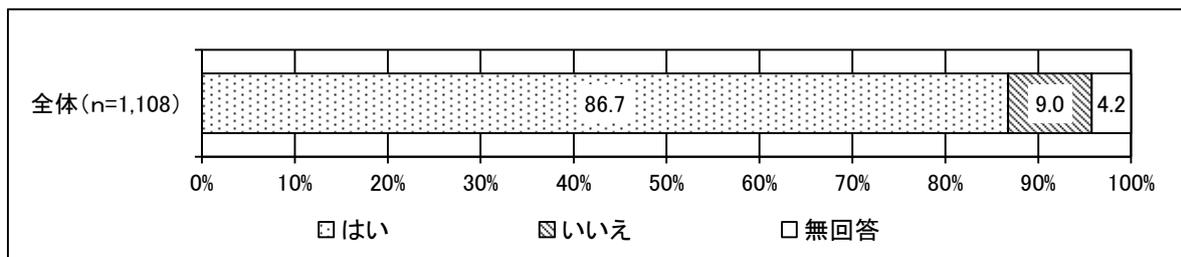
◇図 40 本や雑誌を読んでいますか



(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか

健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が86.7%と多数を占めており、「いいえ」は9.0%となっている。

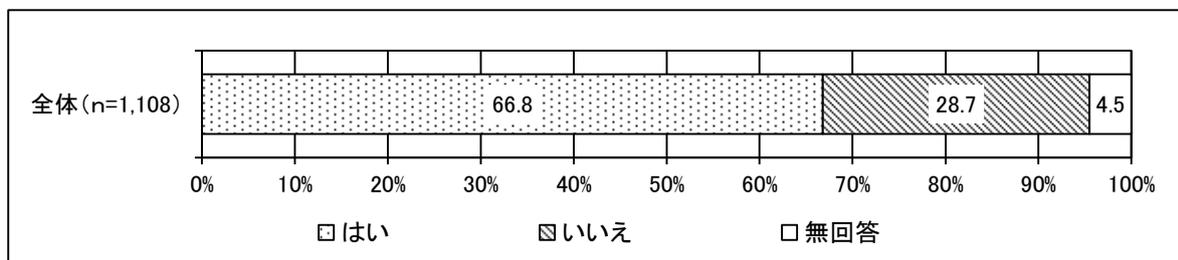
◇図 41 健康についての記事や番組に関心がありますか



(13) 友人の家を訪ねていますか

友人の家を訪ねているかについては、「はい」が66.8%と過半数を占めており、「いいえ」は28.7%となっている。

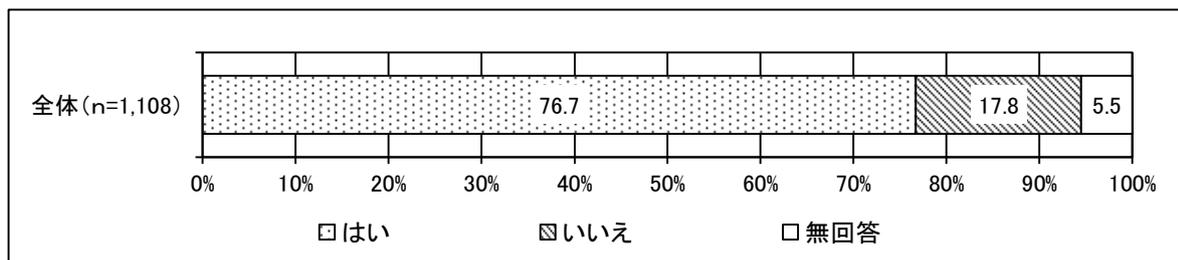
◇図42 友人の家を訪ねていますか



(14) 家族や友人の相談にのっていますか

家族や友人の相談にのっているかについては、「はい」が76.7%と多数を占めており、「いいえ」は17.8%となっている。

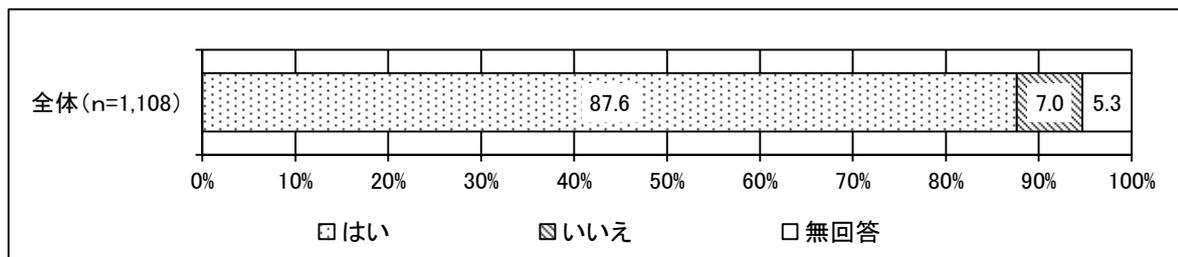
◇図43 家族や友人の相談にのっていますか



(15) 病人を見舞うことができますか

病人を見舞うことができるかについては、「はい」が87.6%と多数を占めており、「いいえ」は7.0%となっている。

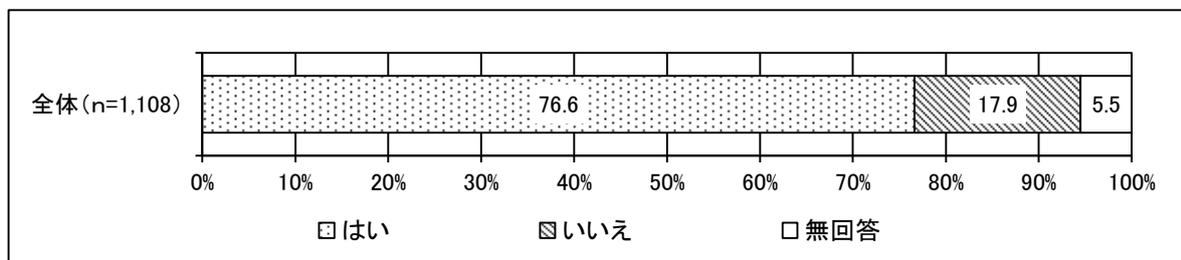
◇図44 病人を見舞うことができますか



(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか

若い人に自分から話しかけることがあるかについては、「はい」が76.6%と多数を占めており、「いいえ」は17.9%となっている。

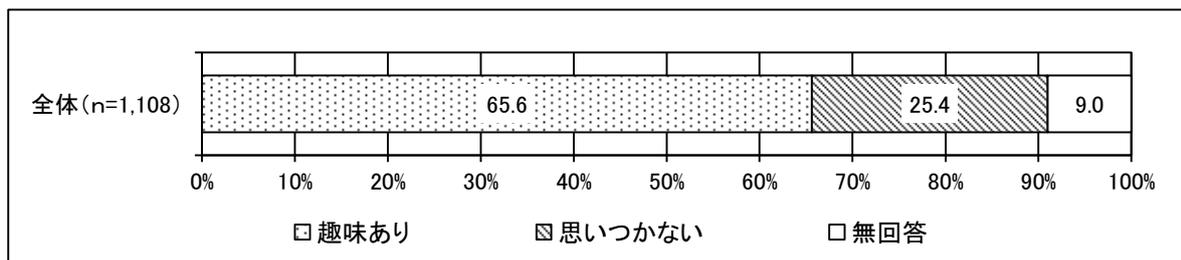
◇図45 若い人に自分から話しかけることがありますか



(17) 趣味はありますか

趣味はあるかについては、「趣味あり」が65.6%と過半数を占めており、「思いつかない」は25.4%となっている。

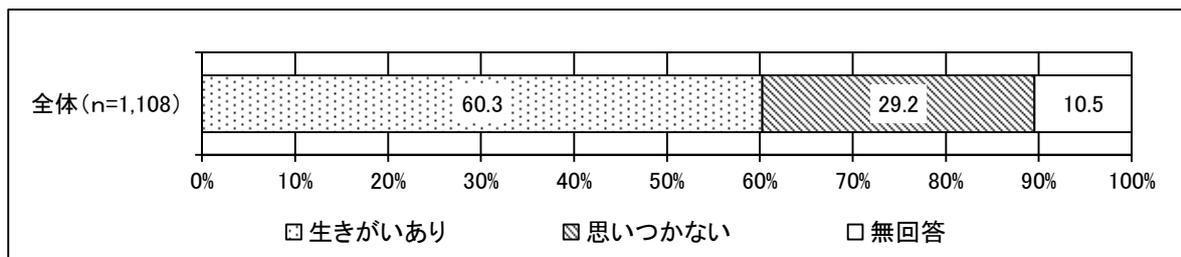
◇図46 趣味はありますか



(18) 生きがいがありますか

生きがいはあるかについては、「生きがいあり」が60.3%と過半数を占めており、「思いつかない」は29.2%となっている。

◇図47 生きがいがありますか



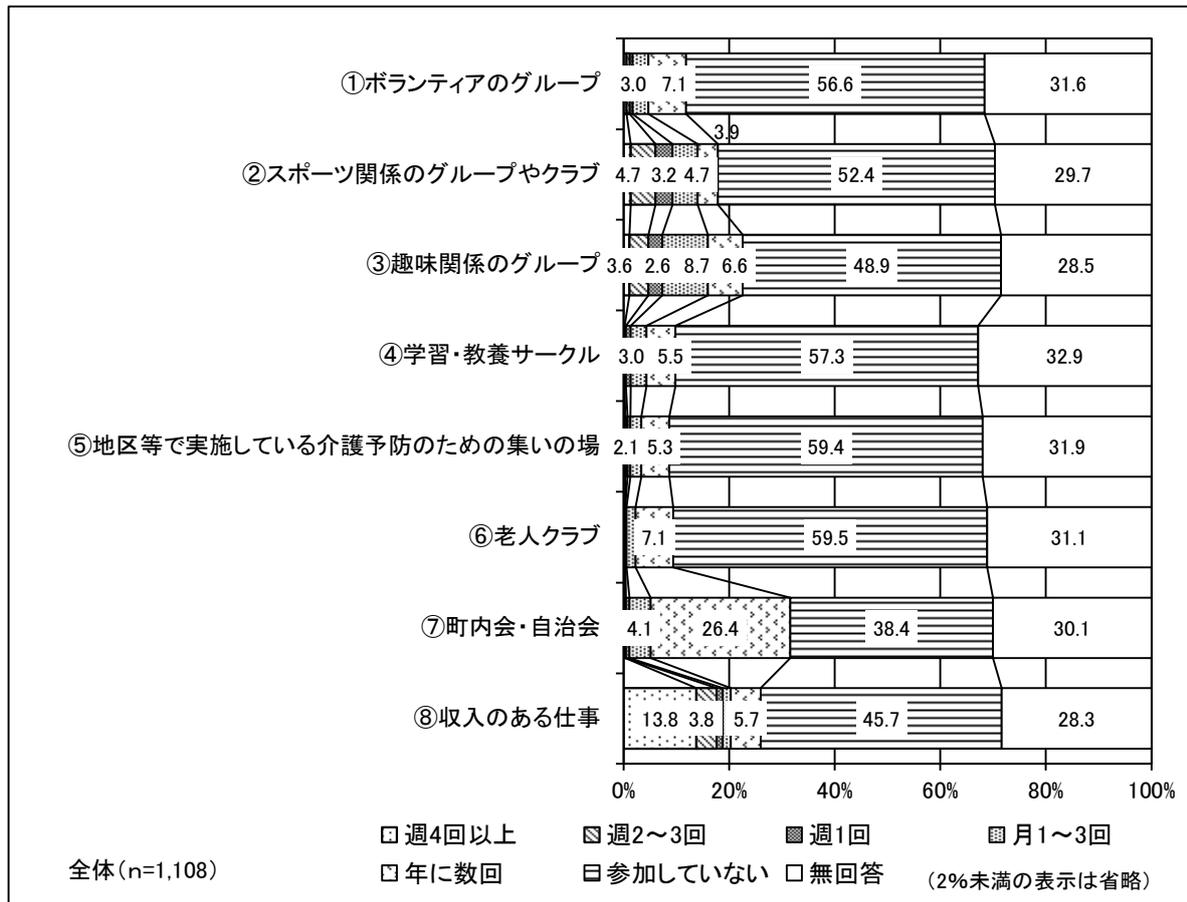
5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

年に数回以上参加している人の比率は、①ボランティアのグループは11.7%、②スポーツ関係のグループ・クラブは17.9%、③趣味関係のグループは22.6%、④学習・教養サークルは9.9%、⑤地区等で実施している介護予防のための集いの場は8.7%、⑥老人クラブは9.4%、⑦町内会・自治会は31.6%、⑧収入のある仕事は26.0%となっている。

また、週4回以上は「⑧収入のある仕事」(13.8%)が、週2~3回は「②スポーツ関係のグループやクラブ」(4.7%)が、週1回は「②スポーツ関係のグループやクラブ」(3.2%)が、月1~3回は「③趣味関係のグループ」(8.7%)が、年に数回は「⑦町内会・自治会」(26.4%)が、それぞれ高い比率となっている。

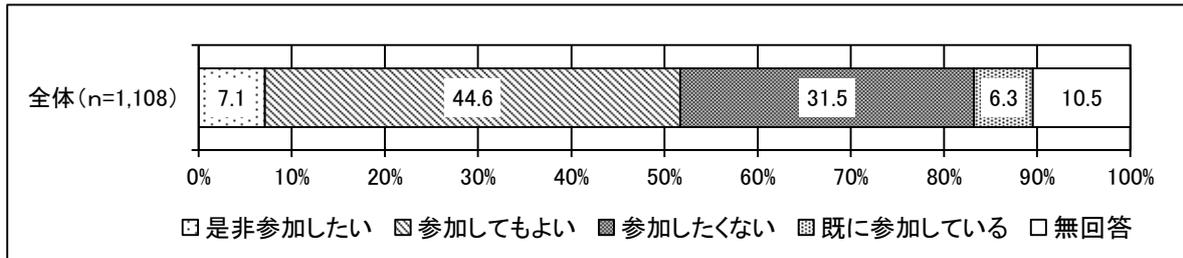
◇図48 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか



(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

健康づくり等活動への参加者としての参加意向については、「参加してもよい」が44.6%と最も高く、「是非参加したい」(7.1%)と合わせて、参加意向がある方は51.7%と半数以上である。一方、「参加したくない」は31.5%となっている。

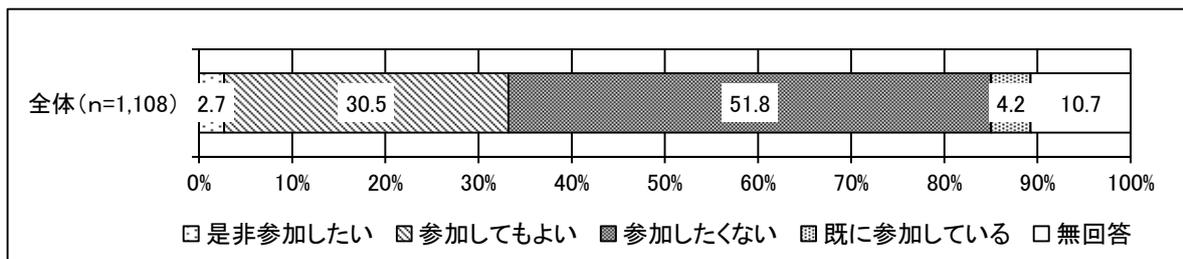
◇図 49 活動に参加者として参加してみたいと思いますか



(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動の企画・運営に参加してみたいと思いますか

健康づくり等活動への企画・運営への参加意向については、「参加してもよい」が30.5%、「是非参加したい」が2.7%と、合わせて参加意向がある方は33.2%となる。一方、「参加したくない」は51.8%と半数以上となっている。

◇図 50 活動の企画・運営に参加してみたいと思いますか

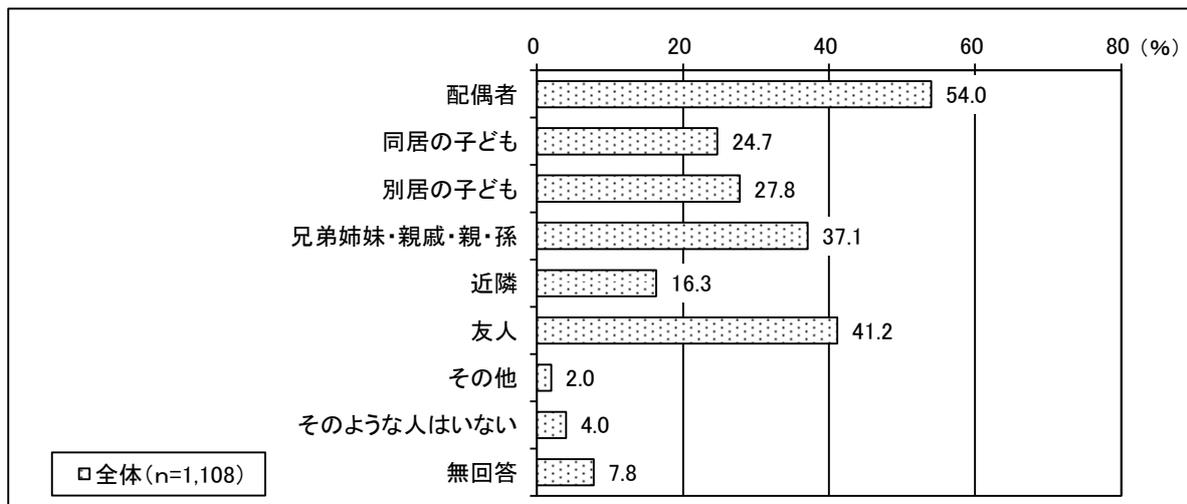


6 たすけあいについて

(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「配偶者」が54.0%と最も高く、以下、「友人」(41.2%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(37.1%)、「別居の子ども」(27.8%)、「同居の子ども」(24.7%)と続いている。なお、「そのような人はいない」は4.0%である。

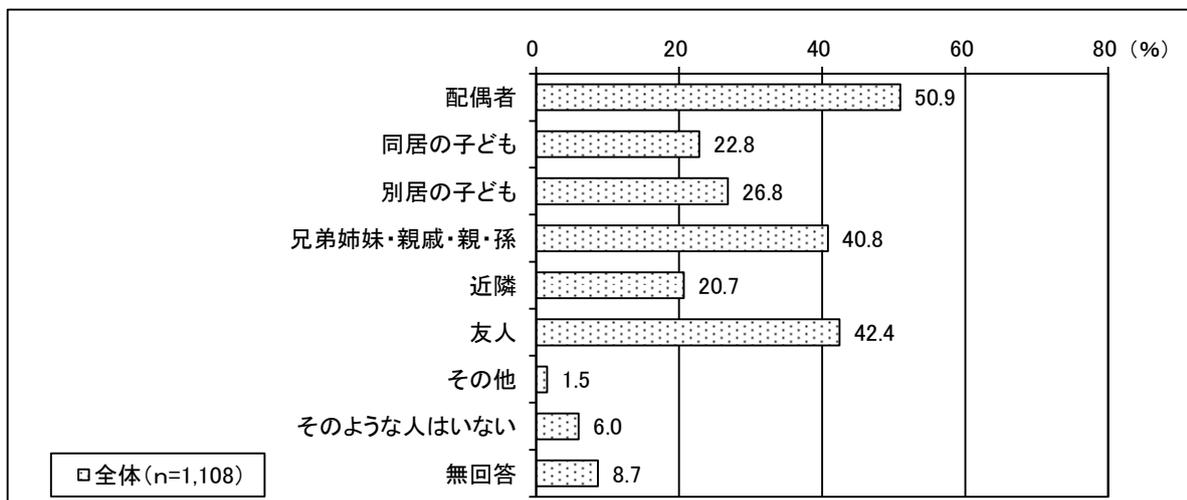
◇図 51 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人



(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」が50.9%と最も高く、以下、「友人」(42.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(40.8%)、「別居の子ども」(26.8%)、「同居の子ども」(22.8%)と続いている。なお、「そのような人はいない」は6.0%である。

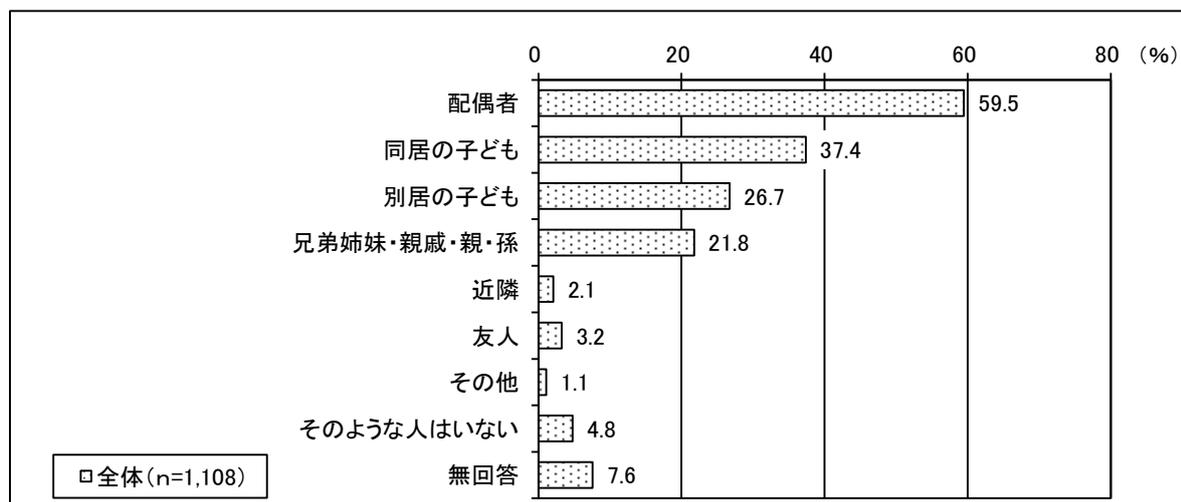
◇図 52 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人



(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が59.5%と最も高く、以下、「同居の子ども」(37.4%)、「別居の子ども」(26.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(21.8%)と続いている。なお、「そのような人はいない」は4.8%である。

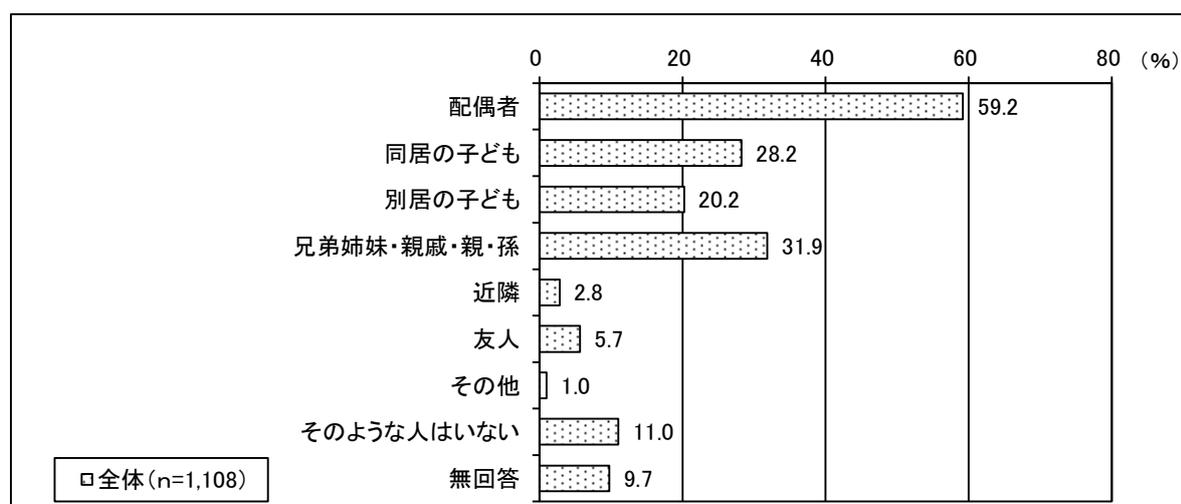
◇図 53 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

あなたが看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」が59.2%と最も高く、以下、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(31.9%)、「同居の子ども」(28.2%)、「別居の子ども」(20.2%)と続いている。なお、「そのような人はいない」は11.0%である。

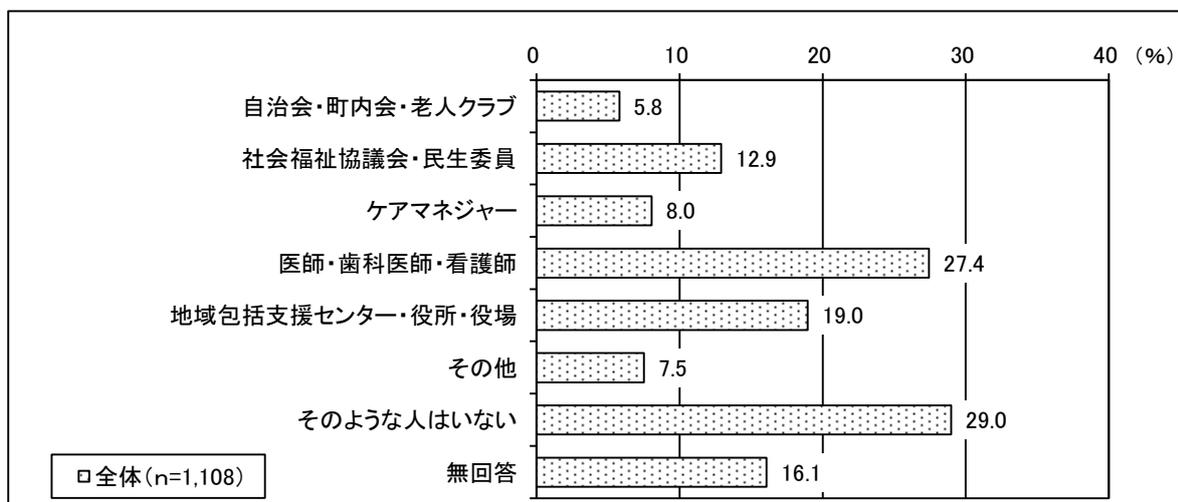
◇図 54 反対に、看病や世話をしてあげる人



(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
(いくつでも)

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、「そのような人はいない」が29.0%で最も高い。相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が27.4%で最も高く、以下、「地域包括支援センター・役所・役場」が19.0%、「社会福祉協議会・民生委員」が12.9%と続いている。

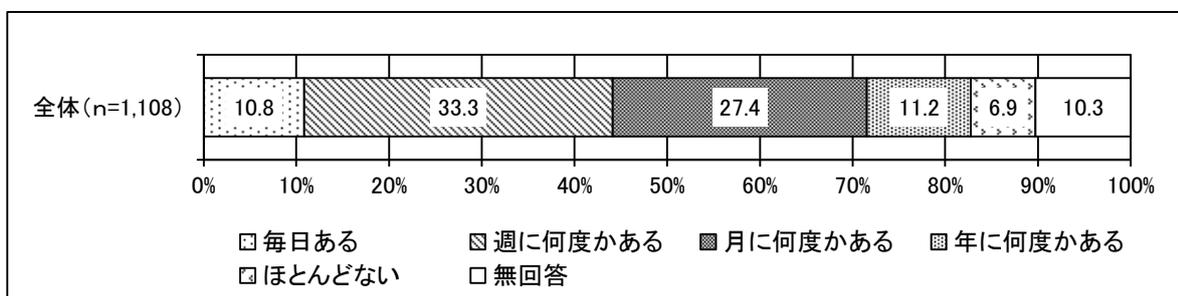
◇図 55 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください



(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

友人・知人と会う頻度については、「週に何度かある」が33.3%と最も高く、以下、「月に何度かある」(27.4%)、「年に何度かある」(11.2%)、「毎日ある」(10.8%)と続き、「ほとんどない」は6.9%となっている。

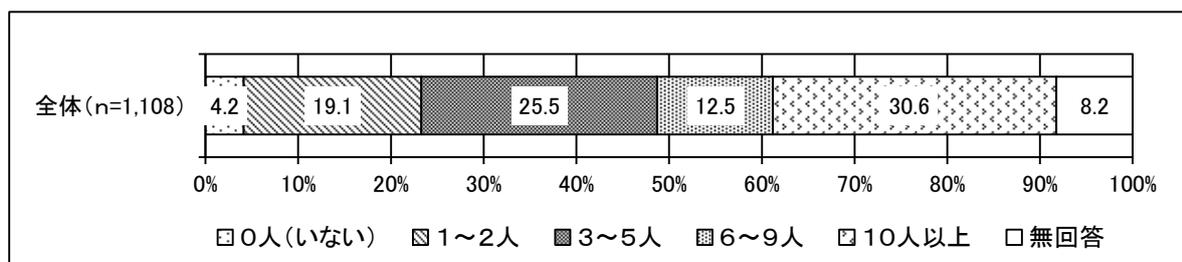
◇図 56 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか



(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします

この1か月間、何人の友人・知人と会ったかについては、「10人以上」が30.6%と最も高く、以下、「3～5人」(25.5%)、「1～2人」(19.1%)、「6～9人」(12.5%)、「0人(いない)」(4.2%)となっている。

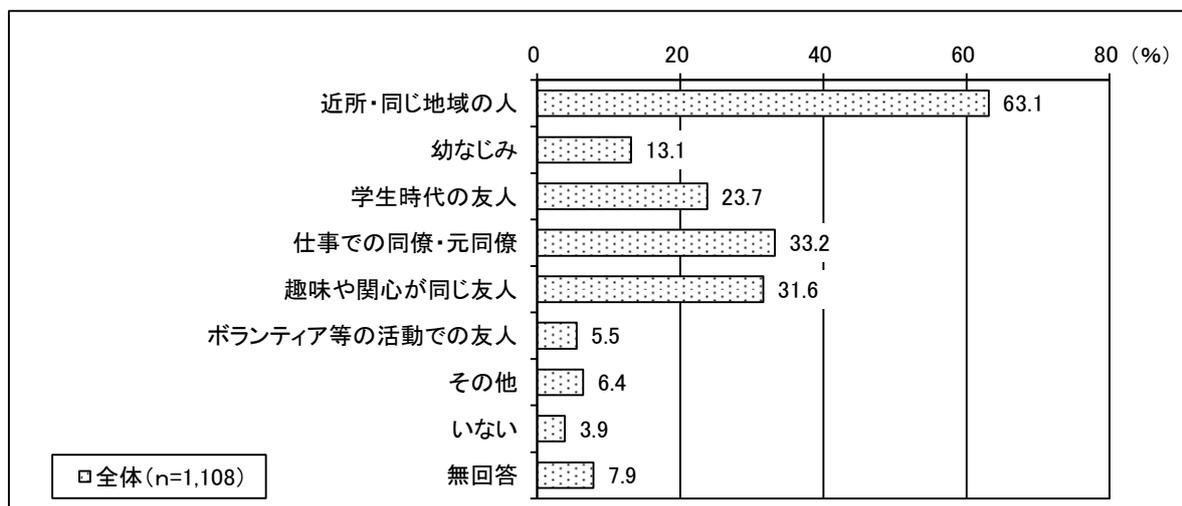
◇図 57 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか



(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (いくつでも)

よく会う友人・知人については、「近所・同じ地域の人」が63.1%と最も高く、以下、「仕事での同僚・元同僚」(33.2%)、「趣味や関心が同じ友人」(31.6%)、「学生時代の友人」(23.7%)と続いている。

◇図 58 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか

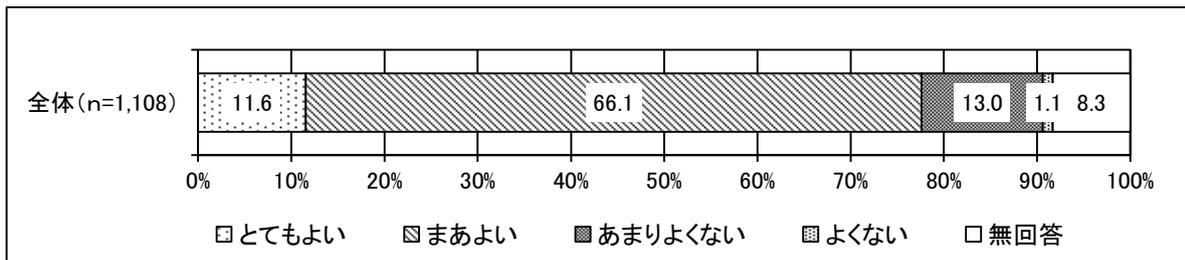


7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

健康状態については、「まあよい」が66.1%と過半数を占めており、「とてもよい」(11.6%)と合わせて“よい”が77.7%である。一方、「あまりよくない」(13.0%)と「よくない」(1.1%)を合わせて“よくない”は14.1%となっている。

◇図 59 現在のあなたの健康状態はいかがですか

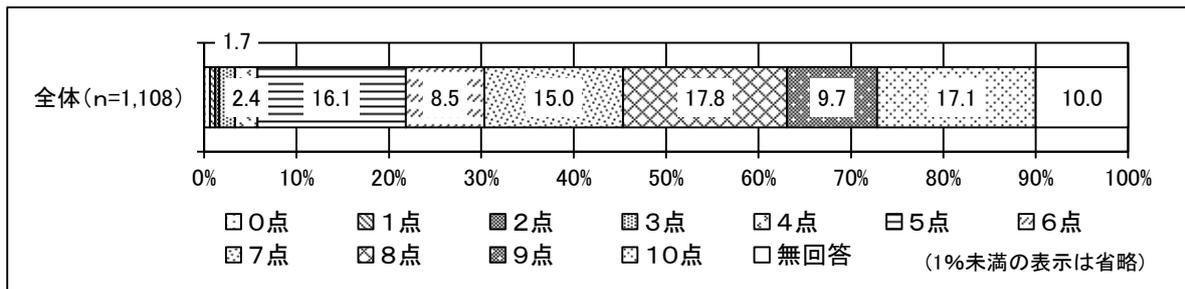


(2) あなたは、現在どの程度幸せですか

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

幸せの度合いについて、とても不幸を0点、とても幸せを10点とすると、「8点」が17.8%と最も高く、以下「10点」(17.1%)、「5点」(16.1%)、「7点」(15.0%)、「9点」(9.7%)、「6点」(8.5%)と続いており、平均点は7.27点となっている。

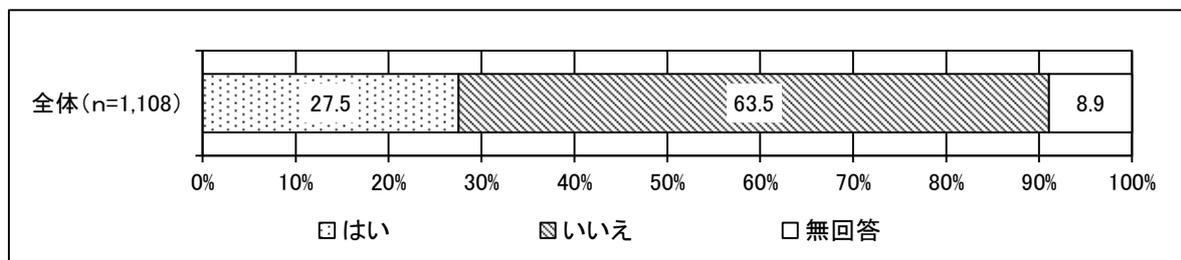
◇図 60 あなたは、現在どの程度幸せですか



(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「いいえ」が63.5%と過半数を占めており、「はい」は27.5%となっている。

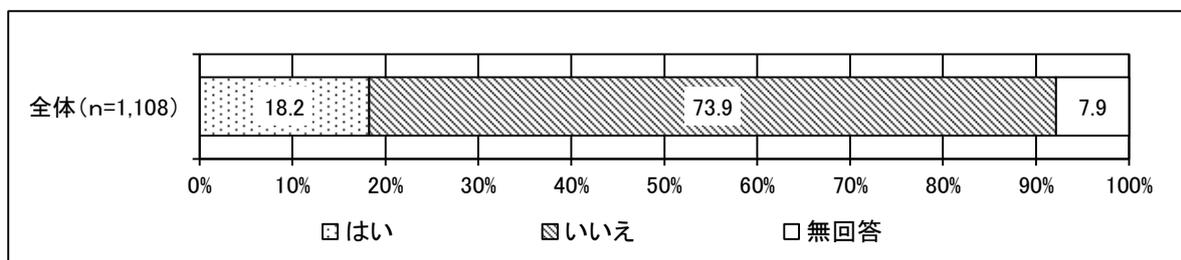
◇図 61 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか



(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかについては、「いいえ」が73.9%と多数を占めており、「はい」は18.2%となっている。

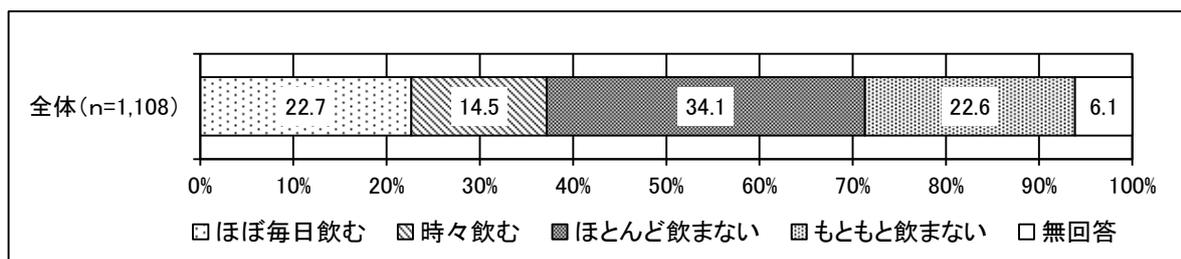
◇図 62 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか



(5) お酒は飲みますか

飲酒の状況については、「ほとんど飲まない」が34.1%と最も高く、「ほぼ毎日飲む」は22.7%、「もともと飲まない」が22.6%、「時々飲む」が14.5%となっている。

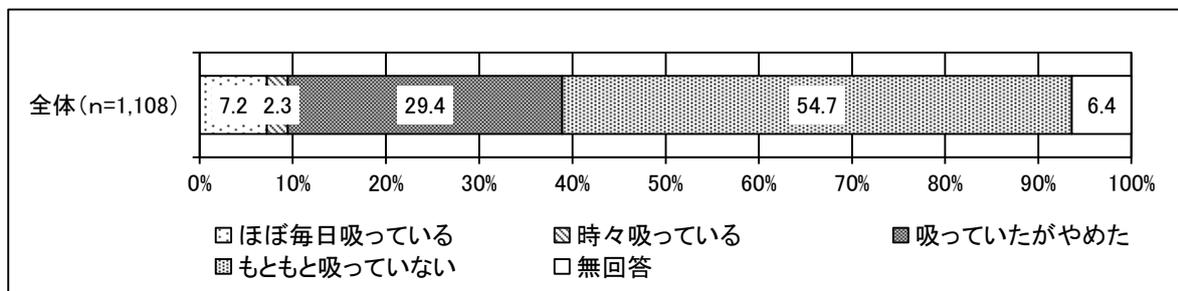
◇図 63 お酒は飲みますか



(6) タバコは吸っていますか

喫煙の状況については、「もともと吸っていない」が54.7%と最も高く、「吸っていたがやめた」が29.4%、「ほぼ毎日吸っている」は7.2%、「時々吸っている」が2.3%となっている。

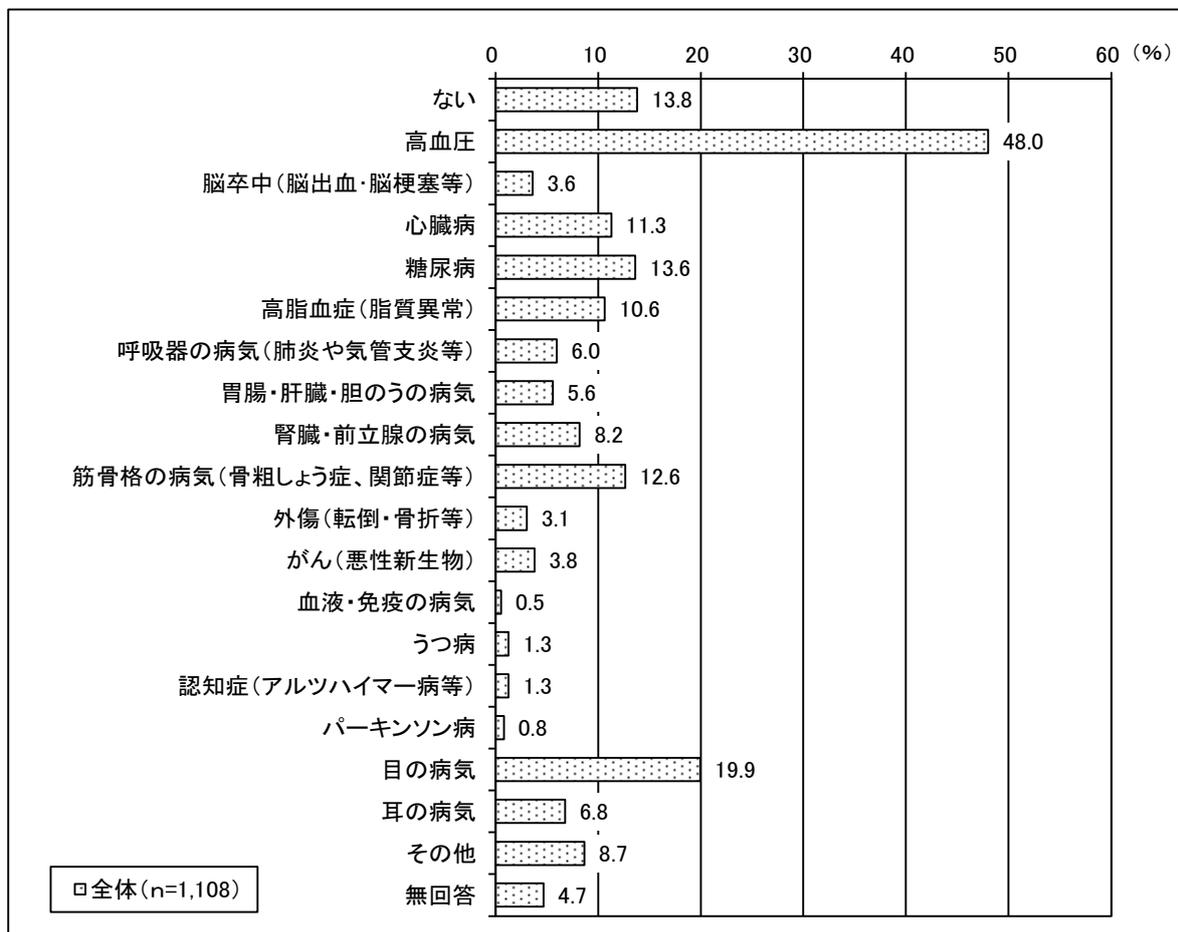
◇図 64 タバコは吸っていますか



(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が48.0%と最も高く、以下、「目の病気」(19.9%)、「糖尿病」(13.6%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(12.6%)、「心臓病」(11.3%)、「高脂血症(脂質異常)」(10.6%)と続いている。なお、「ない」は13.8%となっている。

◇図 65 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか

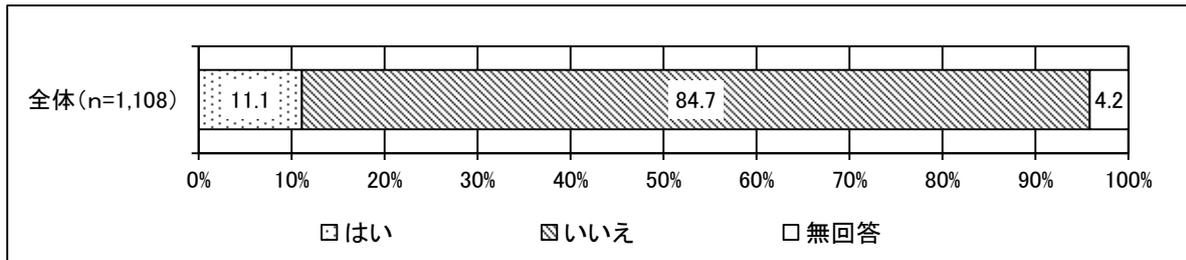


8 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「いいえ」が84.7%と多数を占めており、「はい」は11.1%となっている。

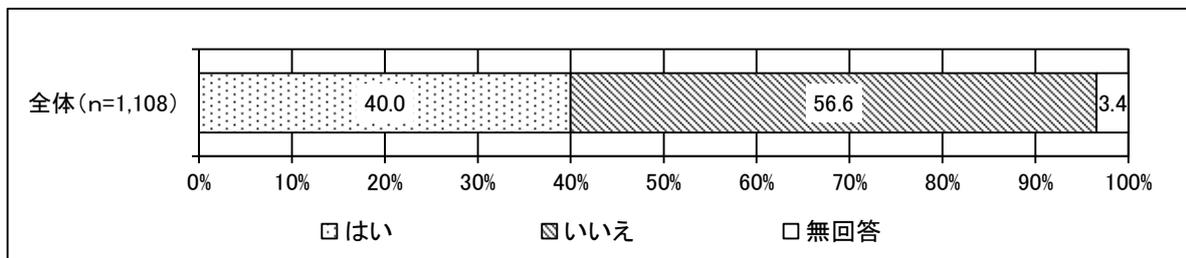
◇図 66 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか



(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「いいえ」が56.6%と半数を占めており、「はい」は40.0%となっている。

◇図 67 認知症に関する相談窓口を知っていますか



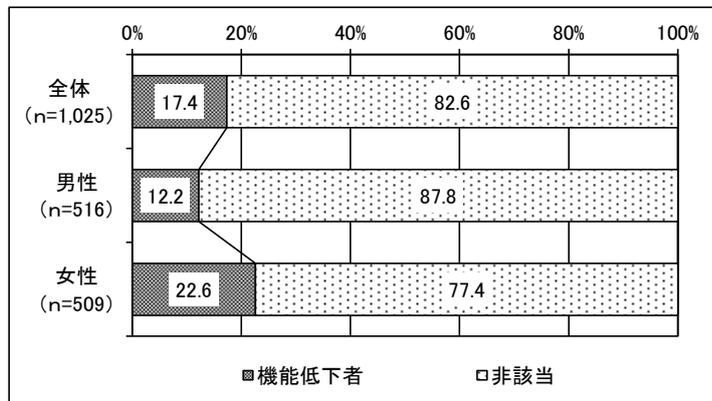
9 リスク判定

(1) 運動器

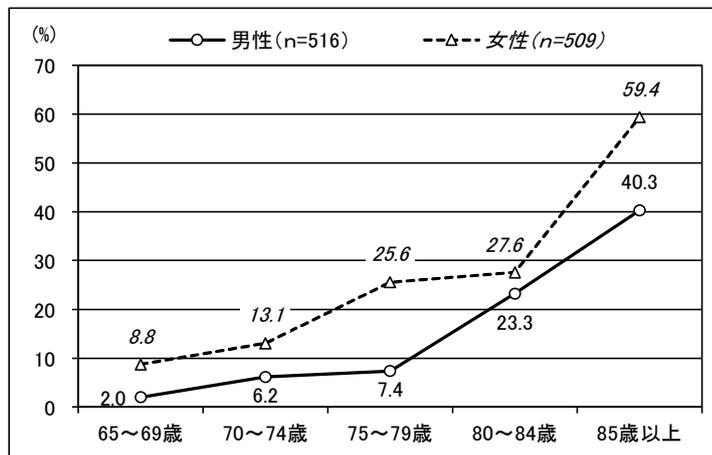
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、運動器機能の低下している高齢者を判断する。

運動器機能の低下者は、全体では17.4%となっており、性別では女性が、年齢別では年齢が高くなるほど機能低下者の割合は高くなり、特に85歳以上になると低下者割合が急増する。

◇図 68 運動器機能の低下者の状況



◇図 69 性・年齢階級別低下者の状況



◇判定方法

下記5問のうち3問以上該当する選択肢を回答した場合、運動器機能の低下している高齢者となる。

設問	該当する選択肢
問2(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問2(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問2(3) 15分位続けて歩いていますか	3. できない
問2(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
問2(5) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

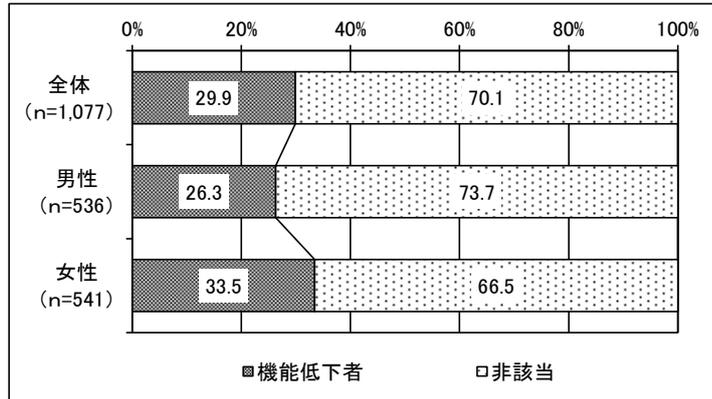
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(2) 転倒

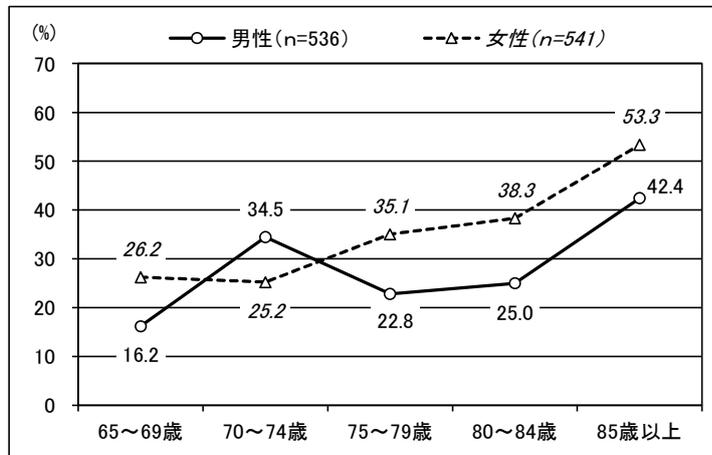
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、転倒リスクのある高齢者を判断する。

転倒リスクのある高齢者は、全体では 29.9%となっており、性別では女性が、年齢別ではバラツキはあるものの、年齢が高くなるほどリスクのある高齢者の割合は高くなり、男女とも 85 歳以上になると 4 割以上となる。

◇図 70 転倒リスクのある高齢者の状況



◇図 71 性・年齢階級別転倒リスクのある高齢者の状況



◇判定方法

下記の設問において該当する選択肢を回答した場合、転倒リスクのある高齢者となる。

設 問	該当する選択肢
問 2(4) 過去 1 年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1 度ある

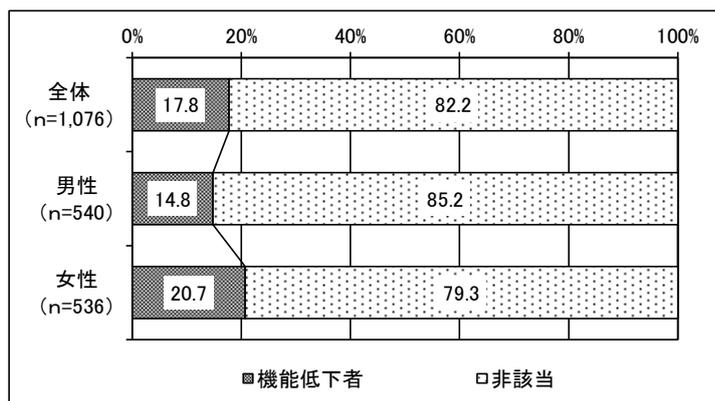
※上記設問の回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(3) 閉じこもり

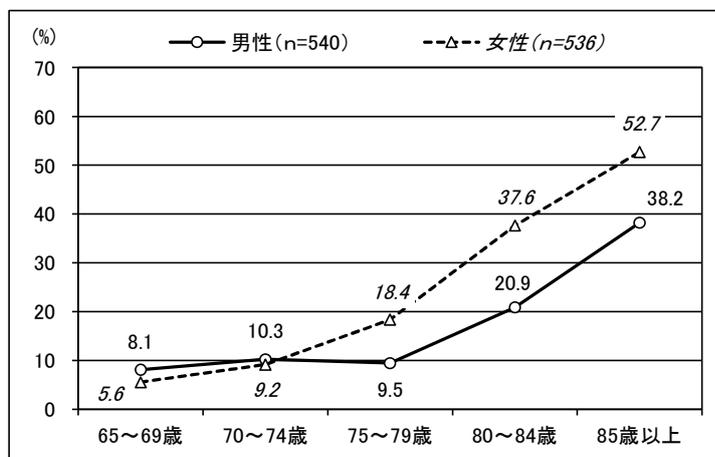
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、閉じこもり傾向のある高齢者を判断する。

閉じこもり傾向のある高齢者は、全体では17.8%となっており、性別では女性が、年齢別では年齢が高くなるほど閉じこもり傾向のある高齢者の割合は高くなり、男性は80歳以上、女性は85歳以上になると該当者割合が急増する。

◇図 72 閉じこもり傾向のある高齢者の状況



◇図 73 性・年齢階級別閉じこもり傾向のある高齢者の状況



◇判定方法

下記の設問において該当する選択肢を回答した場合、閉じこもり傾向のある高齢者となる。

設 問	該当する選択肢
問 2(6) 週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

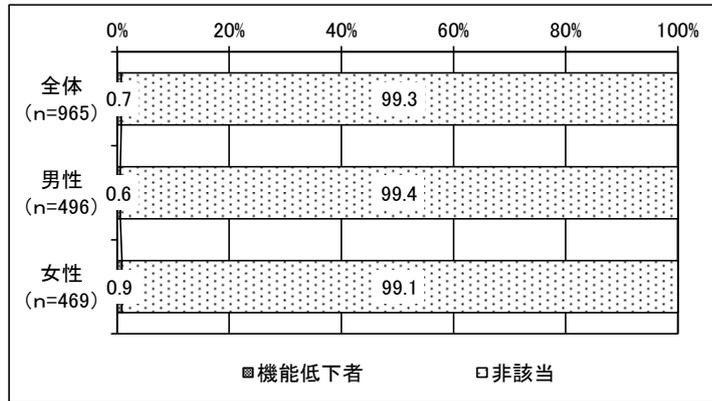
※上記設問の回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(4) 低栄養

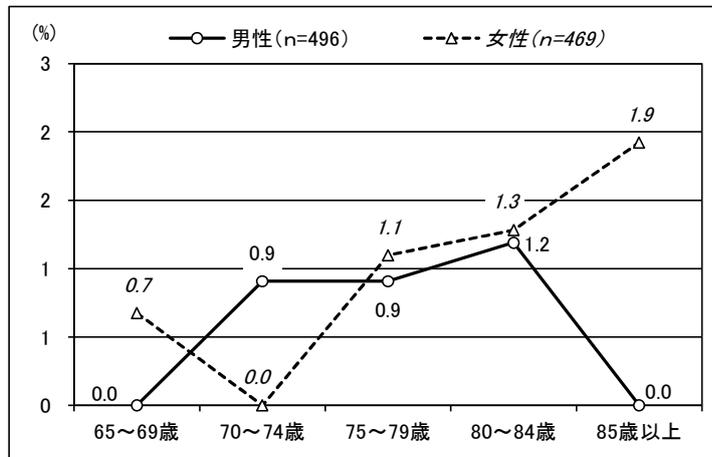
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、低栄養状態にある高齢者を判断する。

低栄養状態にある高齢者は、全体では0.7%となっており、性・年齢別にみると、女性は85歳以上、男性は80～84歳が、それぞれ最も高い割合となっている。

◇図 74 低栄養状態にある高齢者の状況



◇図 75 性・年齢階級別低栄養状態にある高齢者の状況



◇判定方法

下記2問のうち2問とも該当する選択肢を回答した場合、低栄養状態にある高齢者となる。

設 問	該当する選択肢
問 3(1) 身長・体重	BMIが18.5以下 ※BMI=体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))
問 3(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

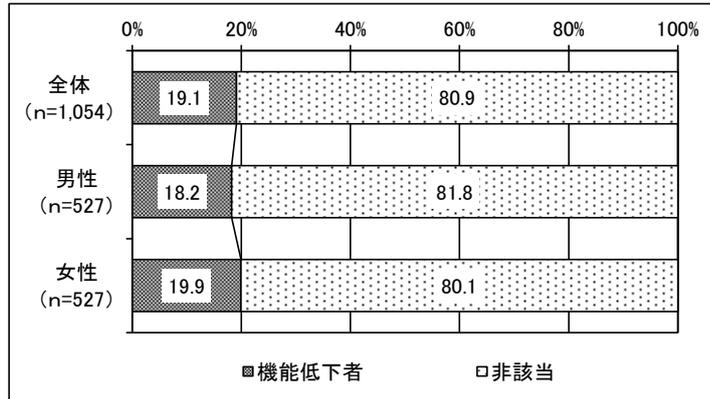
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(5) 口腔機能

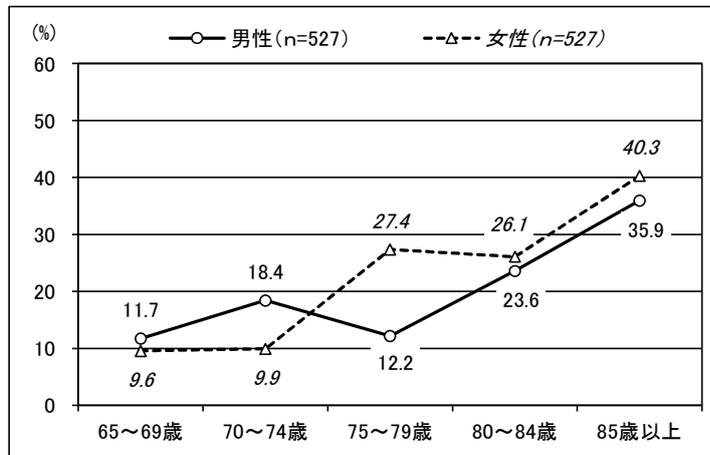
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、口腔機能の低下している高齢者を判断する。

口腔機能の低下している高齢者は、全体では 19.1%となっており、性・年齢別にみると、バラツキはあるものの、年齢が高くなるほど口腔機能の低下している高齢者の割合は高くなる傾向があり、85歳以上になると男女とも低下者割合が高くなる。

◇図 76 口腔機能の低下している高齢者の状況



◇図 77 性・年齢階級別口腔機能の低下している高齢者の状況



◇判定方法

下記3問のうち2問以上該当する選択肢を回答した場合、口腔機能の低下している高齢者となる。

設問	該当する選択肢
問3(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問3(3) お茶や汁物などでむせることがありますか	1. はい
問3(4) 口の渇きが気になりますか	1. はい

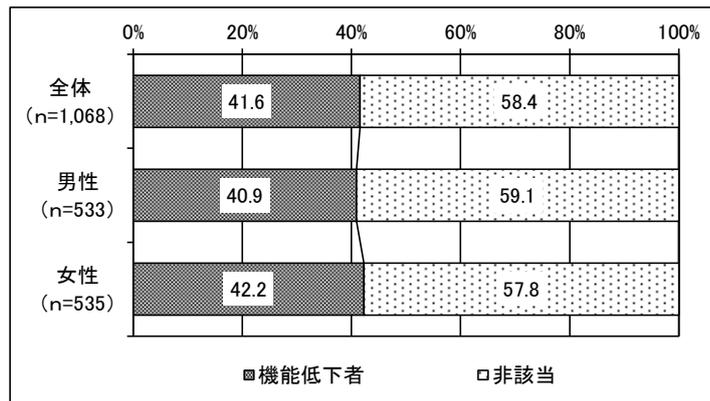
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(6) 認知機能

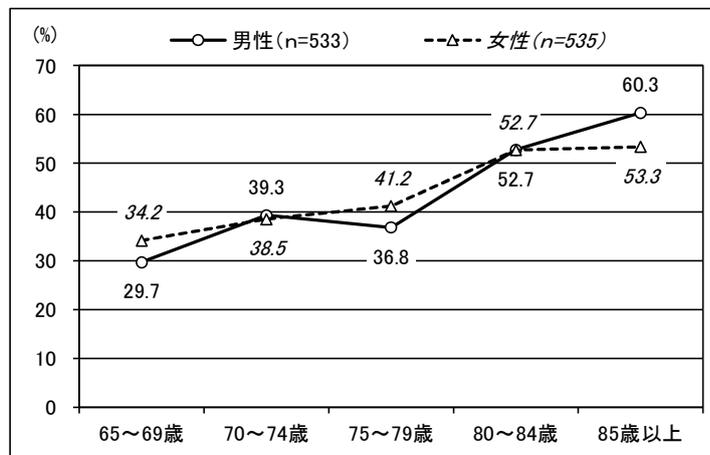
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」における判断基準を踏まえ、認知機能の低下している高齢者を判断する。

認知機能の低下している高齢者は、全体では 41.6%となっており、性・年齢別にみると、男女差は少なく、わずかながら年齢が高くなるほど認知機能の低下している高齢者の割合は高くなる傾向が見受けられる。

◇図 78 認知機能の低下している高齢者の状況



◇図 79 性・年齢階級別認知機能の低下している高齢者の状況



◇判定方法

下記の設問において該当する選択肢を回答した場合、認知機能が低下している高齢者と判断する。

設 問	該当する選択肢
問 4(1) 物忘れが多いと感じますか	1. はい

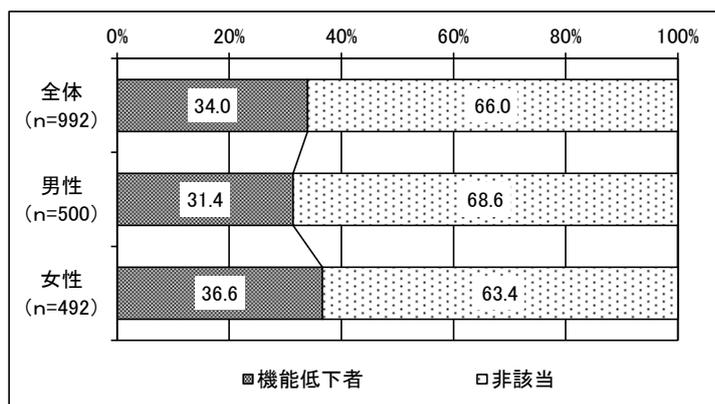
※上記設問に回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(7) うつ傾向

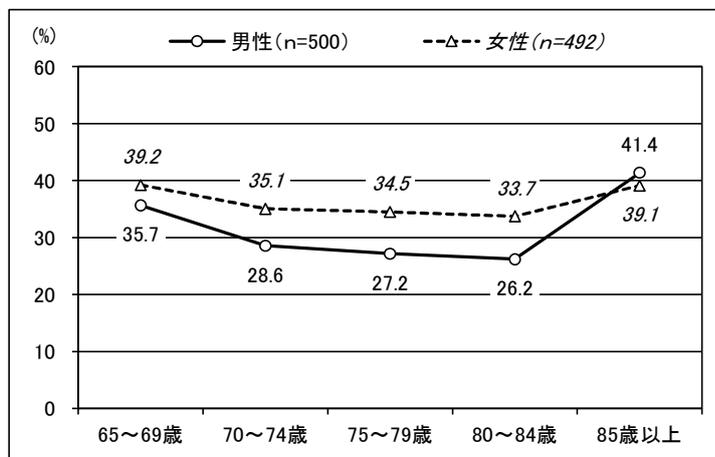
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、うつ傾向の高齢者を判断する。

うつ傾向の高齢者は、全体では34.0%となっており、性・年齢別にみると、85歳以上になると男性が4割を超え、女性の比率を上回る。

◇図 80 うつ傾向の高齢者の状況



◇図 81 性・年齢階級別うつ傾向の高齢者の状況



◇判定方法

下記2問のうち、いずれか1問でも該当する選択肢を回答した場合、うつ傾向の高齢者となる。

設問	該当する選択肢
問 7(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問 7(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

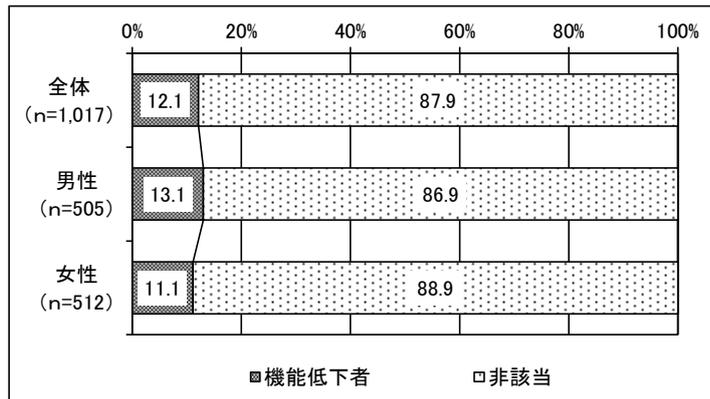
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(8) 手段的日常生活動作 (IADL)

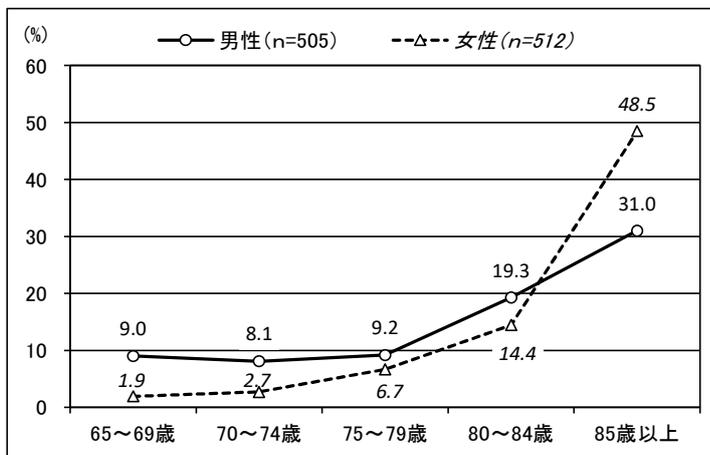
老研式活動能力指標をもとに、手段的日常生活動作（活動的な日常生活をおくるための動作能力）を判断する。

低下者（4点以下とする）割合は、全体では 12.1%となっており、性・年齢別にみると、年齢が高くなるほど低下者の割合は高くなる傾向があり、女性では 85 歳以上になると急増し、男性の比率を上回る。

◇図 82 手段的日常生活動作の低下者の状況



◇図 83 性・年齢階級別手段的日常生活動作の低下者の状況



◇判定方法

下記5問で、5点=問題なし、4点：やや低い、0～3点：低い

設問	該当する選択肢
問4(4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」 : 1点
問4(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4(6) 自分で食事の用意をしていますか	
問4(7) 自分で請求書の支払いをしていますか	
問4(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	

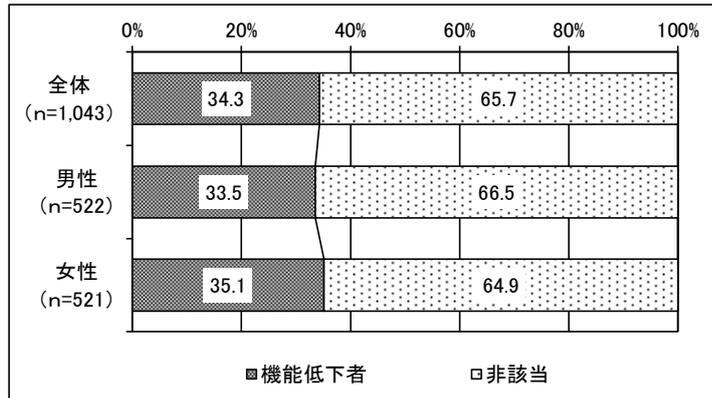
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(9) 知的能動

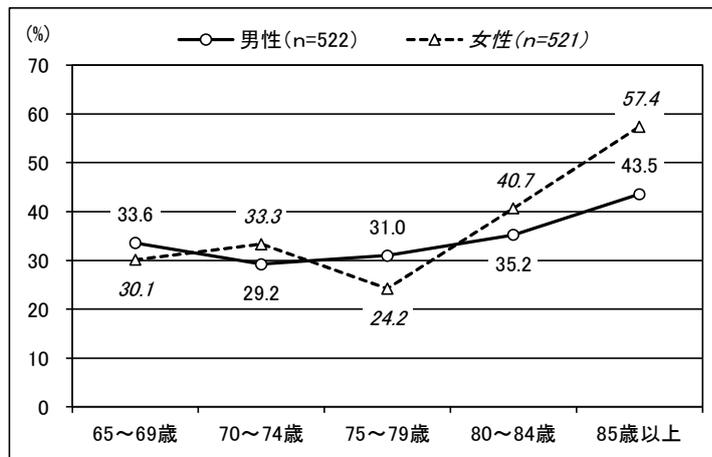
老研式活動能力指標をもとに、知的能動（余暇や造作などの積極的な知的活動能力）を判断する。

低下者（3点以下とする）割合は、全体では34.3%であり、性・年齢別にみると、男女とも85歳以上になると低下者の割合は高くなり、特に女性は約6割と高い比率となっている。

◇図 84 知的能動の低下者の状況



◇図 85 性・年齢階級別知的能動の低下者の状況



◇判定方法

下記4問で、4点=問題なし、3点：やや低い、0～2点：低い

設 問	該当する選択肢
問 4(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「はい」：1点
問 4(10) 新聞を読んでいますか	
問 4(11) 本や雑誌を読んでいますか	
問 4(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか	

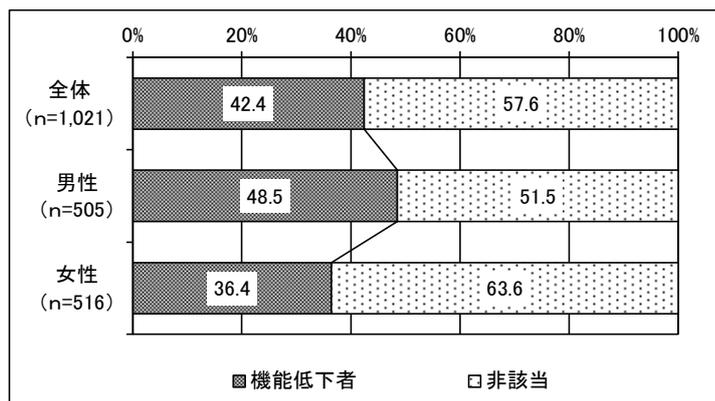
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(10) 社会的役割

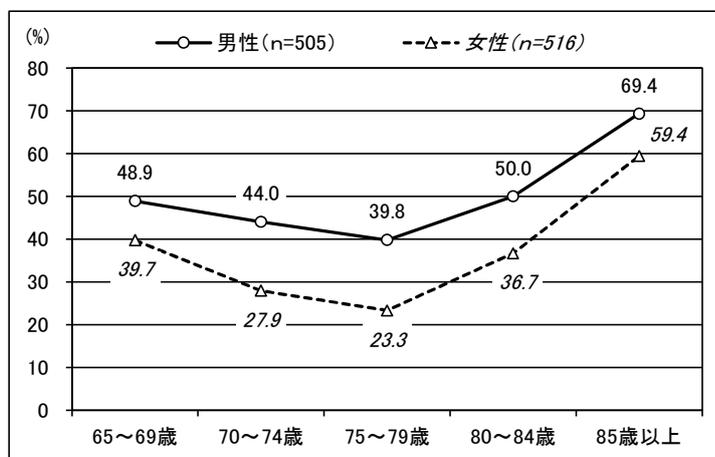
老研式活動能力指標をもとに、社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）について判断する。

低下者（3点以下とする）割合は、全体では42.4%となっており、性・年齢別にみると、年齢が高くなるほど低下者の割合は高くなる傾向があり、女性は80歳以上、男性は85歳以上になると低下者割合は半数を超える。

◇図 86 社会的役割の低下者の状況



◇図 87 社会的役割の低下者の状況



◇判定方法

下記4問で、4点：問題なし、3点：やや低い、2点以下：低い

設問	該当する選択肢
問4(13) 友人の家を訪ねていますか	「はい」：1点
問4(14) 家族や友人の相談にのっていますか	
問4(15) 病人を見舞うことができますか	
問4(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか	

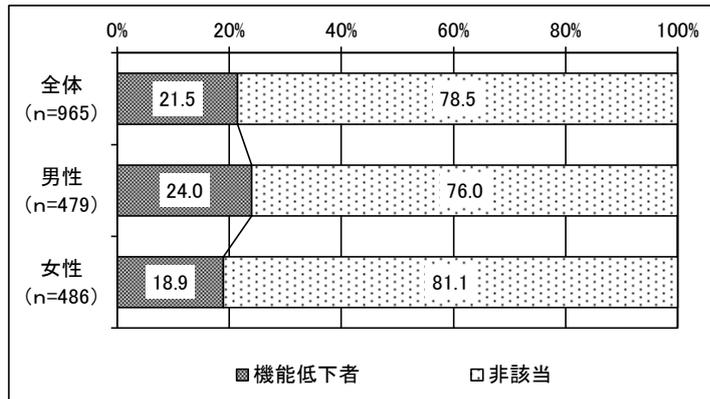
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(11) 生活機能総合評価

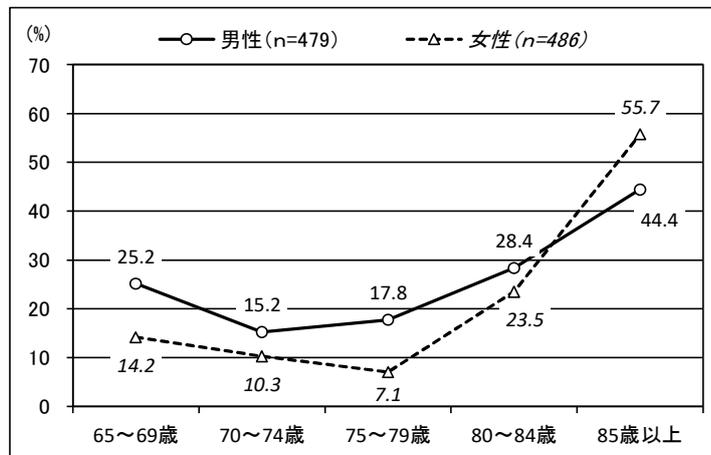
老研式活動能力指標をもとに、生活機能総合評価（手段的日常生活動作、知的能動性、社会的役割の13項目による総合評価）について判断する。

低下者（10点以下とする）割合は、全体では21.5%であり、性・年齢別にみると、女性では85歳以上になると急増し、男性の比率を上回り半数以上となる。

◇図 88 生活機能総合評価の低下者の状況



◇図 89 性・年齢階級別生活機能総合評価の低下者の状況



◇判定方法

手段的日常生活動作、知的能動性、社会的役割の1設問で、11点以上：問題なし、9~10点：やや低い、8点以下：低い

※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

Ⅲ 在宅介護実態調査 集計結果

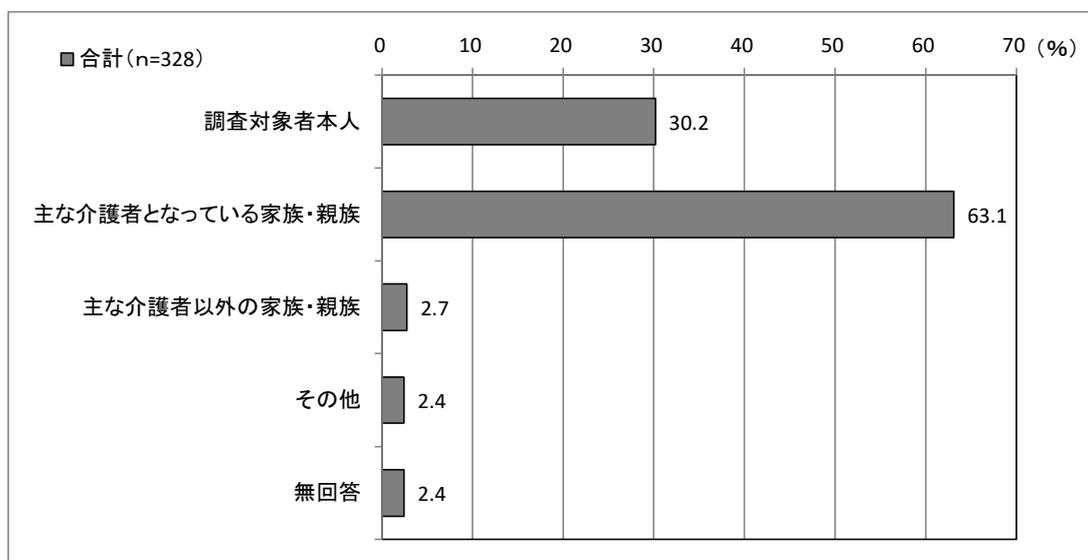
Ⅲ 在宅介護実態調査 集計結果

A 調査対象者様ご本人について

問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか(複数回答可)。

この調査票の回答者は、「主な介護者となっている家族・親族」が63.1%、「調査対象者本人」が30.2%、「主な介護者以外の家族・親族」が2.7%となっている。

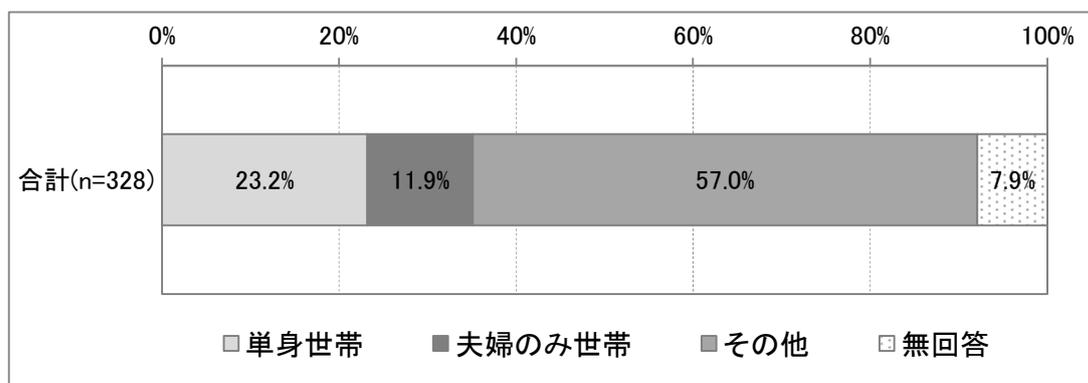
◇図1 調査票の回答者



問2 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)。

世帯累計については、「その他」が57.0%と過半数を占めており、「単身世帯」は23.2%、「夫婦のみ世帯」は11.9%となっている。

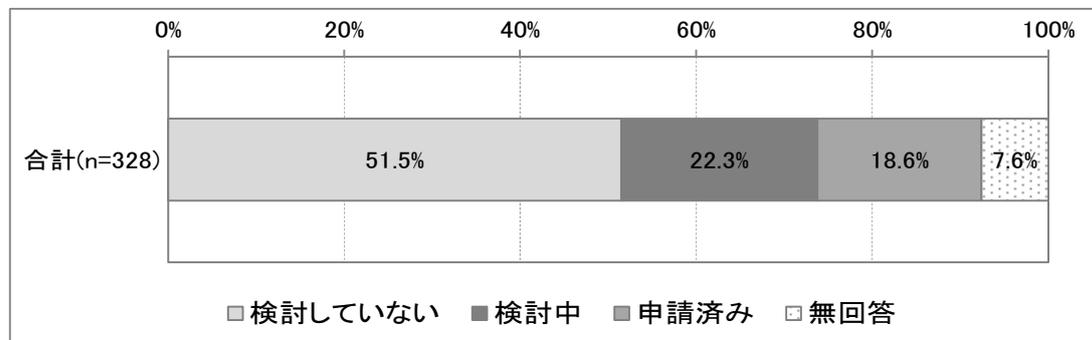
◇図2 世帯類型



問3 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)。

現時点での、施設等への入所・入居の検討状況については、「検討していない」が51.5%と最も多く、「検討中」は22.3%、「申請済み」は18.6%となっている。

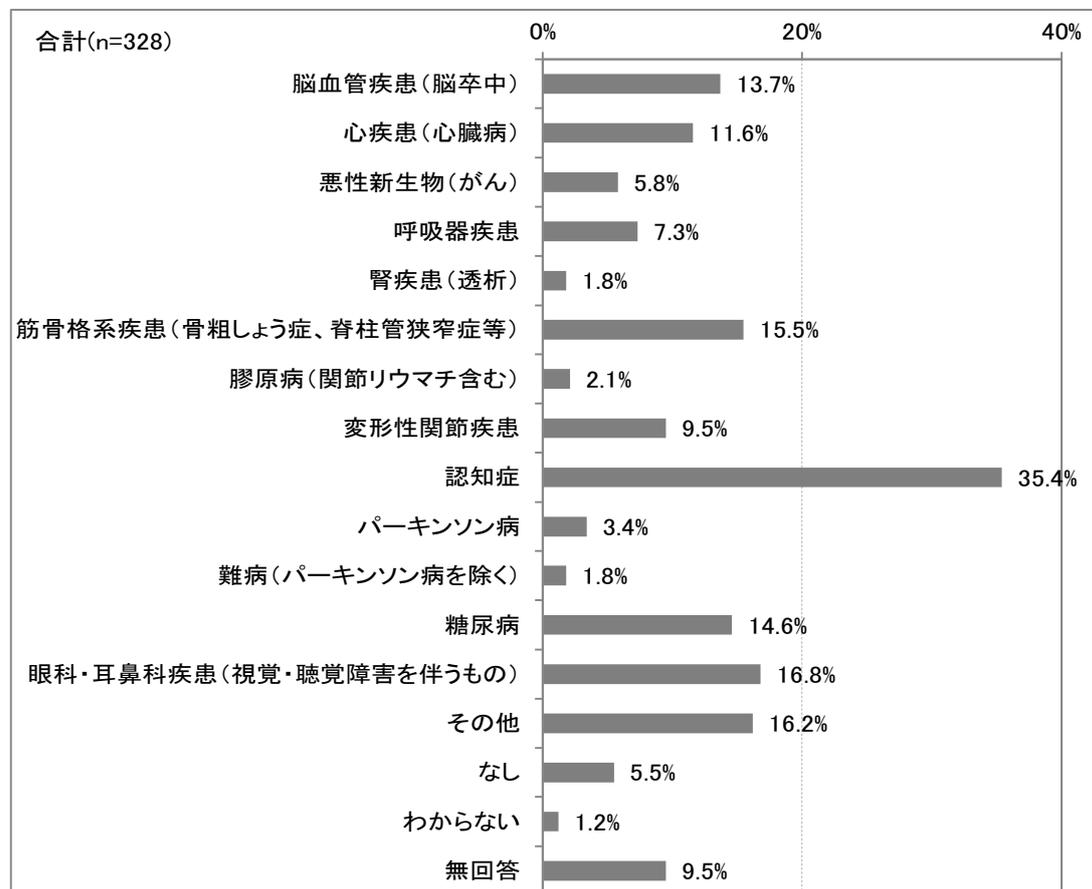
◇図3 施設等検討の状況



問4 ご本人(認定調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。
(複数選択可)

現在抱えている傷病については、「認知症」が35.4%と最も高く、以下、「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」(16.8%)、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」(15.5%)、「糖尿病」(14.6%)、「脳血管疾患(脳卒中)」(13.7%)と続いている。なお、「その他」が16.2%であった。

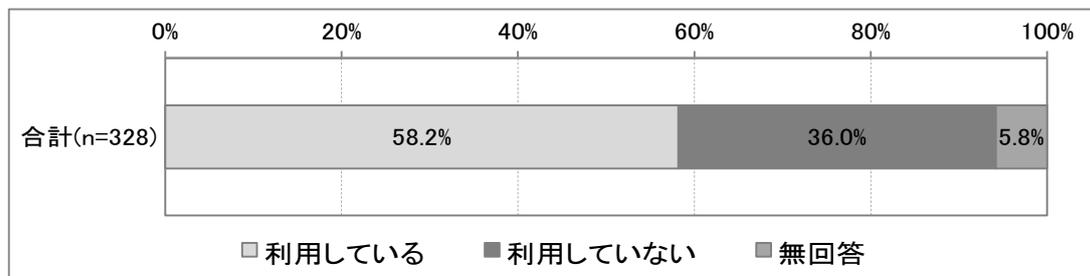
◇図4 本人が抱えている傷病



問5 令和元年10月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外)介護保険サービスを利用しましたか(1つを選択)。

令和元年10月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外)介護保険サービスを利用したかについては、「利用している」が58.2%と過半数を占め、「利用していない」は36.0%となっている。

◇図5 介護保険サービスの利用の有無

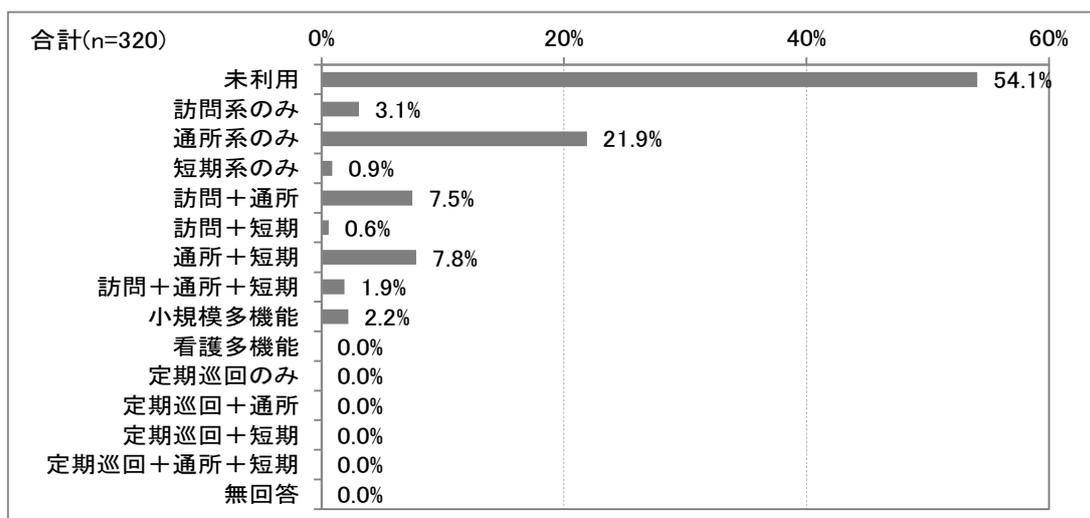


問6 問5で「1. 利用した」と回答した方にお伺いします。以下の介護保険サービスについて、令和元年10月の1か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「利用していない(0回、1. 利用していない)」を選択してください(それぞれ1つに○)。

要介護認定データとの突合により、介護保険サービスの利用状況を以下のとおり整理する。

「通所系のみ」の利用が21.9%と最も高く、「通所+短期」(7.8%)、「訪問+通所」(7.5%)、「訪問系のみ」(3.1%)、「小規模多機能」(2.2%)と続く。なお、「未利用」が54.1%と過半数を占めている。

◇図6 サービス利用の組み合わせ



※未利用：「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみの利用は、未利用として集計している。

※訪問系：(介護予防)訪問介護、(介護予防)訪問入浴介護、(介護予防)訪問看護、(介護予防)訪問リハビリテーション、(介護予防)居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護

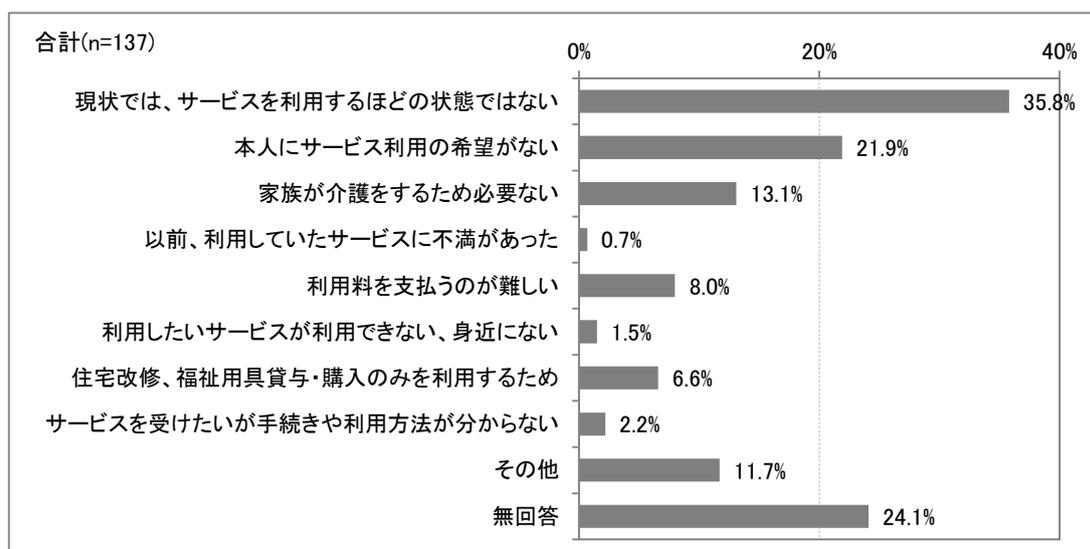
※通所系：(介護予防)通所介護、(介護予防)通所リハビリテーション、(介護予防)認知症対応型通所介護

※短期系：(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護

問7 問5で「2.」と回答した方にお伺いします。介護保険サービスを利用していない理由は何ですか(複数選択可)。

介護保険サービスを利用していない理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が35.8%と最も高く、以下、「本人にサービス利用の希望がない」(21.9%)、「家族が介護をするため必要ない」(13.1%)と続いている。

◇図7 介護保険サービスの未利用の理由

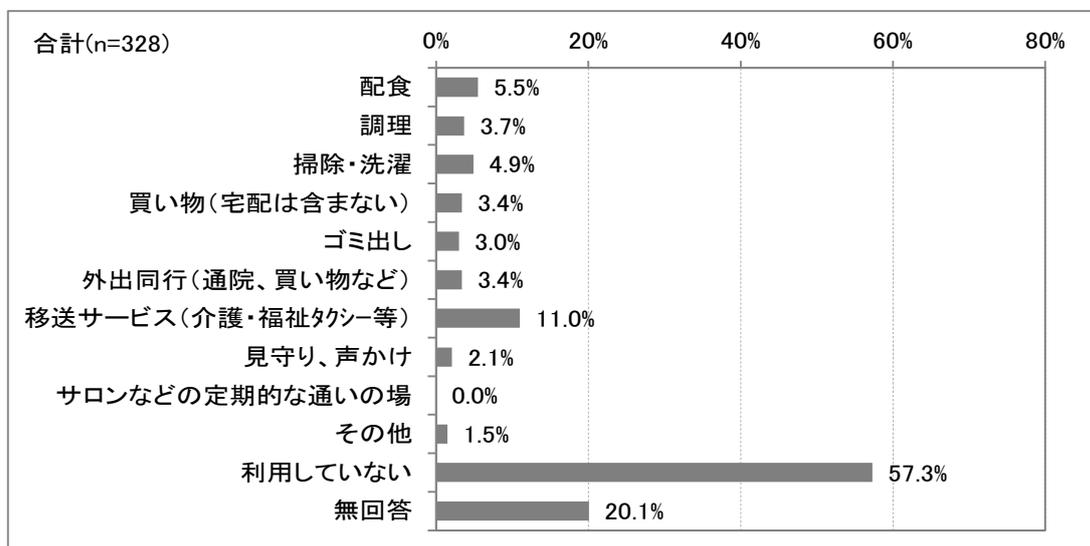


問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(複数選択可)

現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについては、「利用していない」が57.3%と過半数を占める。

利用している支援・サービスでは、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(11.0%)が最も高く、以下、「配食」(5.5%)、「掃除・洗濯」(4.9%)と続いている。

◇図8 保険外の支援・サービスの利用状況

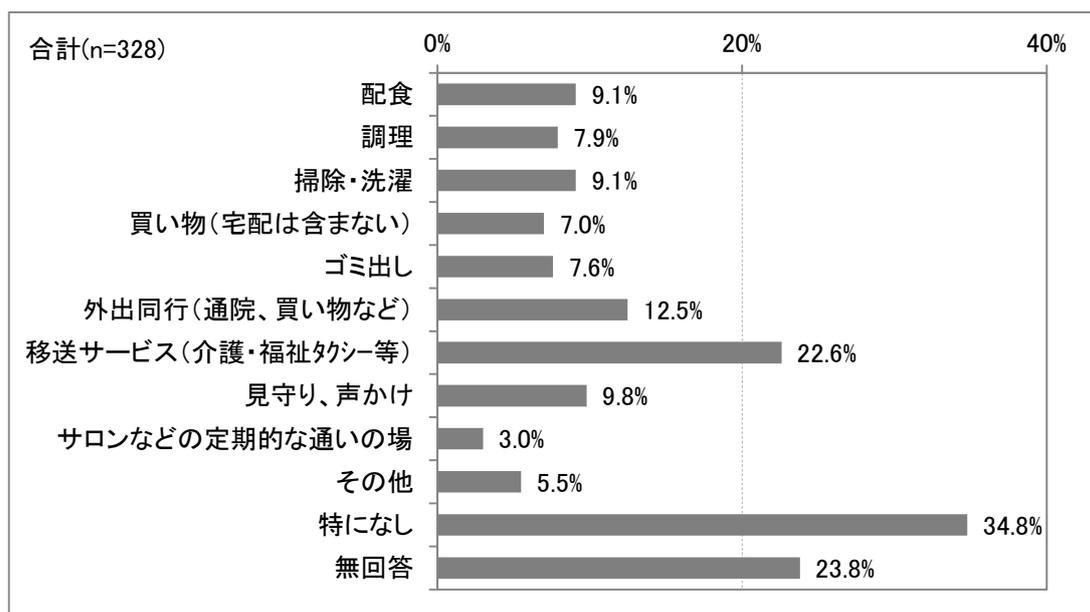


問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)。

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)については、「特になし」が34.8%と最も高い。

必要と感じる支援・サービスでは、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が22.6%と最も高く、以下、「外出同行(通院、買い物など)」(12.5%)、「見守り、声かけ」(9.8%)、「配食」及び「掃除・洗濯」(ともに9.1%)などが上位にあげられている。

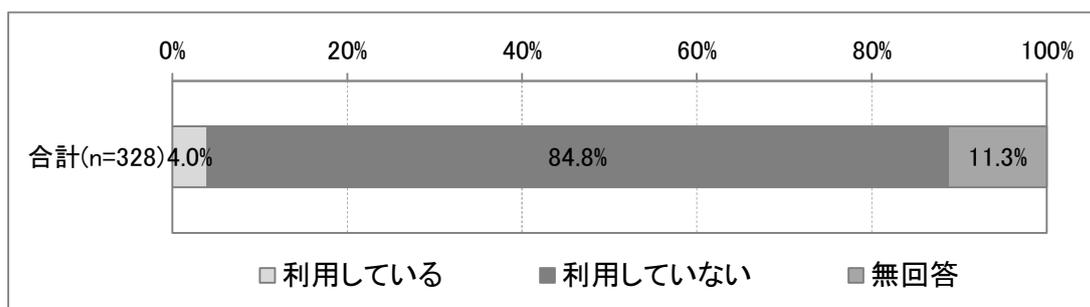
◇図9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス



問10 ご本人(認定調査対象者)は、現在、医師による訪問診療を利用していますか。(1つを選択)

医師による訪問診療については、「利用している」は4.0%であり、「利用していない」が84.8%と多数を占めている。

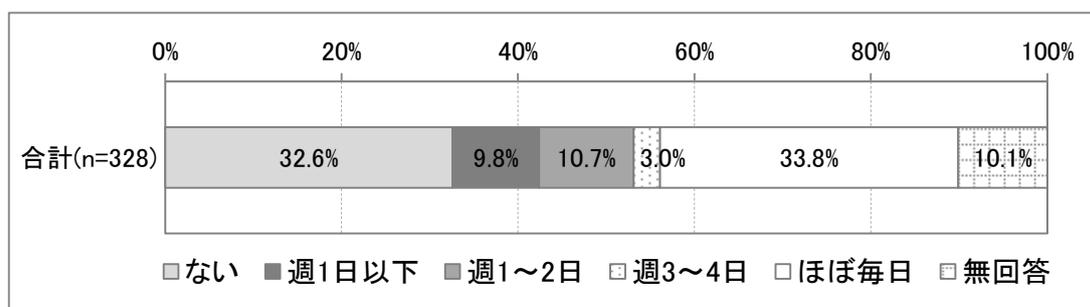
◇図10 訪問診療の利用の有無



問 11 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)。

家族や親族の介護については、「ほぼ毎日」が 33.8%と最も高く、「週3～4日」は 3.0%、「週1～2日」は 10.7%、「週1日以下」は 9.8%となっている。なお、「ない」は 32.6%となっている。

◇図 11 家族等による介護の頻度

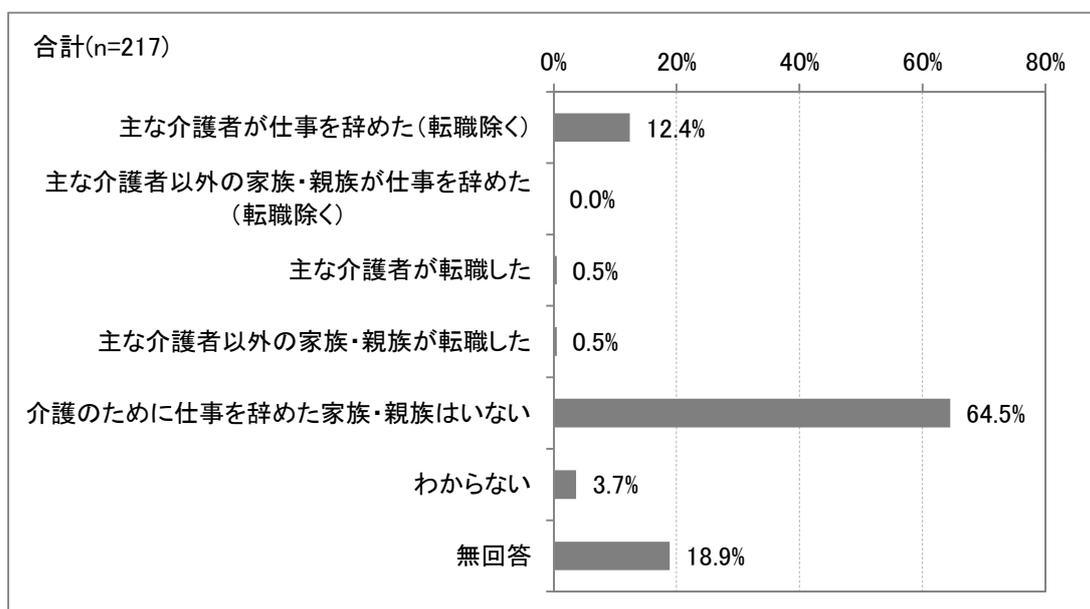


B 主な介護者の方について

問1 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)。

ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいるかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 64.5%と、約 2/3 が辞めた人はいないと回答している。「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」は 12.4%、他は 1%未満となっている。

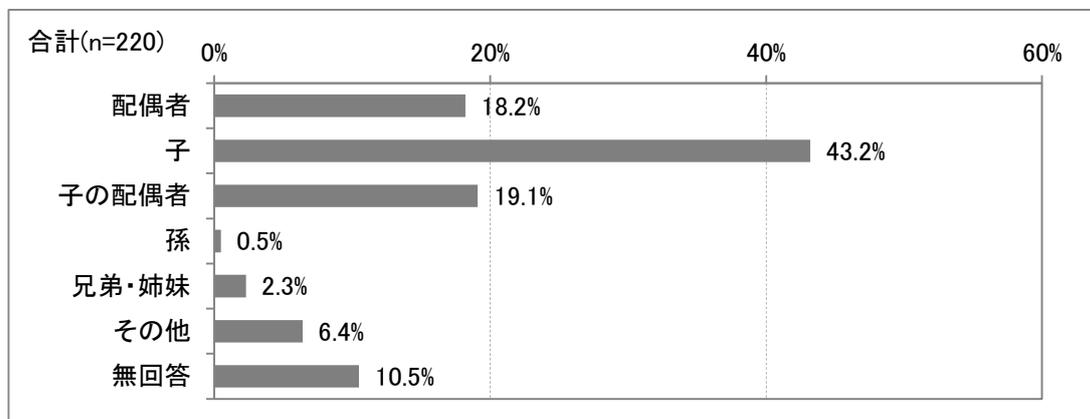
◇図 12 介護のための離職の有無



問2 主な介護者の方は、どなたですか(1つを選択)。

主な介護者は、「子」が43.2%と最も高く、「子の配偶者」が19.1%、「配偶者」が18.2%と続いている。

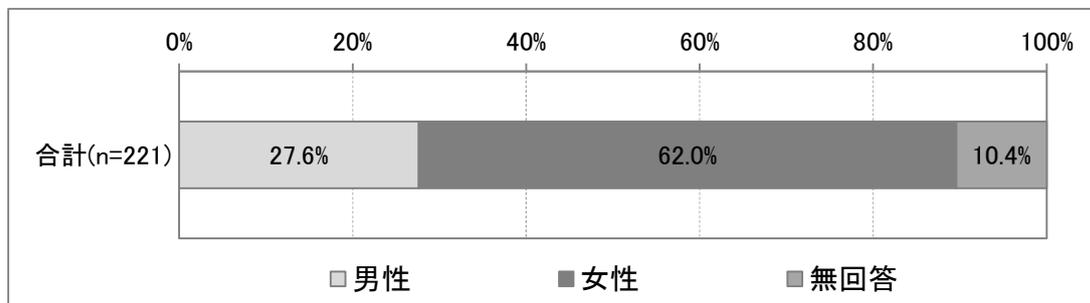
◇図13 主な介護者の本人との関係



問3 主な介護者の方の性別について、ご回答ください(1つを選択)。

主な介護者の性別については、「女性」が62.0%と「男性」の27.6%を大きく上回っている。

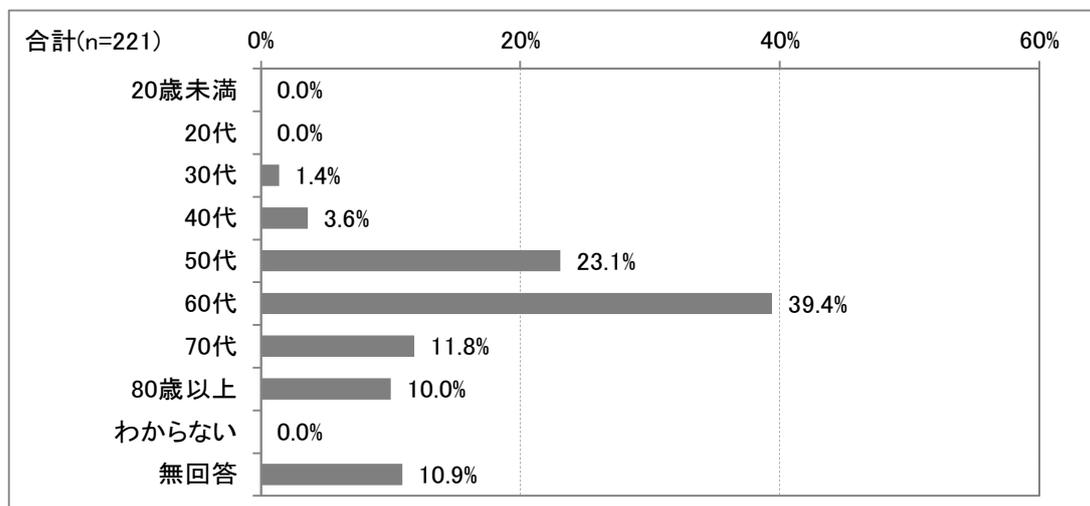
◇図14 主な介護者の性別



問4 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)。

主な介護者の年齢については、「60代」が39.4%と最も高く、以下、「50代」(23.1%)、「70代」(11.8%)、「80歳以上」(10.0%)、「40代」(3.6%)、「30代」(1.4%)と続いている。

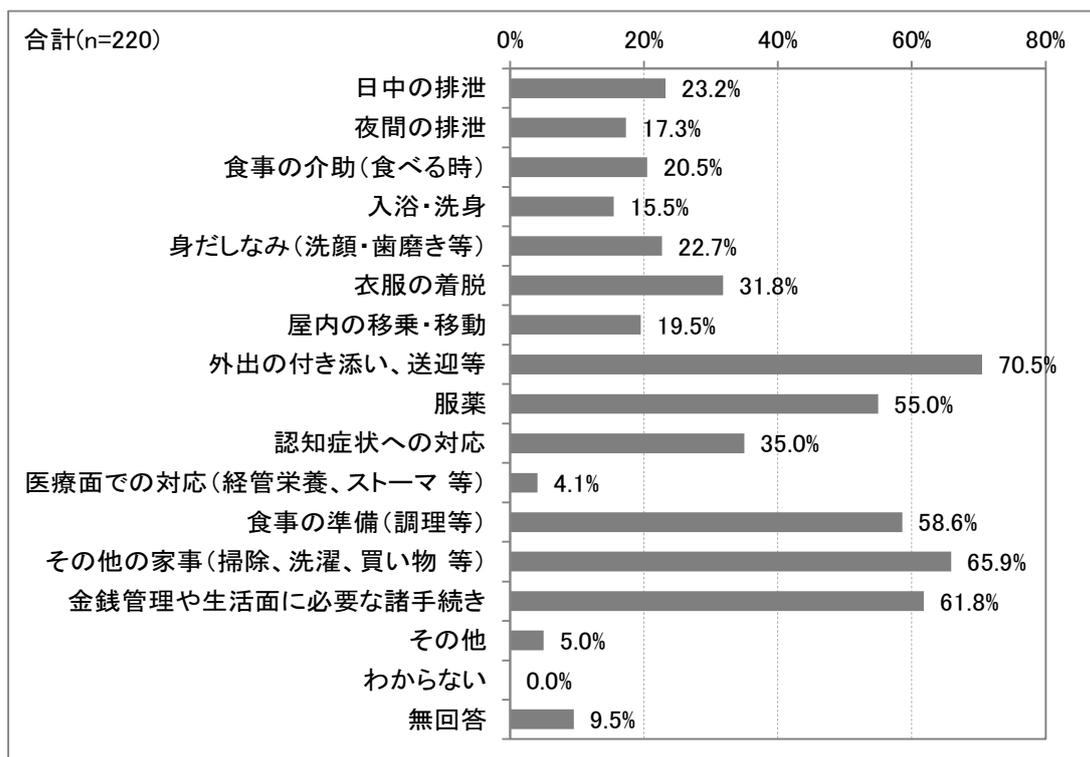
◇図15 主な介護者の年齢



問5 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください(複数選択可)。

現在、主な介護者の方が行っている介護等については、「外出の付き添い、送迎等」が70.5%と最も高く、以下、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(65.9%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(61.8%)、「食事の準備(調理等)」(58.6%)、「服薬」(55.0%)と続いている。

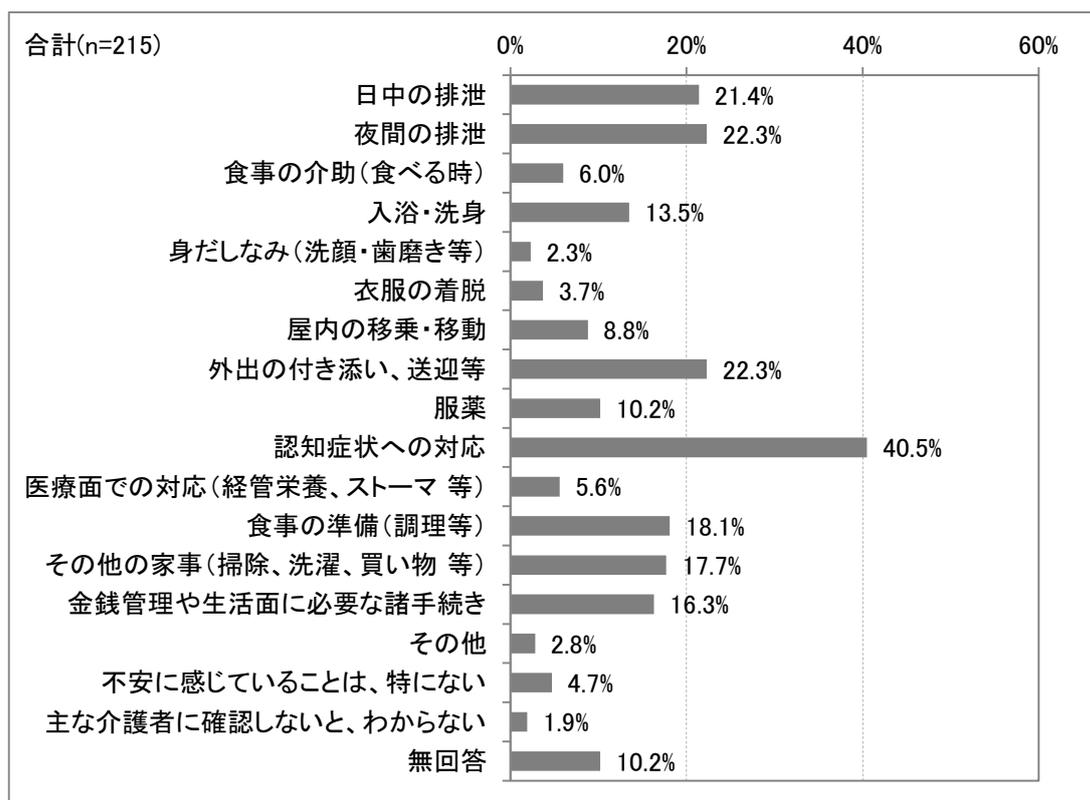
◇図16 主な介護者が行っている介護等



問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)。

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等については、「認知症状への対応」が40.5%と最も高く、以下、「夜間の排泄」及び「外出の付き添い、送迎等」(ともに22.3%)、「日中の排泄」(21.4%)、「食事の準備(調理等)」(18.1%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(17.7%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(16.3%)と続いている。

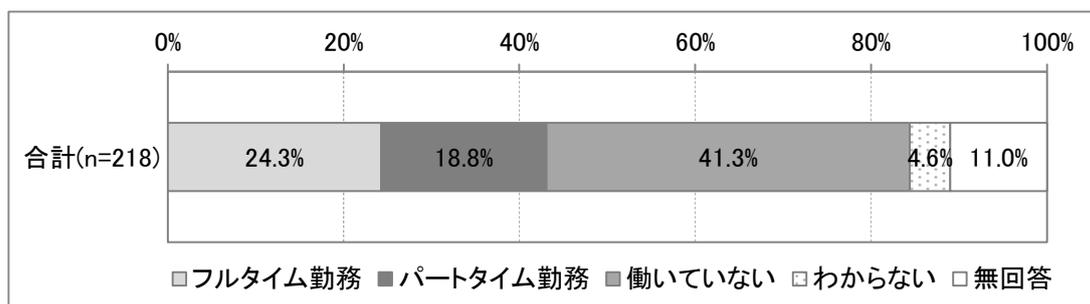
◇図17 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護



問7 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)。

主な介護者の方の現在の勤務形態については、「働いていない」が41.3%と多数を占めており、「フルタイム勤務」が24.3%、「パートタイム勤務」が18.8%となっている。

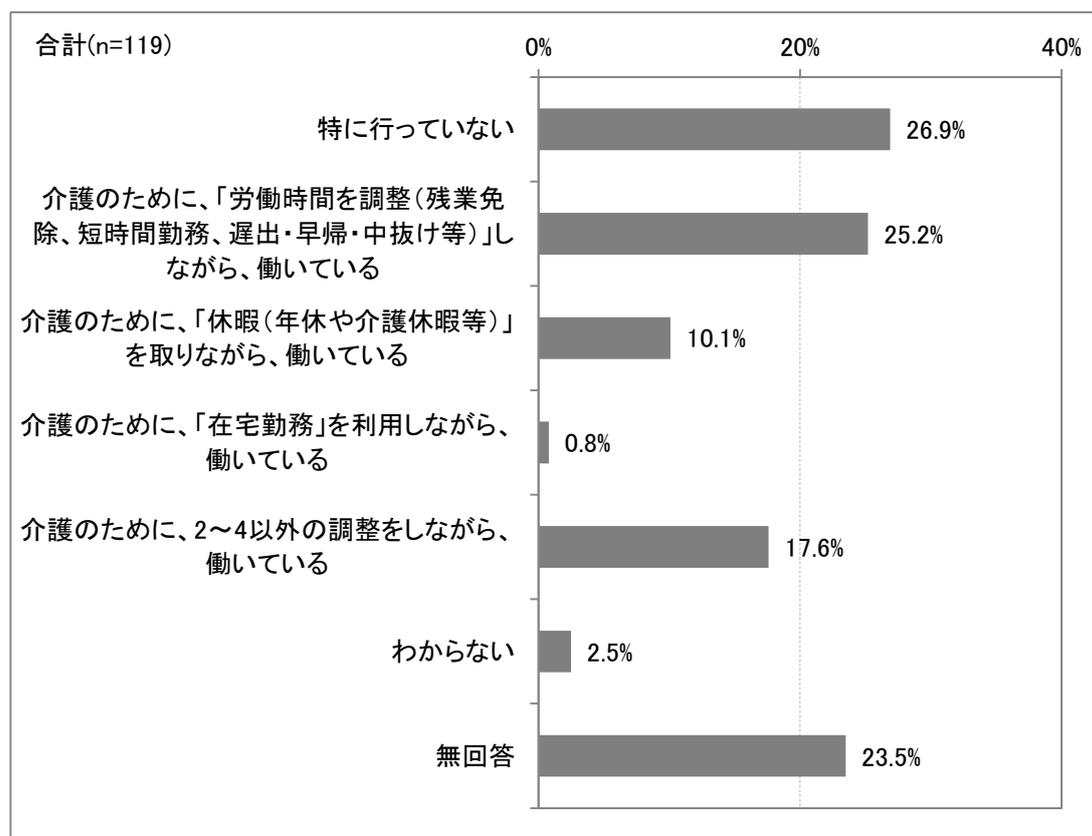
◇図18 主な介護者の勤務形態



問8 問7で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)。

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしているかについては、「特に行っていない」が26.9%と最も高い比率となっている。以下、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が25.2%、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が10.1%、「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」が0.8%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が17.6%、「わからない」が2.5%、「無回答」が23.5%と続いている。

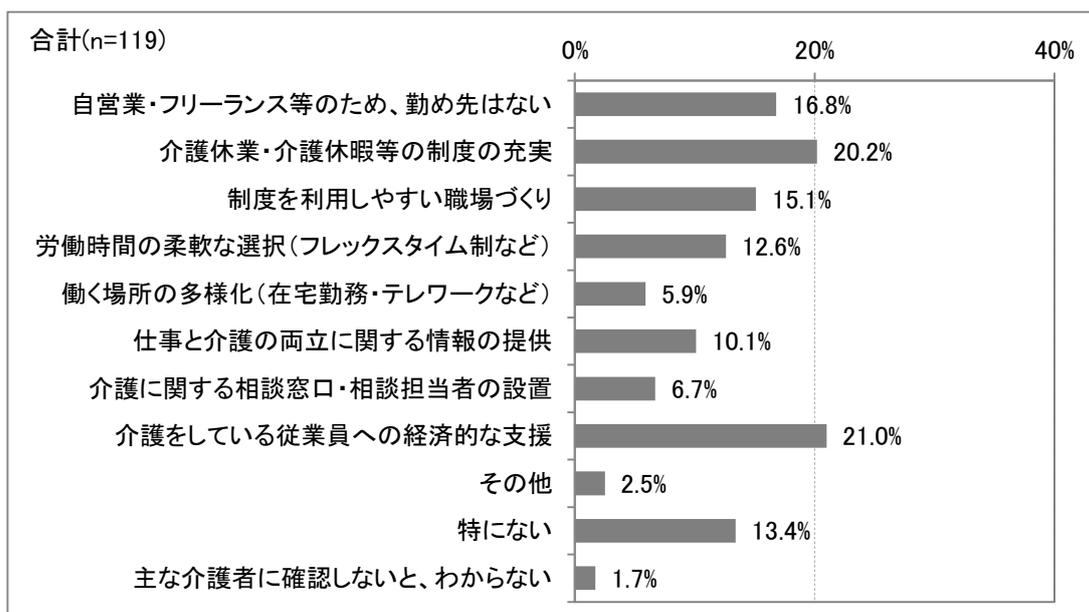
◇図 19 主な介護者の働き方の調整状況



問9 問7で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3つまで選択可)。

主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うかについては、「介護をしている従業員への経済的な支援」が21.0%と最も高く、以下、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(20.2%)、「制度を利用しやすい職場づくり」(15.1%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(12.6%)と続いている。なお、「特にない」は13.4%となっている。

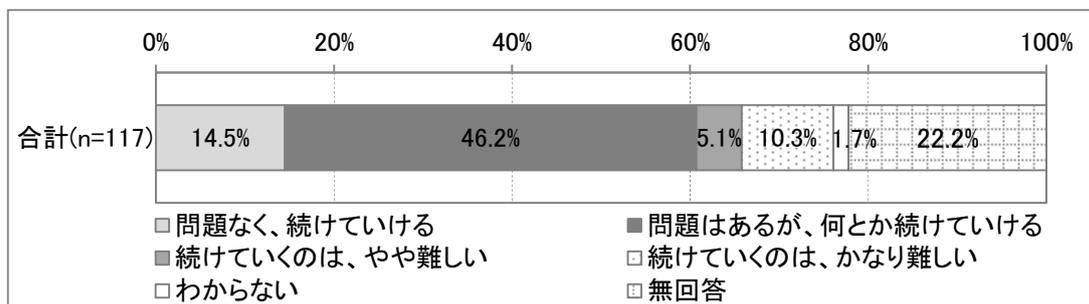
◇図20 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援



問10 問7で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)。

主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が46.2%と半数近くを占めており、「問題なく、続けていける」(14.5%)と合わせて、全体の約6割が“続けていける”との回答となっている。一方、「続けていくのは、やや難しい」(5.1%)と「続けていくのは、かなり難しい」(10.3%)を合わせて、15.4%が“難しい”との回答となっている。

◇図21 主な介護者の就労継続の可否に係る意識



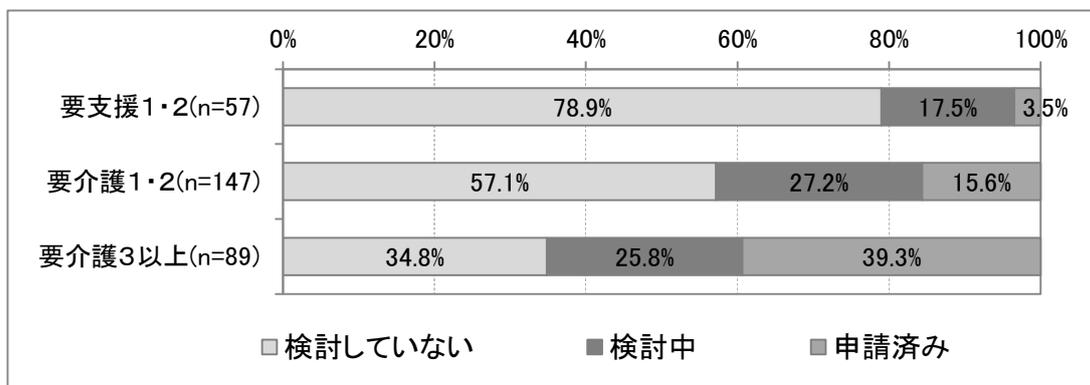
◇ 考察

1 在宅継続のための支援・サービスの提供体制の検討

(1) 要介護度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」

「施設等入所・入居の検討状況」について要介護度別にみると、介護度が重くなるほど「検討中」や「申請済み」の比率が高くなっている。在宅生活を継続していくためには、特に介護度が重い方の意向等に対応していくことが求められる。

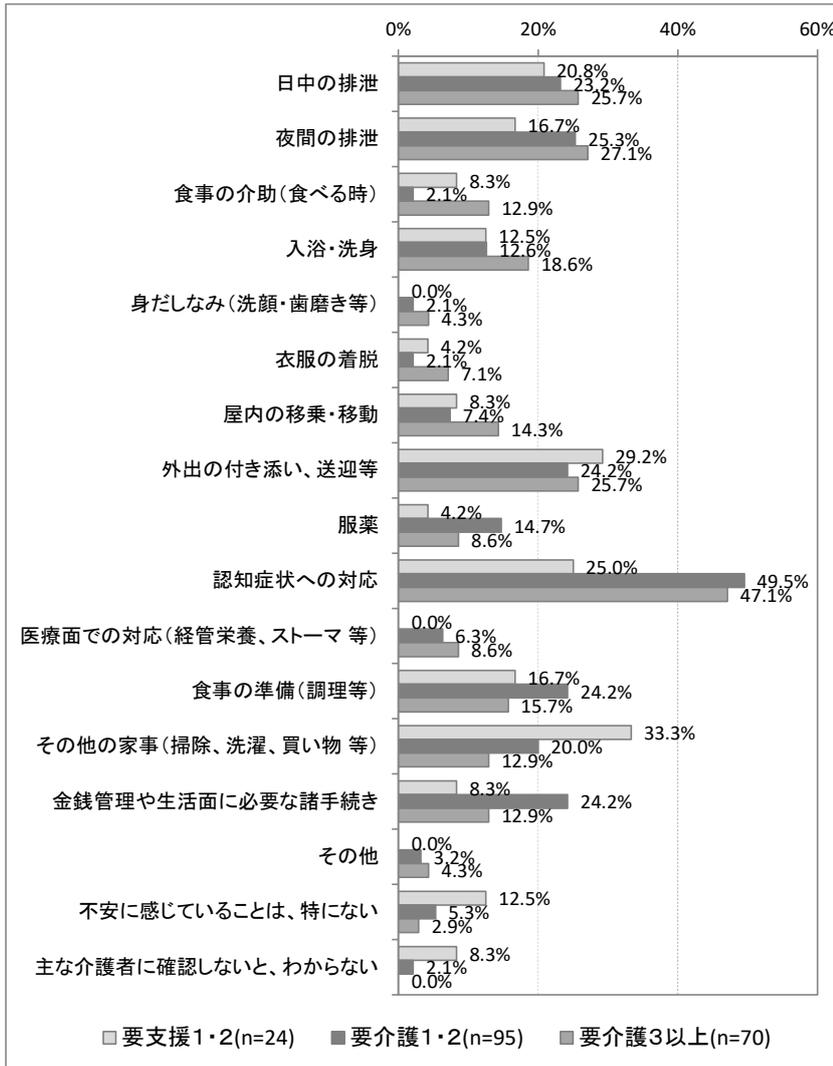
◇図 22 要介護度別・施設等入所・入居の検討状況



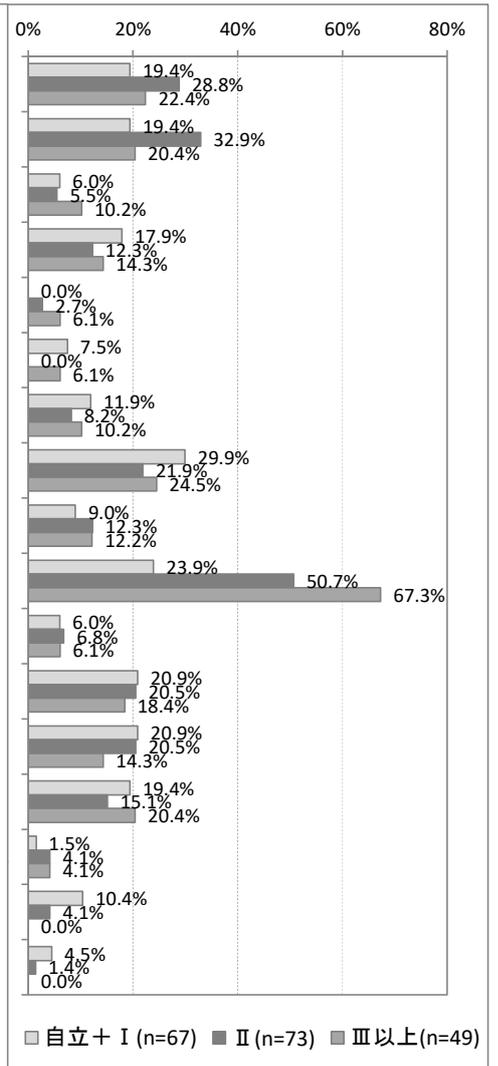
「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等」について要介護度別にみると、要介護3以上では「認知症状への対応」(47.1%)や「夜間の排泄」(27.1%)、「日中の排泄」及び「外出の付き添い、送迎等」(ともに25.7%)において主な介護者の不安が大きくなっている。特に、「外出の付き添い、送迎等」以外は、介護度が重いほど不安を感じる比率が高くなる傾向が見受けられることから、「認知症」と日中及び夜間の「排泄」への対応は、在宅生活を継続していくために重要であると考えられる。

なお、認知症自立度別にみた場合についても、概ね同様の傾向が見受けられた。

◇図 23 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



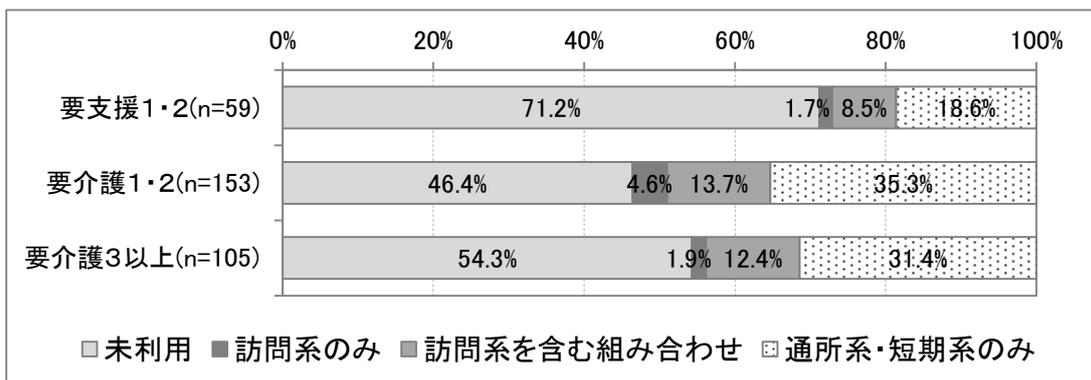
◇図 24 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(2) 要介護度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

“介護保険サービス”の利用の組み合わせをみると、「未利用」は要介護3以上で54.3%、要介護1・2で46.4%と約半数を占める。また、介護度が重くなると「訪問系」サービスの利用が増えると考えられるが、本町においては要介護3以上で「訪問系のみ」は1.9%、「訪問系を含む組み合わせ」は12.4%と高い比率にはなっていない。「訪問系」を含めてサービスの利用を図ることで、在宅生活を支援することにつながるものと考えられる。

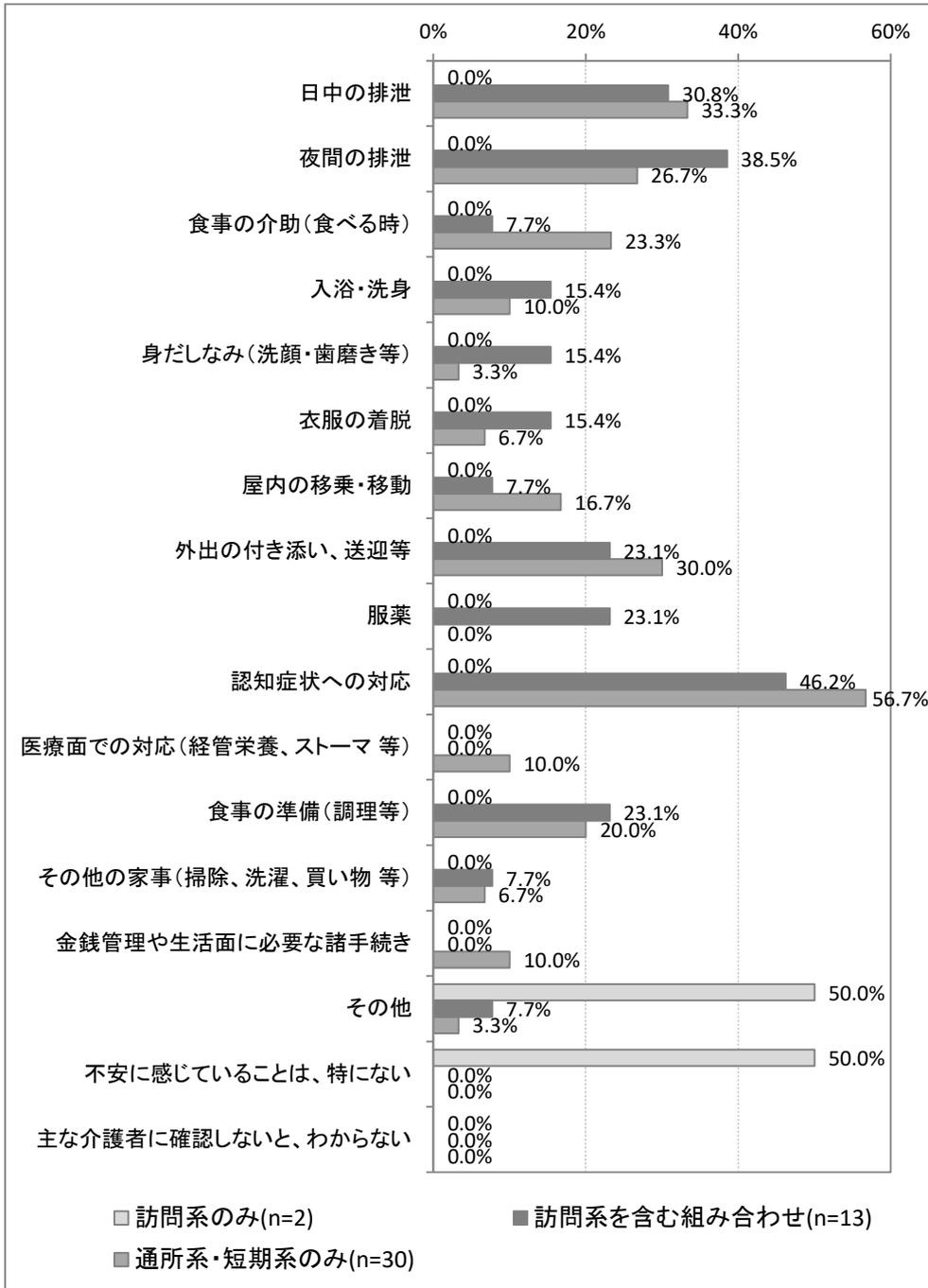
◇図 25 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



(3) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」

「サービス利用の組み合わせ」と「介護者が不安を感じる介護」の関係を、特に在宅生活の継続に必要な「認知症」と日中及び夜間の「排泄」についてみると、「認知症状への対応」と「日中の排泄」は「訪問系を含む組み合わせ」が「通所系・短期系のみ」より低く、「訪問系のサービス」が不安の軽減に寄与していると考えられる。

◇図 26 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

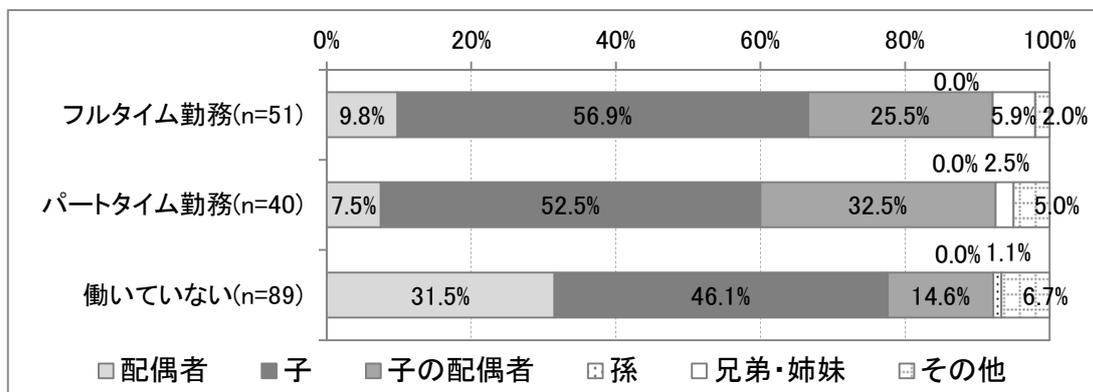
(1) 主な介護者の就労と介護の関係

主な介護者が「フルタイム勤務」又は「パートタイム勤務」の場合、主な介護者の要介護者との続き柄は「子」や「子の配偶者」が、年齢は「50代」～「60代」の比率が高くなっている。

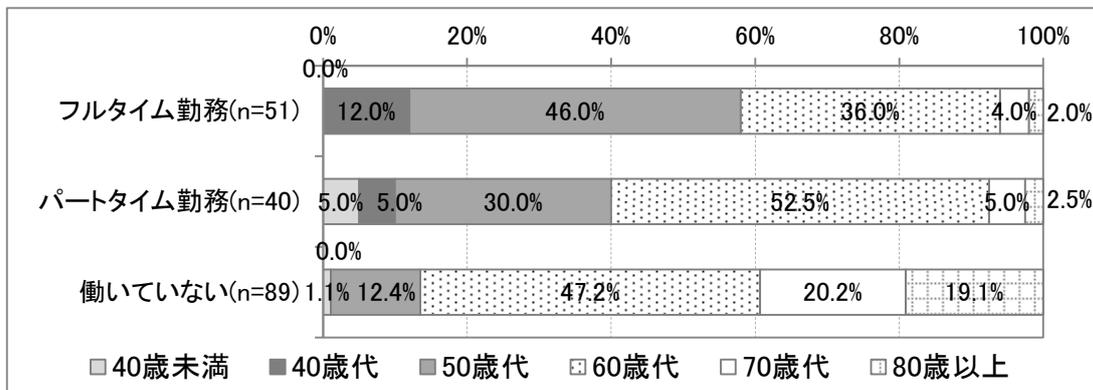
一方、主な介護者が「働いていない」場合の介護者との続き柄は「配偶者」が31.5%、年齢は「60歳代」以上が86.5%と多数を占めている。

家族等による介護の頻度は、「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」では、「働いていない」と比べて「週1日以下」の比率が高く、介護の頻度は概して低いと言える。

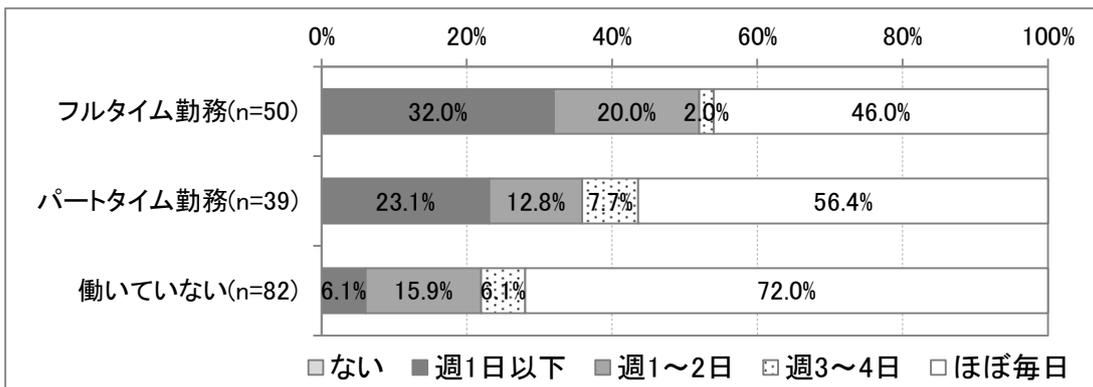
◇図 27 就労状況別・主な介護者の本人との関係



◇図 28 就労状況別・主な介護者の年齢



◇図 29 就労状況別・家族等による介護の頻度

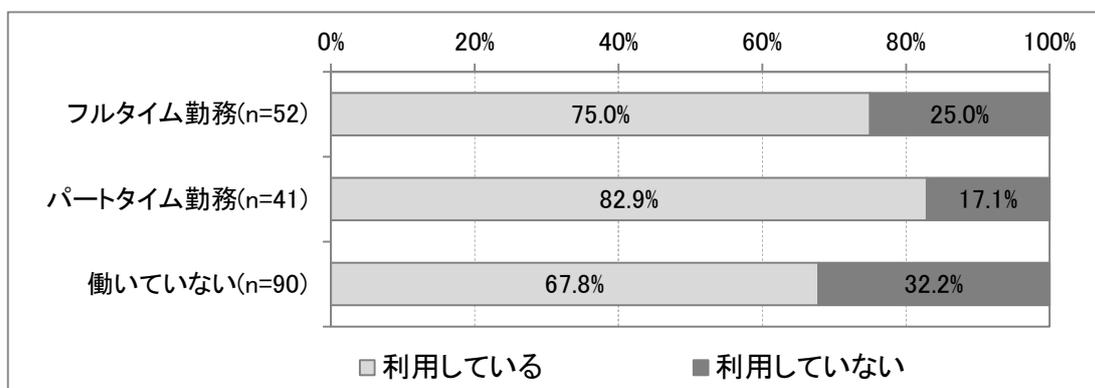


介護保険サービスの利用状況を就労状況別にみると、「利用していない」は“働いていない”が32.2%と最も高いが、“フルタイム勤務”では25.0%、“パートタイム勤務”では17.1%が利用していない。

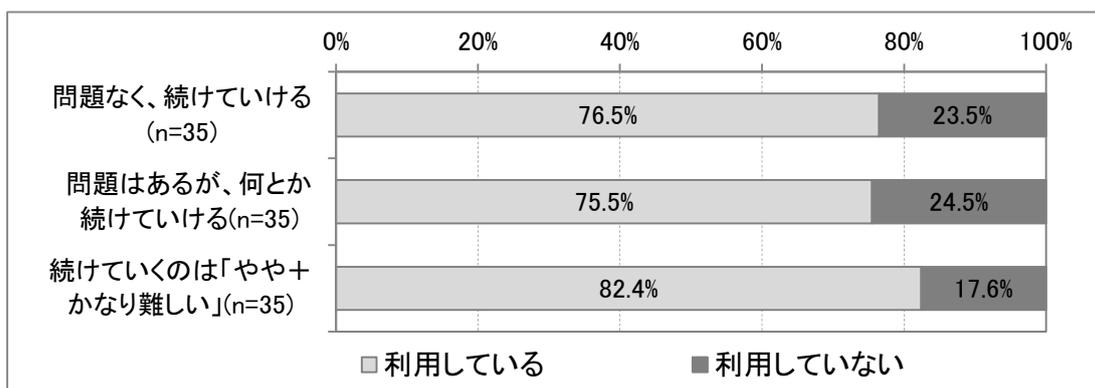
また、就労している人（フルタイム勤務+パートタイム勤務）の就労継続見込別に利用状況をみると、「利用していない」は“（就労を）続けていくのはやや難しい+かなり難しい”が17.6%と最も低い。

今後の在宅生活継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護について、“続けていくのは「やや+かなり難しい」と回答した人では、「認知症状への対応」（50.0%）や「夜間の排泄」（37.5%）、「日中の排泄」及び「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（ともに31.3%）等が高い比率となっている。また、これらは就労継続見込みが難しい人ほど比率が高い傾向が見受けられることもあり、これらの介護が「在宅生活を継続しながらの就労継続」について、重要な判断となる可能性がある。

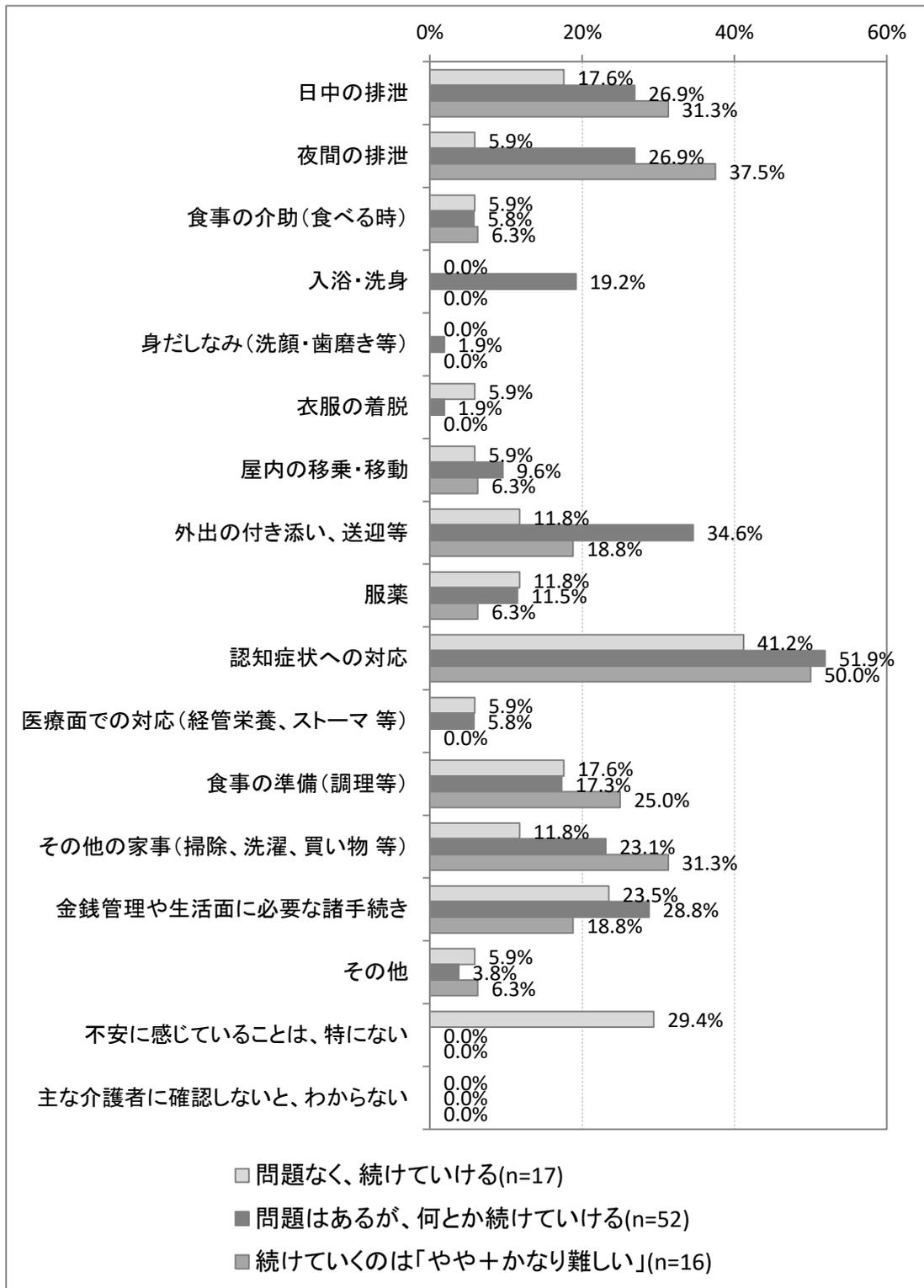
◇図 30 就労状況別・介護保険サービス利用の有無



◇図 31 就労継続見込別・介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



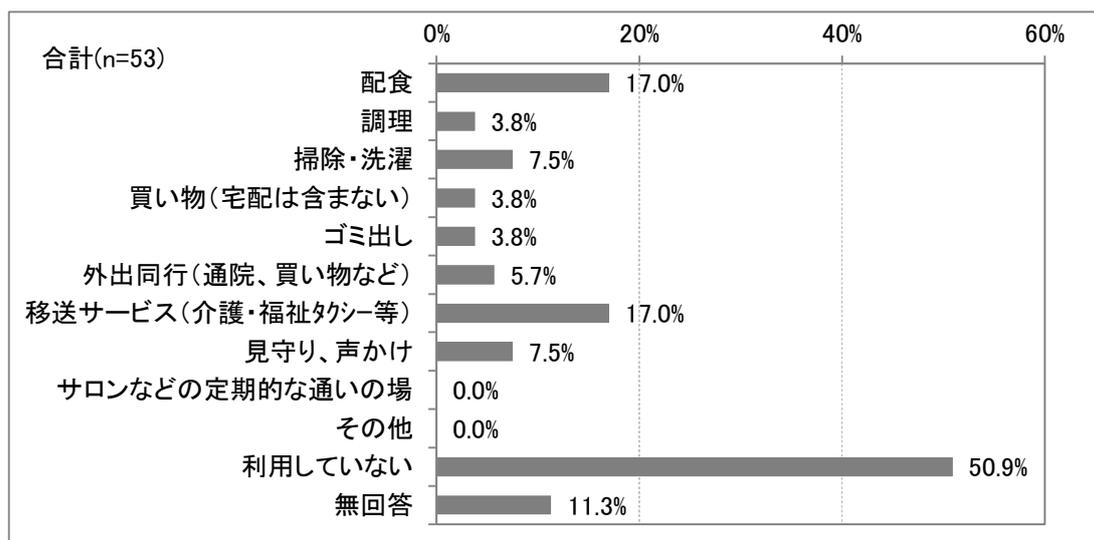
◇図 32 就労継続見込別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



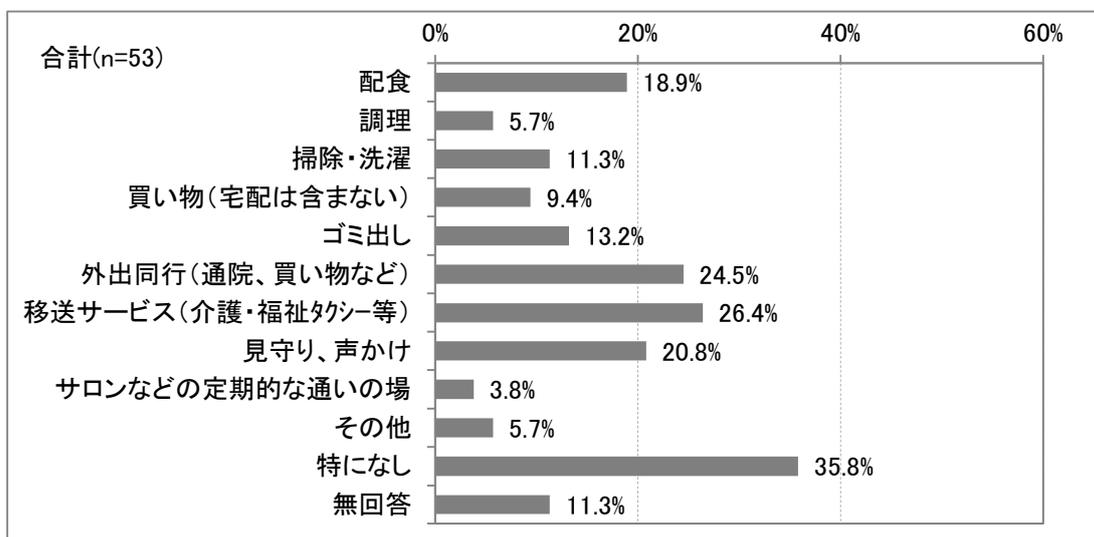
(2) 介護保険以外の支援・サービスの利用意向

フルタイム勤務が利用している“介護保険外の利用している支援・サービス”と、“在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス”の差をみると、すべての項目で“必要と感じる”が“利用している”を上回っており、特にその差が大きい「外出同行」や「見守り、声かけ」を中心に、これら支援・サービスに対する期待が見受けられる。

◇図 33 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



◇図 34 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



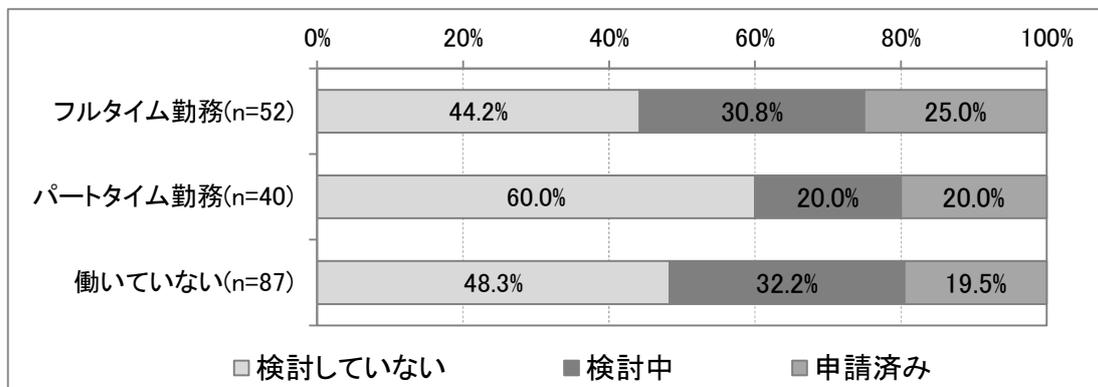
(3) 施設入所等検討の状況

施設等の検討について「検討していない」は、“パートタイム勤務”（60.0%）でやや高いものの、“フルタイム勤務”や“働いていない”でも40%台の比率となっている。

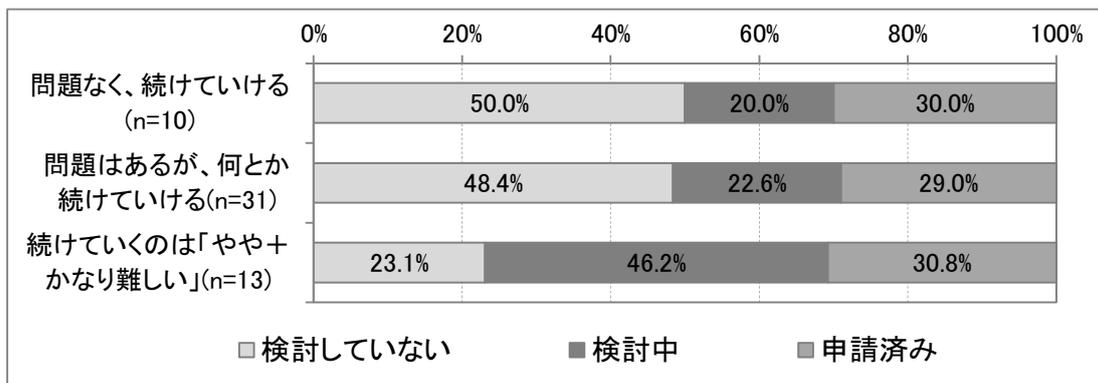
就労している人（フルタイム勤務+パートタイム勤務）のうち要介護2以上について施設等の検討状況をみると、「問題はあるが、何とか続けていける」、もしくは「続けていくのは難しい（続けていくのはやや難しい+かなり難しい）」とする人で、「検討中」（46.2%）が高い傾向がみられるが、「検討していない」が23.1%いる。

したがって、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設入所等を希望するケースと、施設入所等を希望せず在宅サービスや働き方の調整での対応が必要なケースがあると考えられる。

◇図 35 就労状況別・施設等検討の状況



◇図 36 労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）

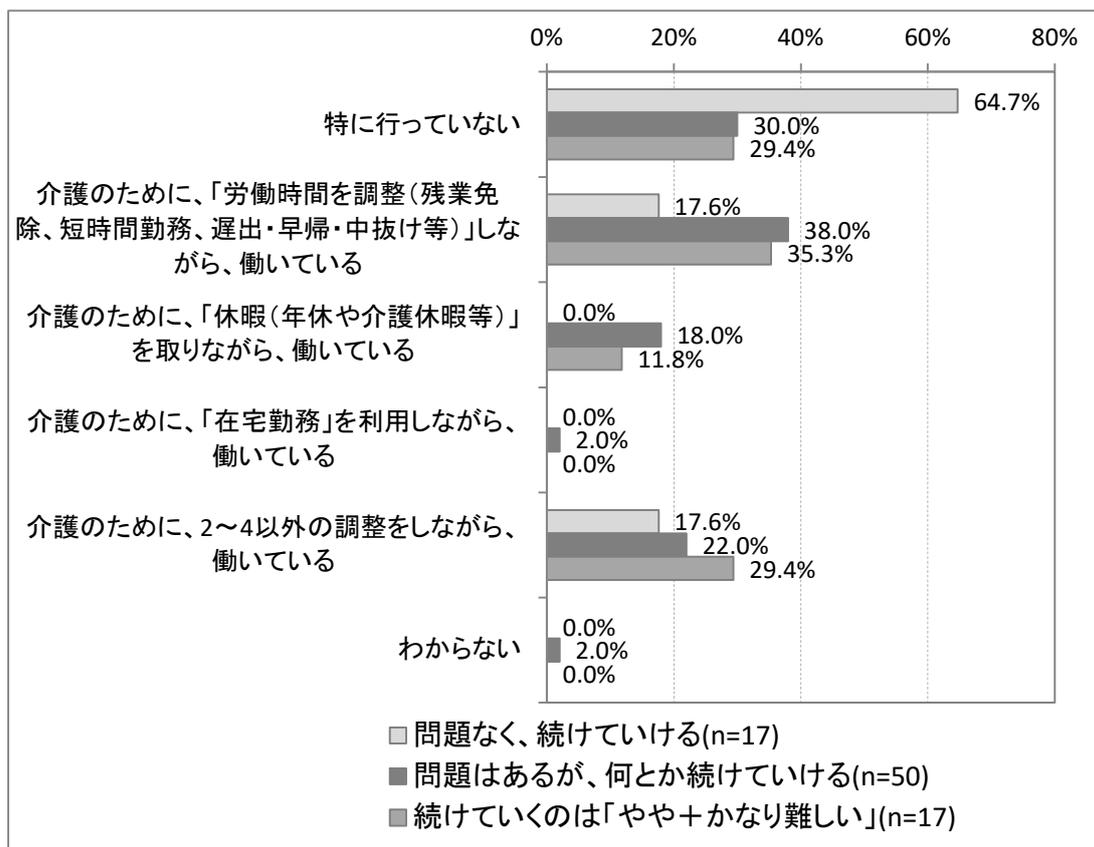


(4) 職場における仕事の調整・支援

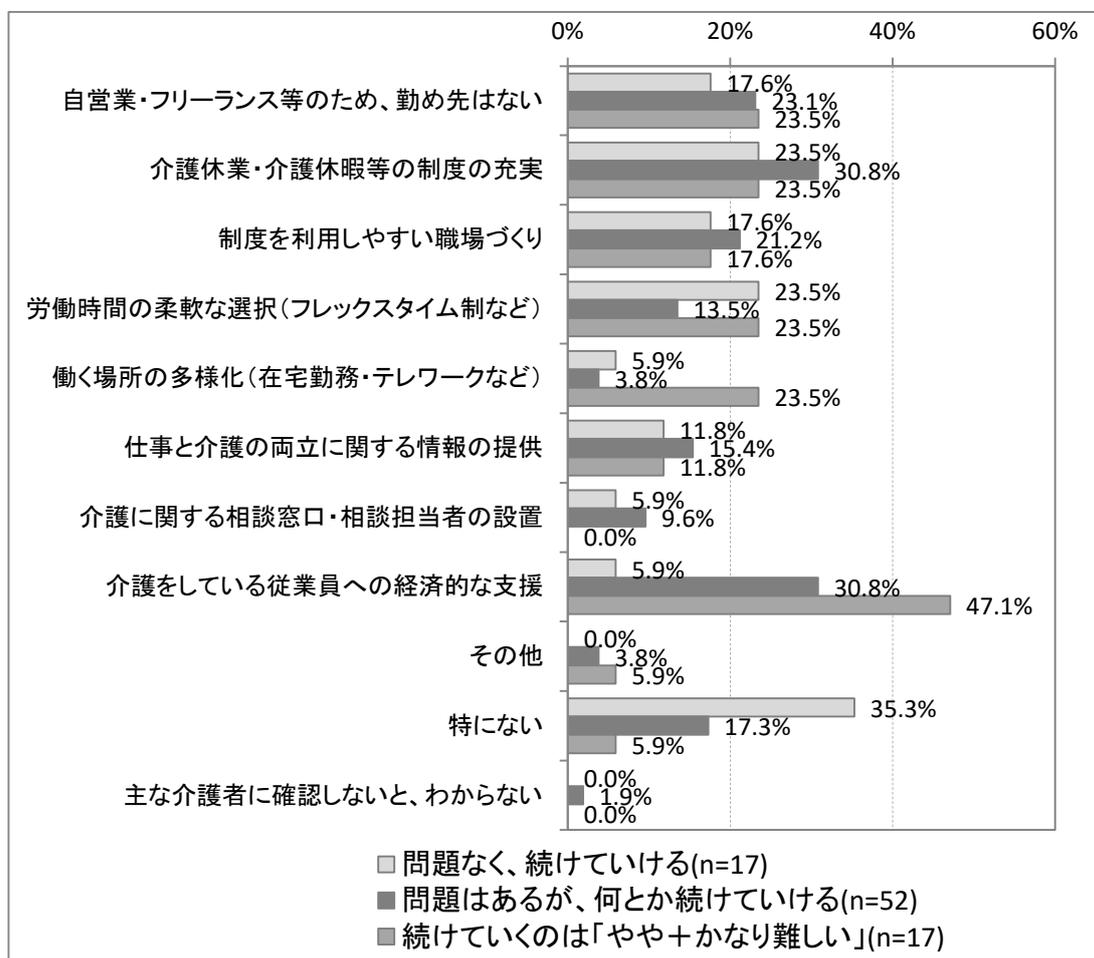
就労している人（フルタイム勤務+パートタイム勤務）の職場における働き方の調整状況を就労継続見込み別にみると、「特に行っていない」は“問題なく、続けていける”は64.7%と高く、一方、“続けていくのは「やや+かなり難しい」”は29.4%と約3割となっている。

効果的な勤め先の支援について、“続けていくのは「やや+かなり難しい」”は「介護をしている従業員への経済的な支援」が47.1%で最も高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」や「労働時間の柔軟な選択」、「働く場所の多様化」がいずれも23.5%で続いている。

◇図 37 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



◇図 38 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



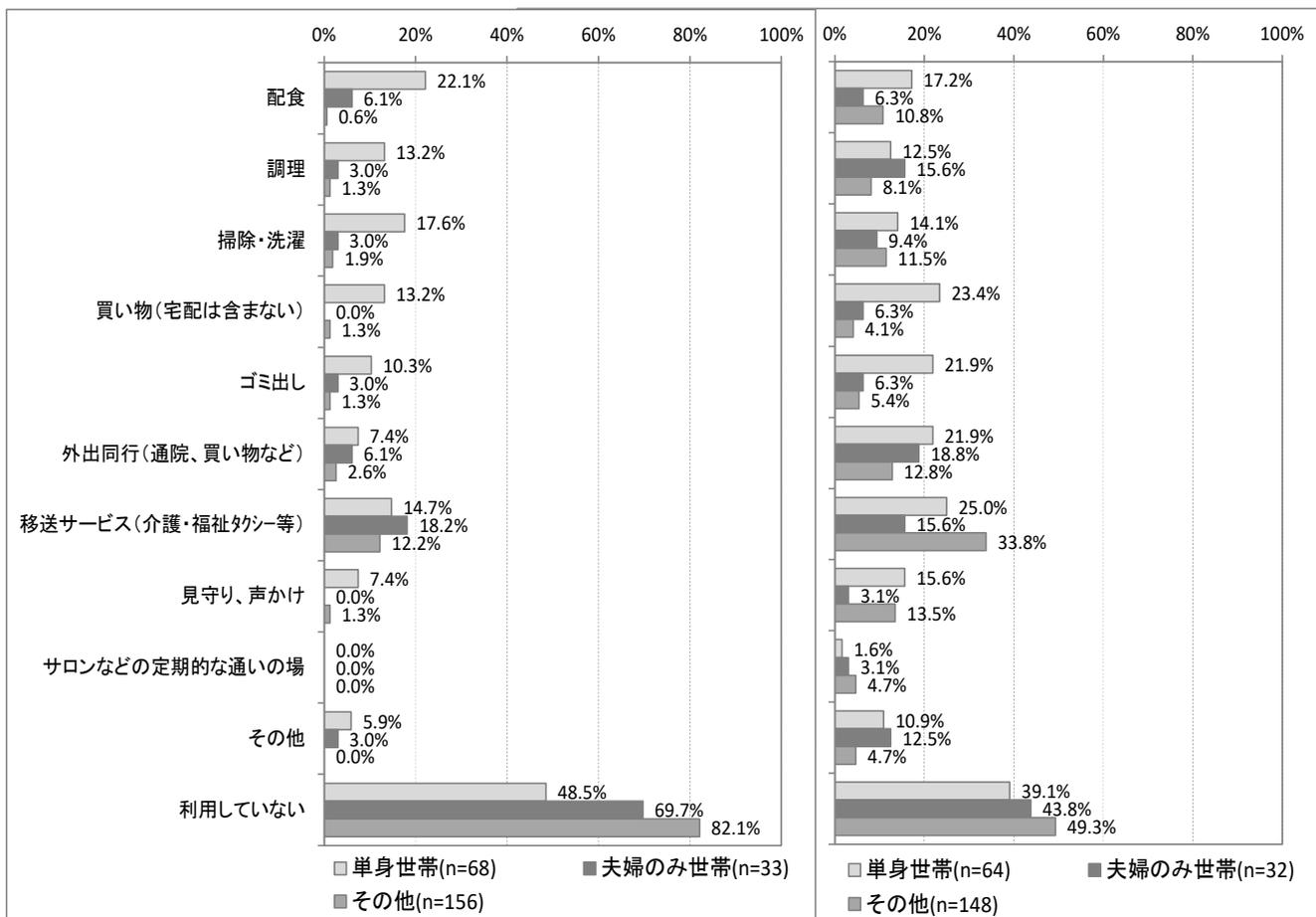
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

(1) 保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

世帯類型別の「保険外の支援・サービスの利用状況」をみると、「利用していない」は「単身世帯」の48.5%に対し、「夫婦のみ世帯」は69.7%、「その他世帯」は82.1%と高い。

一方で、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」をみると、「特になし」は「夫婦のみ世帯」で43.8%、「その他世帯」で49.3%と、現在はサービス等を利用していない世帯においても、在宅生活の継続のためには各種サービス等の必要性を感じている世帯が多くなっている。

◇図39 世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況 ◇図40 同・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



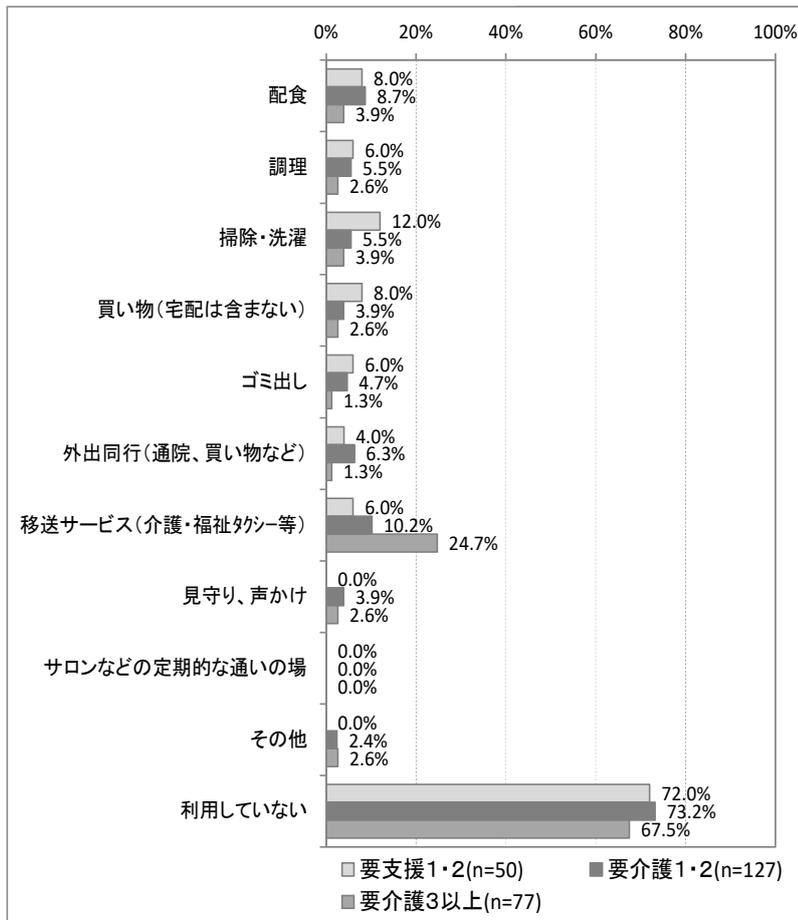
「保険外の支援・サービスの利用状況」を要介護度別にみると、「利用していない」の比率は、いずれの要介護度においても70%前後となっている。

世帯類型別に要介護度別の「保険外の支援・サービスの利用状況」をみると、「単身世帯」は全体的に比率が高く、「調理」や「移送サービス」は重度化に比例して利用比率が増大している。「夫婦のみ世帯」及び「その他世帯」は、「移送サービス」のみ比率がやや高い。

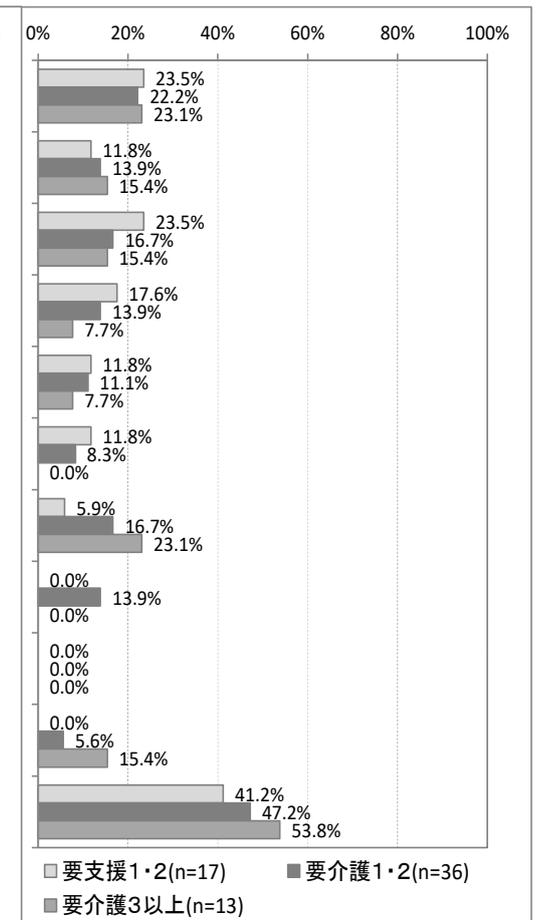
「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」を要介護度別にみると、「特になし」は介護度が高い「要介護3以上」で最も比率が低く、一方「移送サービス」が38.9%と最も高い。

世帯類型別にみると、「単身世帯」が全体的に比率が高く、一方、「その他世帯」は移送サービスの比率は高いものの全体的には低い比率となっている。

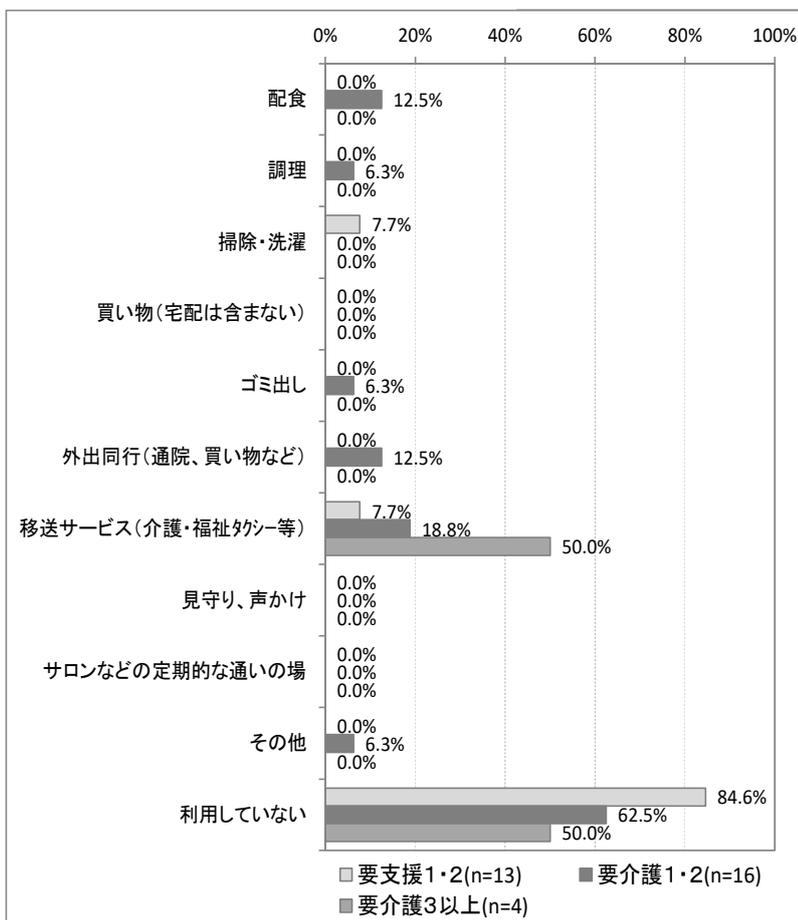
◇図 41 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況



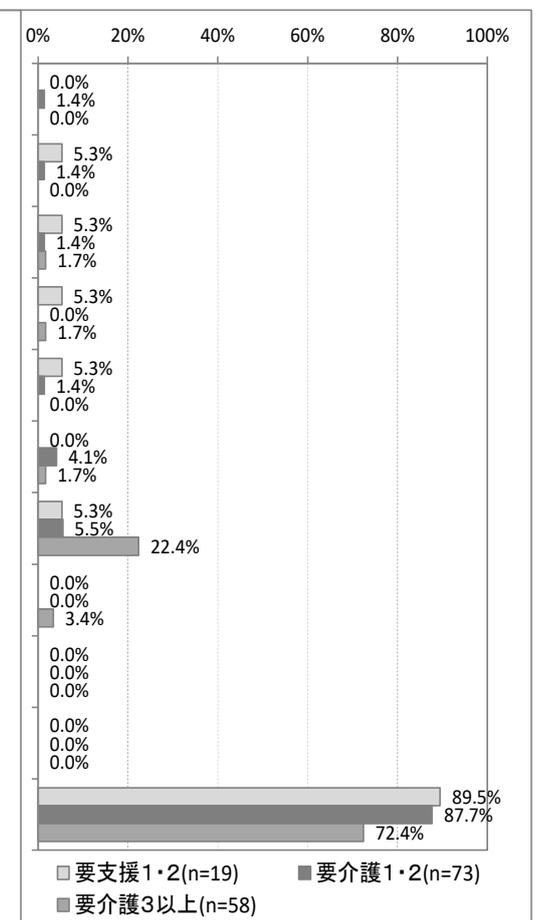
◇図 42 同 (単身世帯)



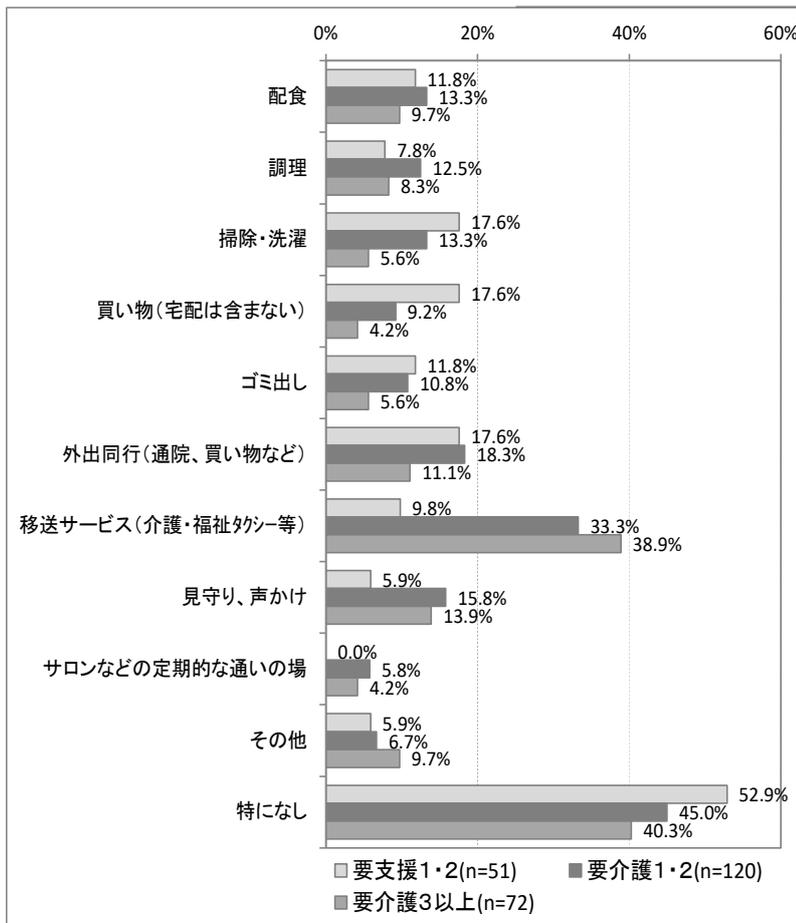
◇図 43 同 (夫婦のみ世帯)



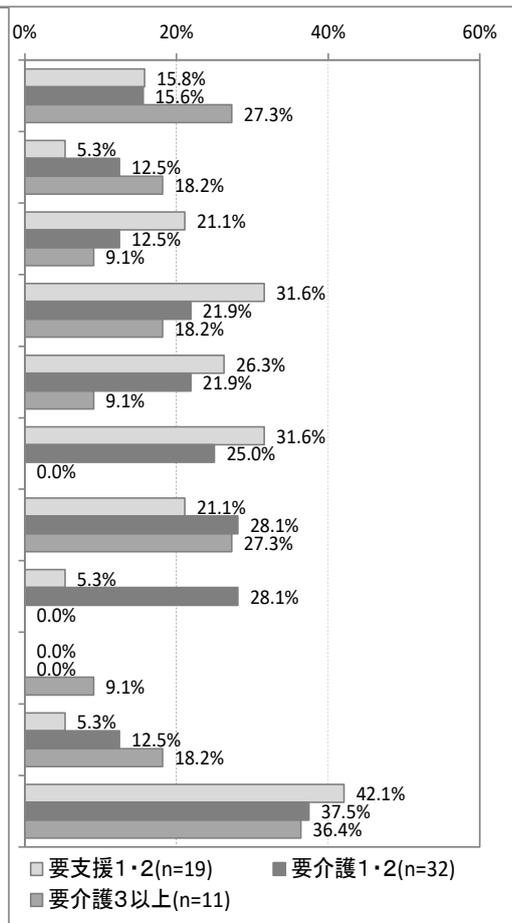
◇図 44 同 (その他の世帯)



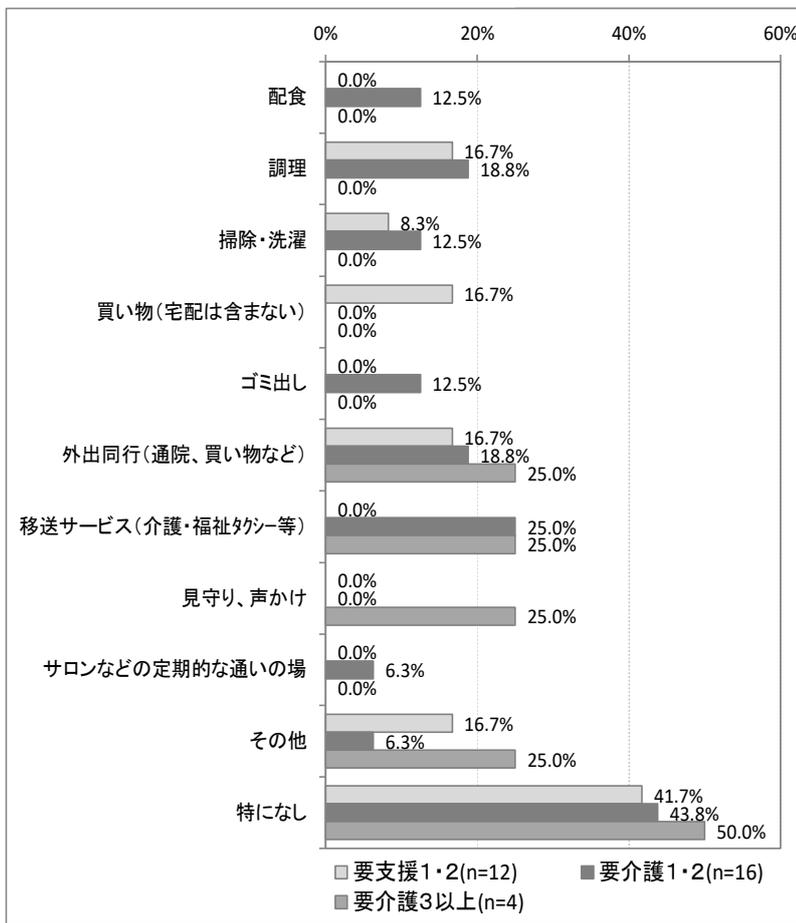
◇図 45 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



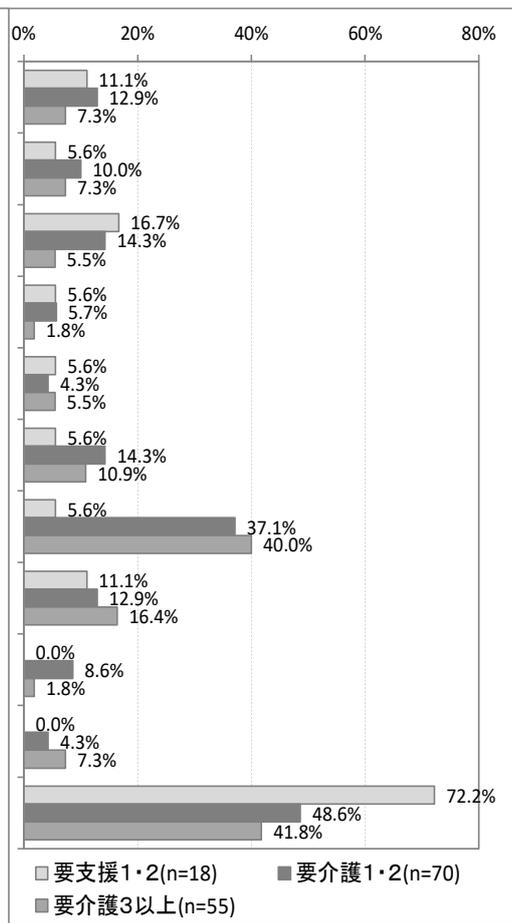
◇図 46 同 (単身世帯)



◇図 47 同 (夫婦のみ世帯)



◇図 48 同 (その他の世帯)

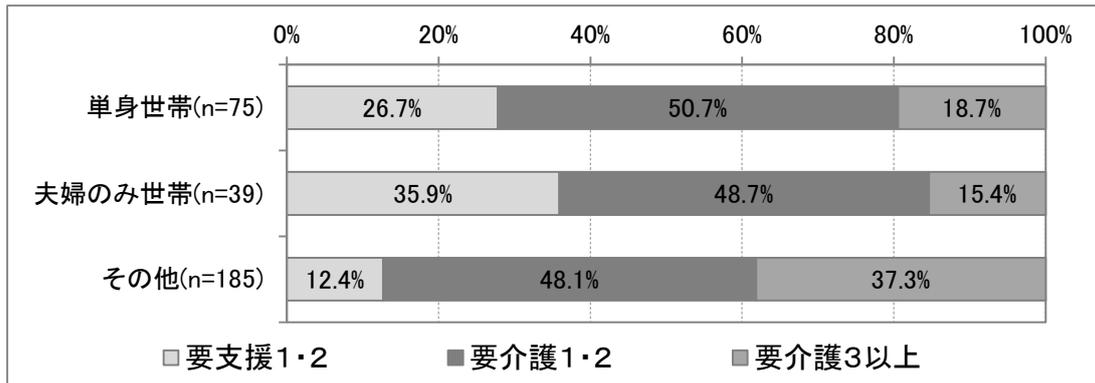


4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

世帯類型別の「要介護度」の比率をみると、いずれも「要介護1・2」が約半数を占め最も高い。また、「要介護3以上」をみると、「単身世帯」(18.7%)及び「夫婦のみ世帯」(15.4%)は、「その他」(37.3%)の半数程度と低い。同居の介護者がいない又は限定される「単身世帯」及び「夫婦のみ世帯」では、重度化により在宅生活の継続が困難となるケースが多いと考えられる。

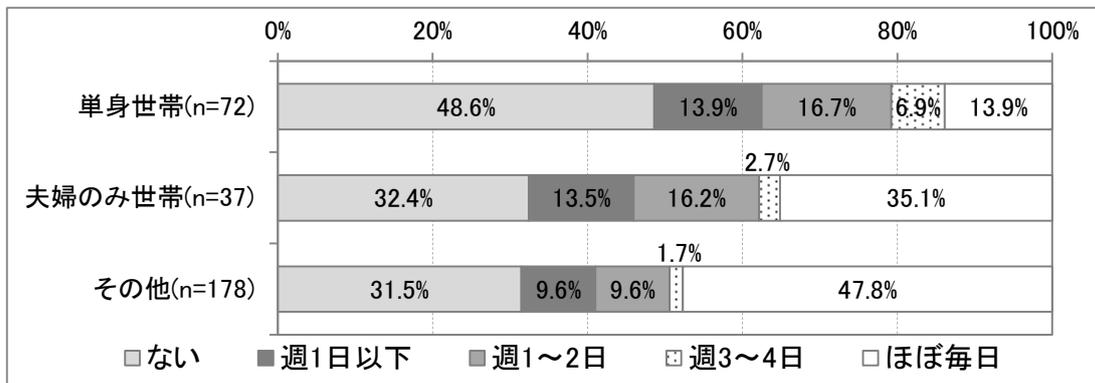
◇図 49 世帯類型別・要介護度



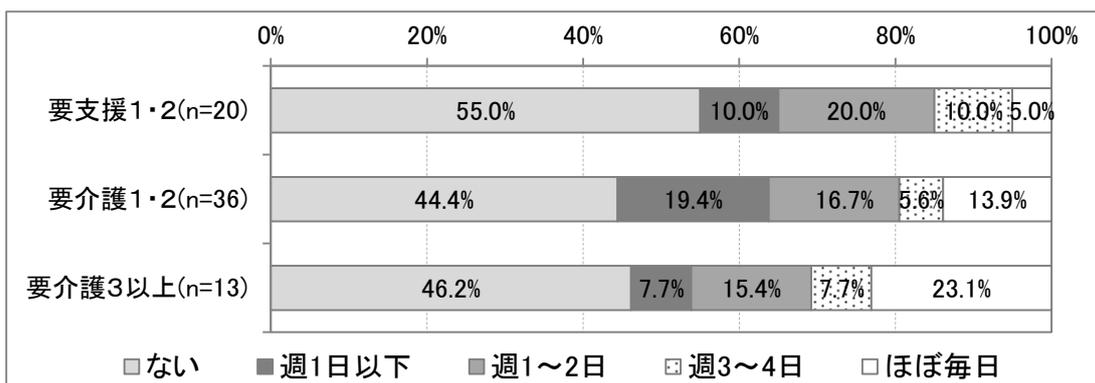
世帯類型別の「家族等による介護の頻度」の比率をみると、「単身世帯」では「ほぼ毎日」(13.9%)は少なく「ない」(48.6%)の比率が高い。

「要介護3以上」の家族等による介護の頻度が「ない」は、「その他の世帯」及び「夫婦のみ世帯」は16%台であるのに対し、「単身世帯」では46.2%と多い。

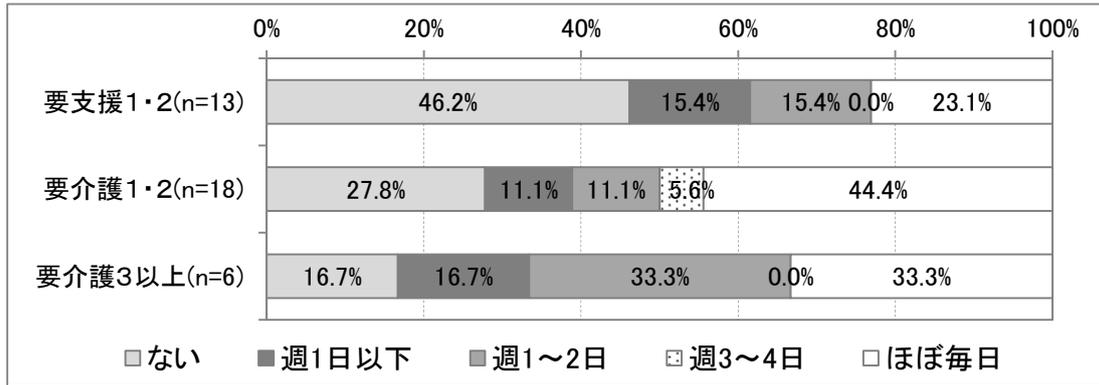
◇図 50 世帯類型別・家族等による介護の頻度



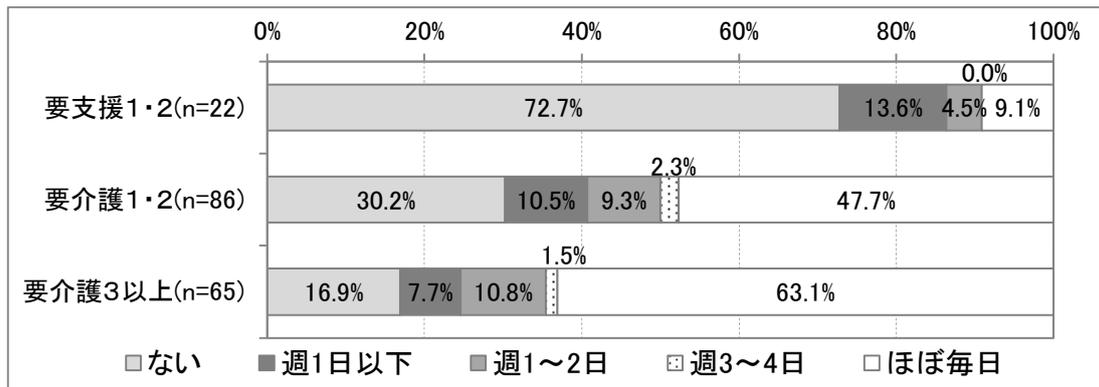
◇図 51 要介護度別・家族等による介護の頻度 (単身世帯)



◇図 52 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



◇図 53 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）

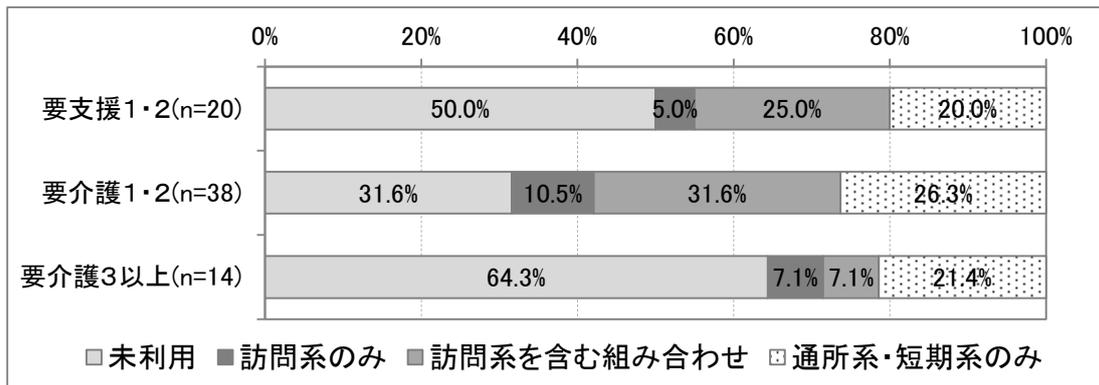


(2) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

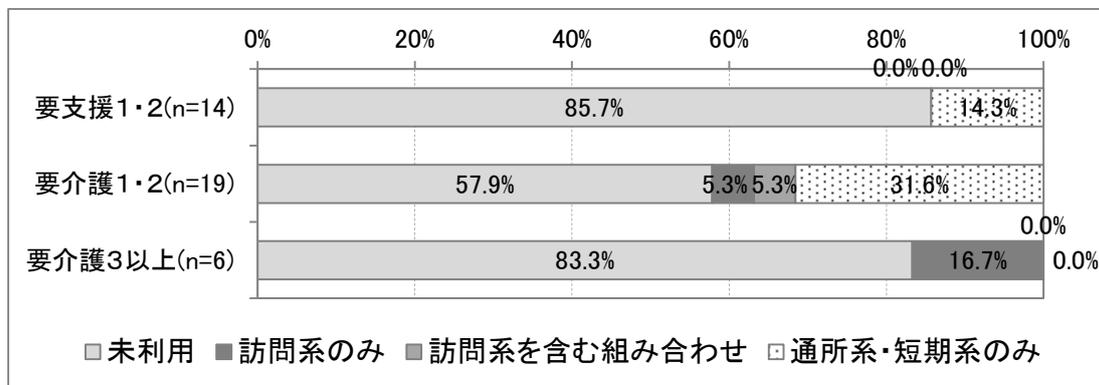
在宅生活を継続するためには、要介護度が重度化するに従い「訪問系のみ」または「訪問系を含む組み合わせ」のサービスを利用することが望ましいと考えられる。しかし、本調査結果においては、特に「要介護度3以上」において「未利用」の比率が高く、「訪問系のみ」や「訪問系を含む組み合わせ」の利用は極めて少ない。

「単身世帯」及び「夫婦のみ世帯」の要介護度の重度者を主な対象として、「訪問系」サービスの充実と利用促進に努める必要がある。

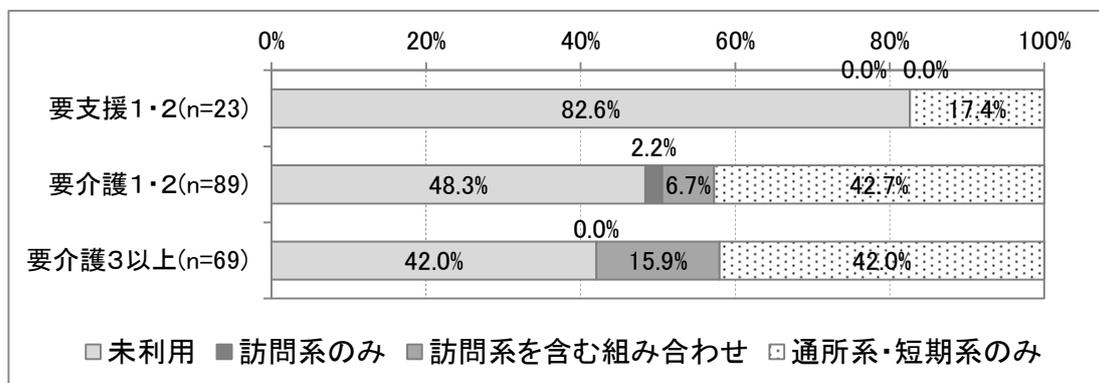
◇図 54 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



◇図 55 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



◇図 56 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



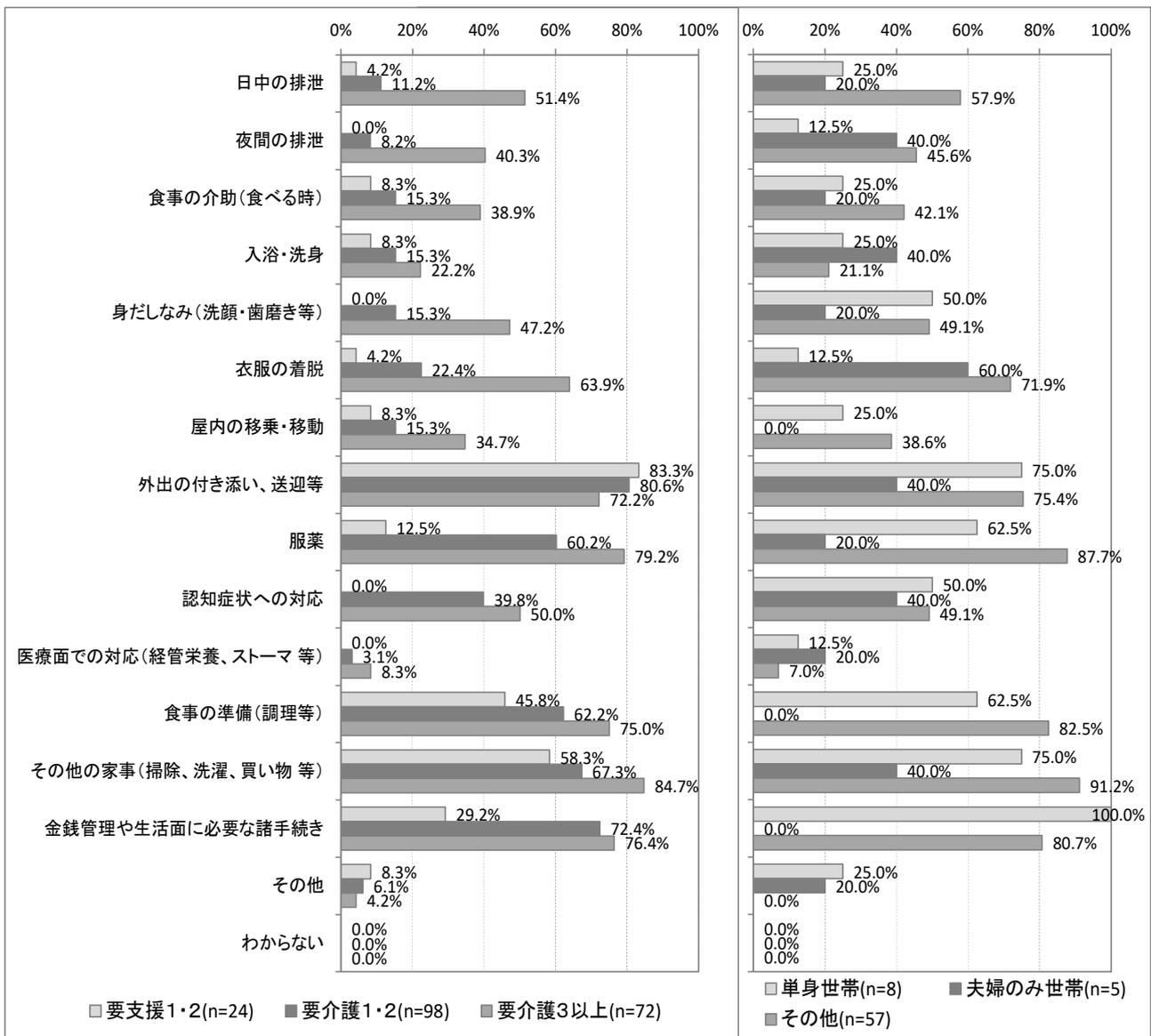
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

(1) 主な介護者が行っている介護（医療面での対応）

主な介護者が行っている介護のうち「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」は全体では4.1%であるが、介護度が重度の人ほど高く「要介護3以上」では8.3%となる。また、世帯類型別では「夫婦のみ世帯」が20.0%と高い。

◇図 57 要介護度別・主な介護者が行っている介護

◇図 58 世帯類型別・主な介護者が行っている介護
(要介護3以上)

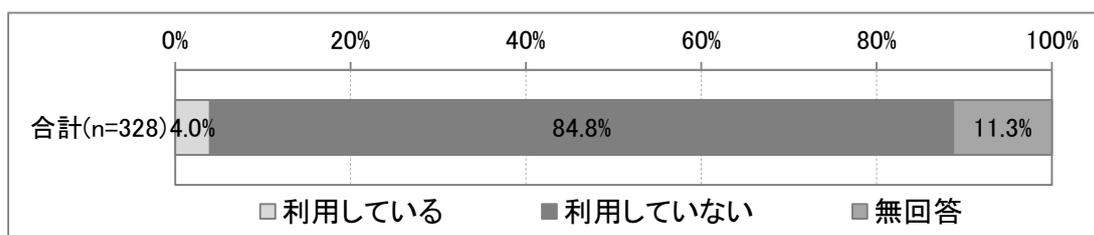


(2) 訪問診療

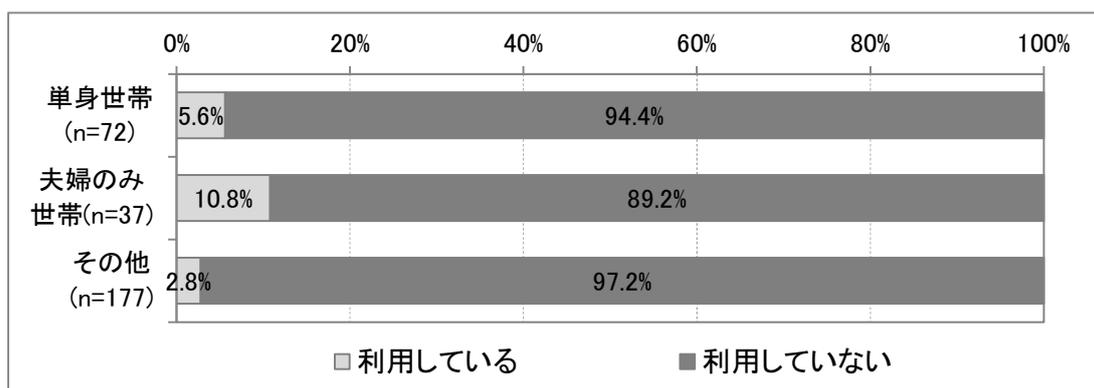
訪問診療を「利用している」のは全体の4.0%となっているが、世帯類型別では「夫婦のみ世帯」(10.8%)が、要介護度別では要介護度の高い方(要介護5=14.8%)で、訪問診療の利用比率が高くなっている。

今後は、中重度の要介護者の増加が見込まれ、それに伴い増加すると予想される「介護と医療の両方のニーズを持つ在宅療養者」について、如何に適切なサービス提供体制を確保していくかが重要な課題となる。

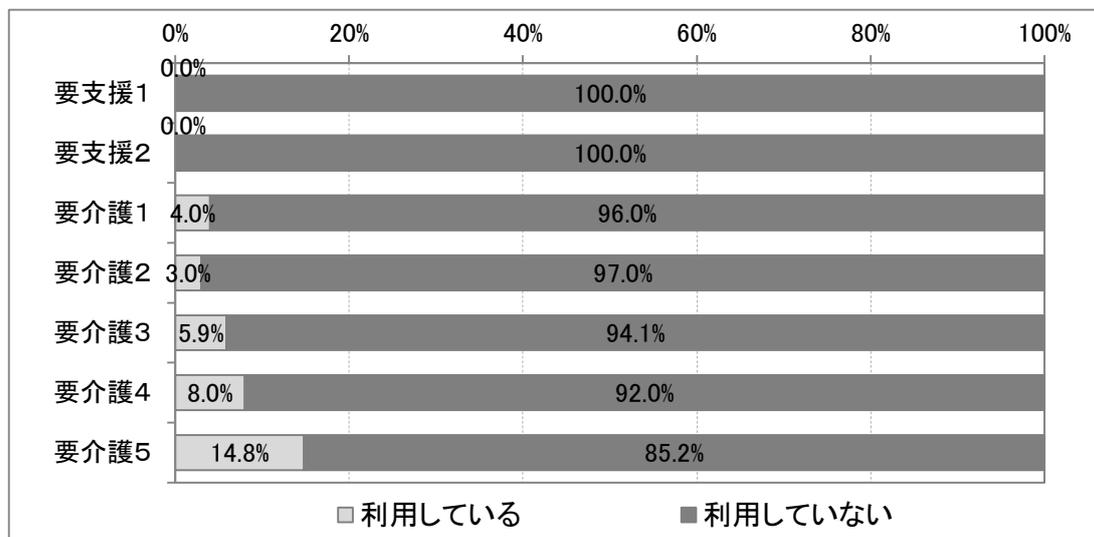
◇図 59 訪問診療の利用の有無



◇図 60 世帯類型別・訪問診療の利用比率

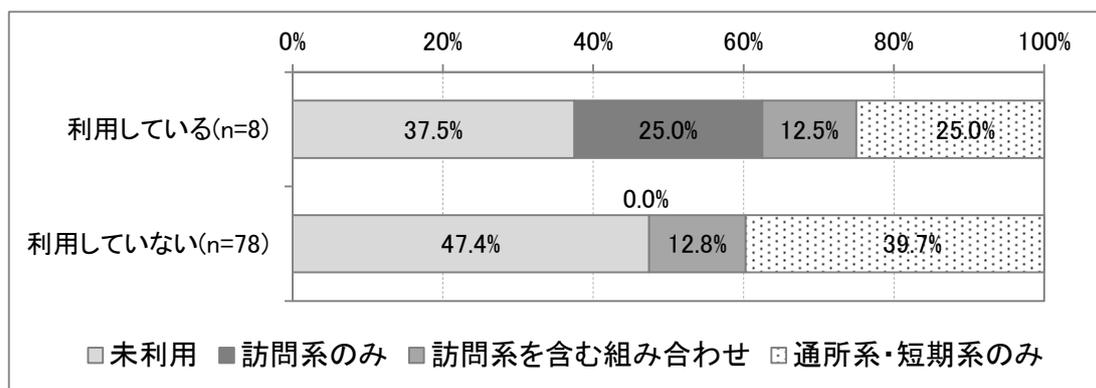


◇図 61 要介護度別・訪問診療の利用比率



訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の「サービス利用の組み合わせ」をみると、訪問診療を「利用している」は、「訪問系のみ」の比率が25.0%と、「利用していない」より高い結果となっている。訪問診療を利用している方は、訪問介護や訪問看護を組み合わせで利用しているケースが多いと考えられることから、医療ニーズのある要介護者の増加に伴い、訪問系サービスの重要性はより高くなる。

◇図 62 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）

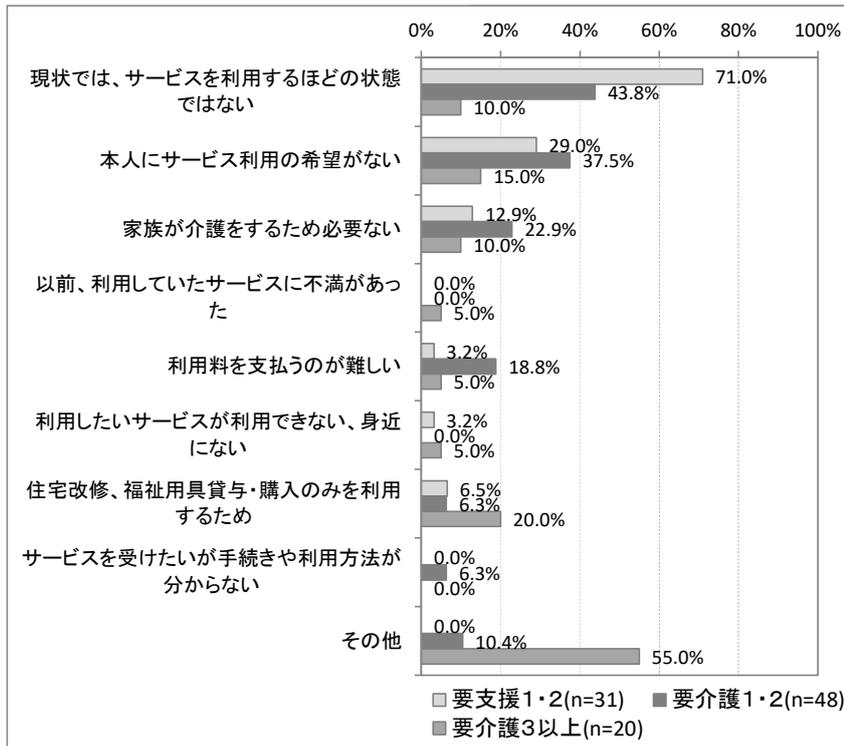


6 その他（サービス未利用の理由など）

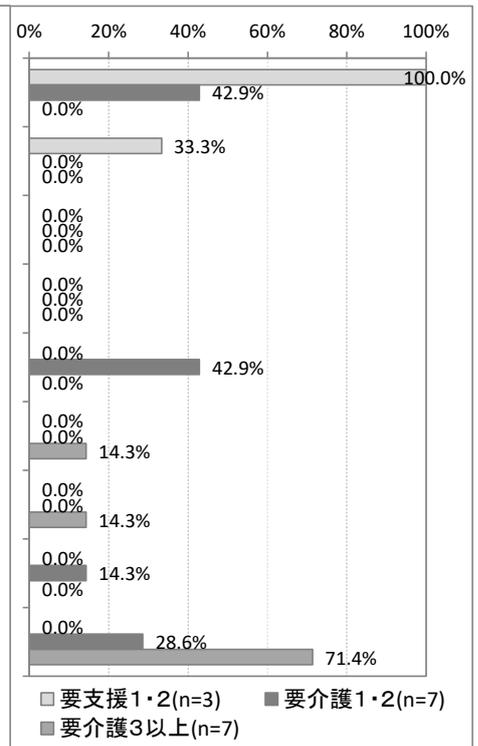
（１）サービス未利用の理由

要介護度別のサービス未利用の理由は、要支援１・２及び要介護１・２では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も高くなっているが、夫婦のみ世帯の要介護１・２では「本人にサービス利用の希望がない」が最も高い。

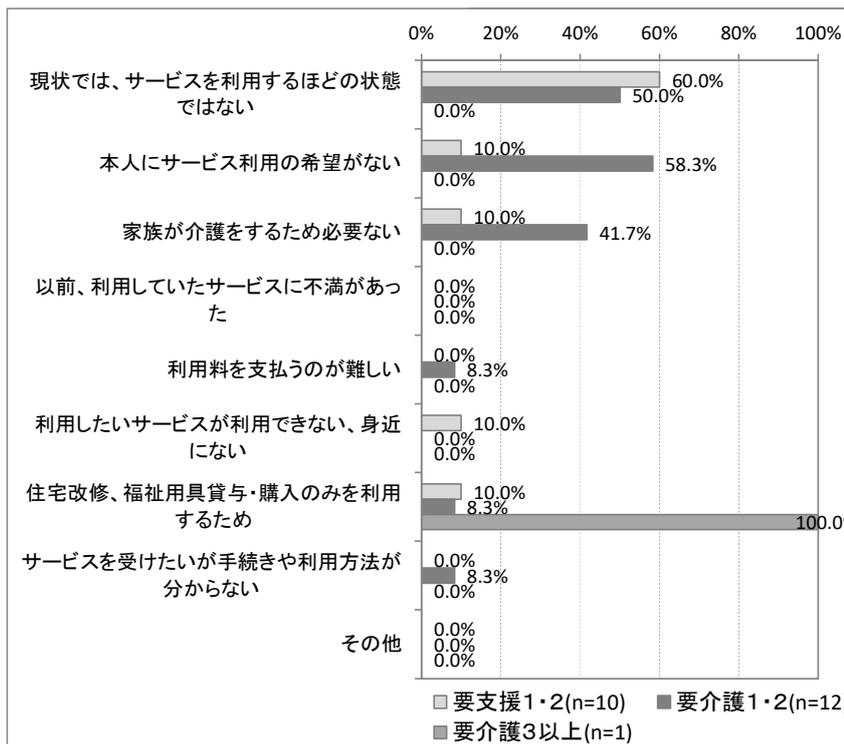
◇図 63 要介護度別のサービス未利用の理由



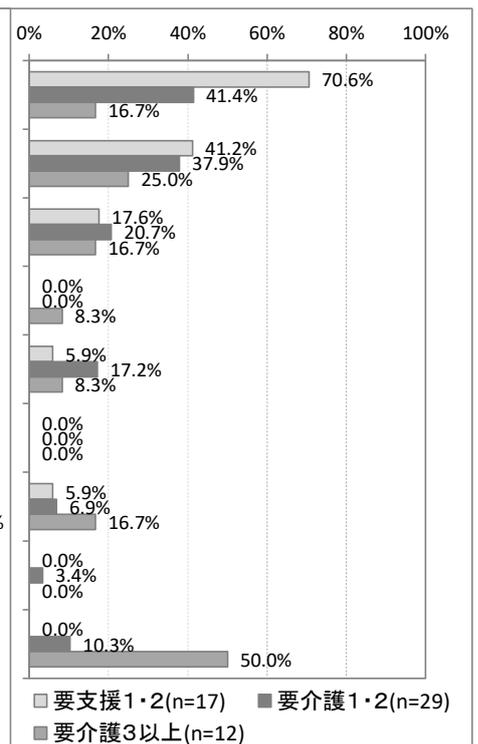
◇図 64 同（単身世帯）



◇図 65 同（夫婦のみ世帯）

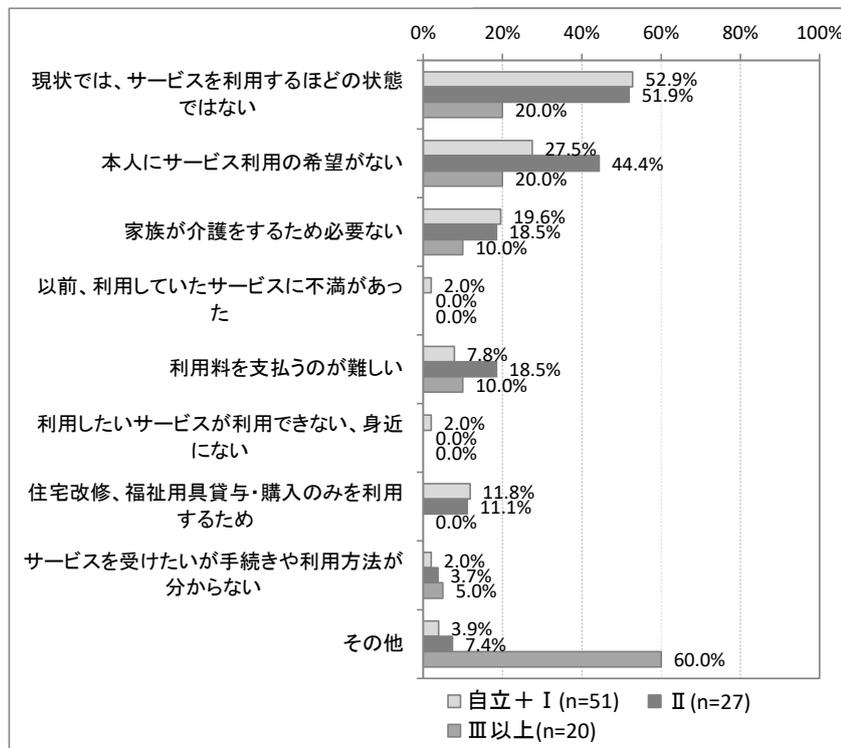


◇図 66 同（その他世帯）

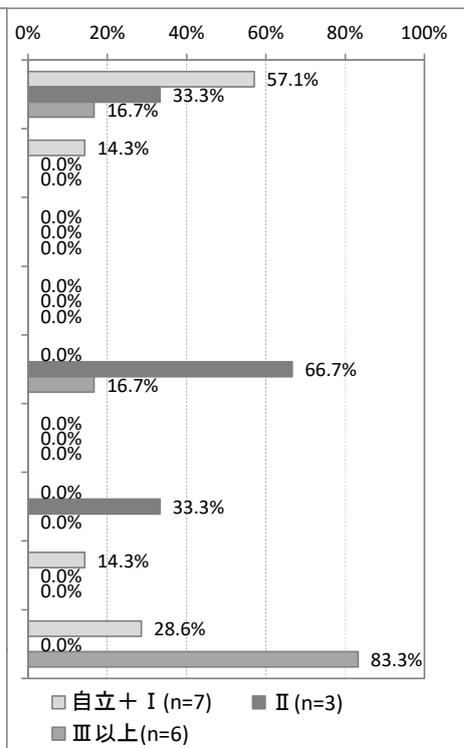


認知症自立度別のサービス未利用の理由をみると、要介護度別と同様に「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」や「本人にサービス利用の希望がない」の回答が多い。

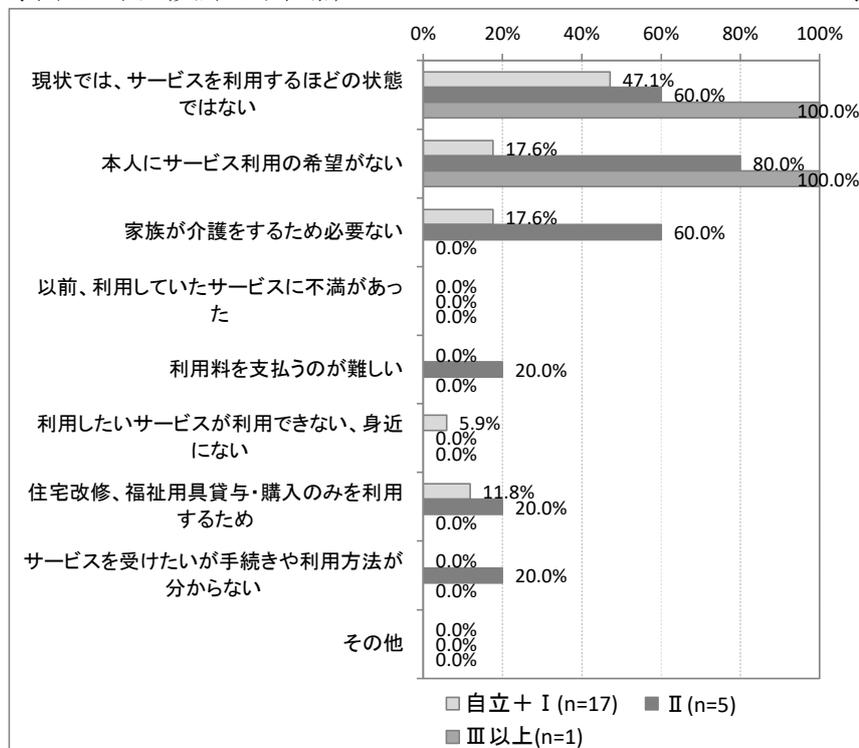
◇図 67 認知症自立度別のサービス未利用の理由



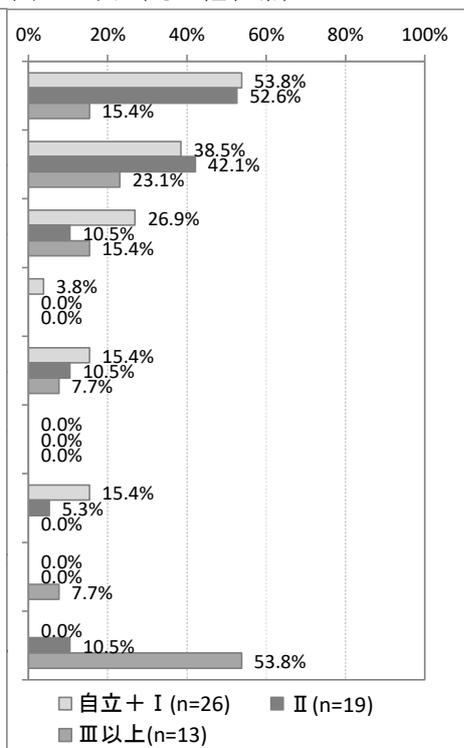
◇図 68 同（単身世帯）



◇図 69 同（夫婦のみ世帯）



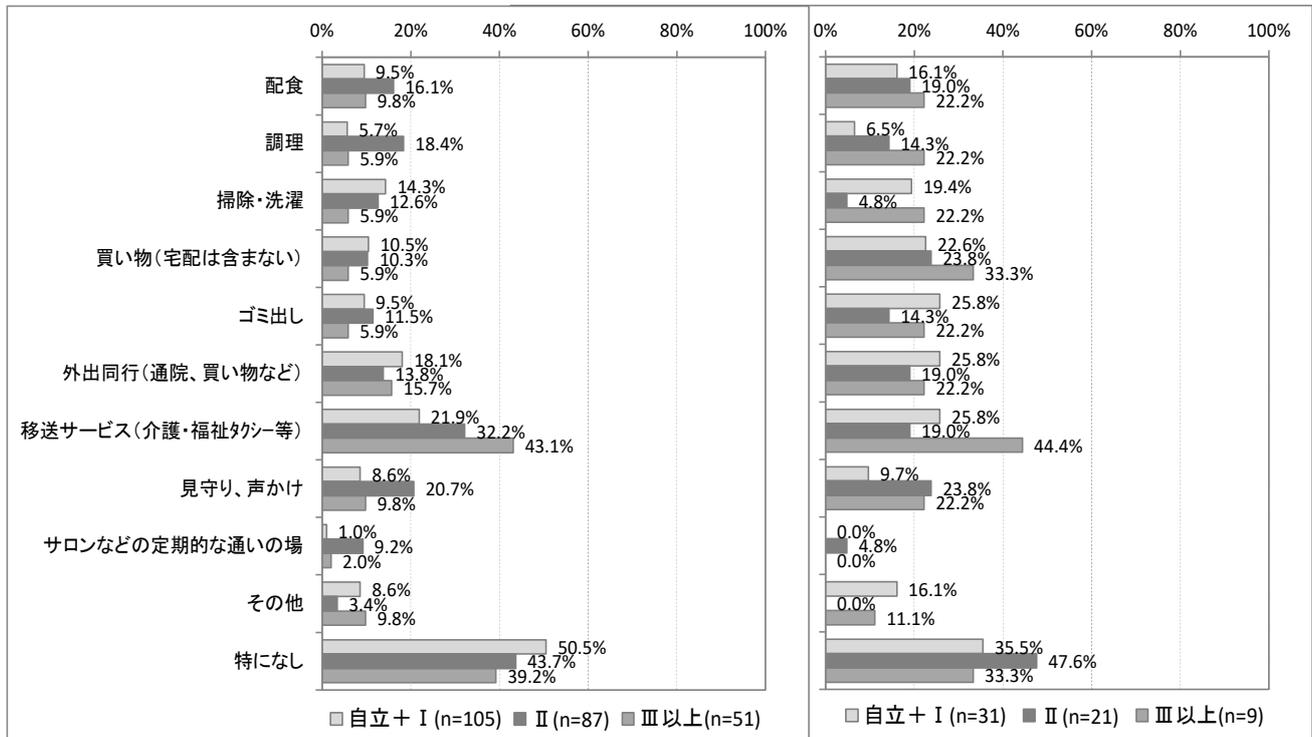
◇図 70 同（その他世帯）



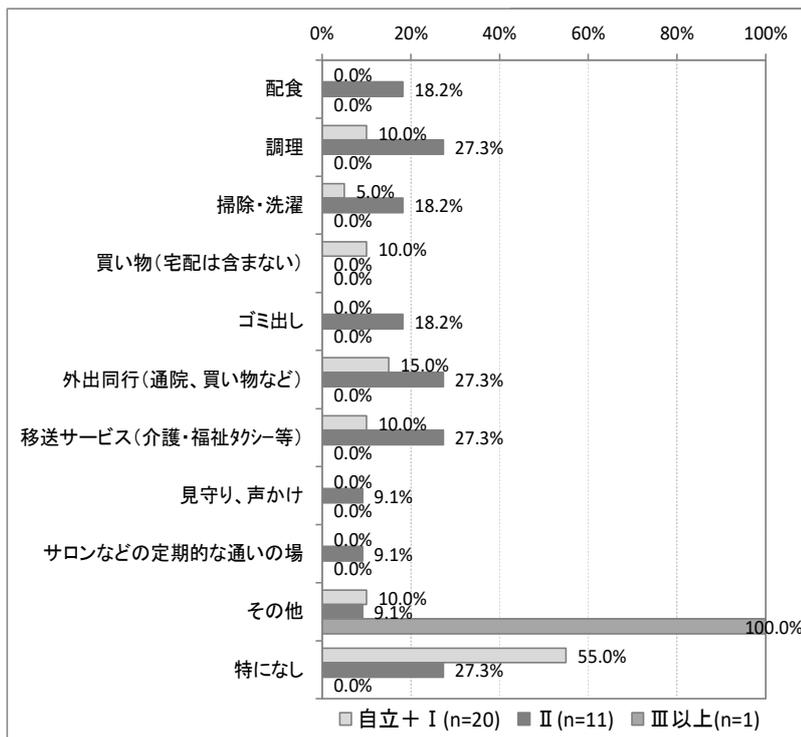
(2) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

認知症自立度別に在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、全体では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の比率が高く、認知症の重度化に伴い比率が増加している。なお、「特になし」は認知症自立度Ⅲ以上でも39.2%と高い比率となっている。

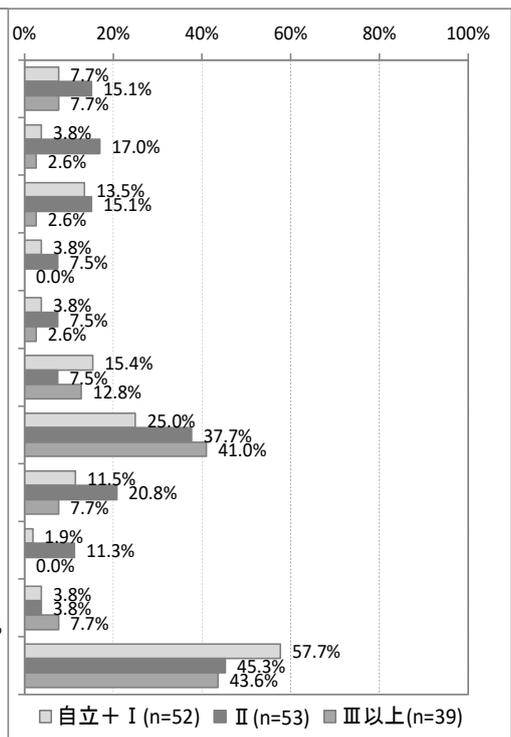
◇図 71 認知症自立度別の在宅生活に必要と感じる支援・サービス ◇図 72 同（単身世帯）



◇図 73 同（夫婦のみ世帯）



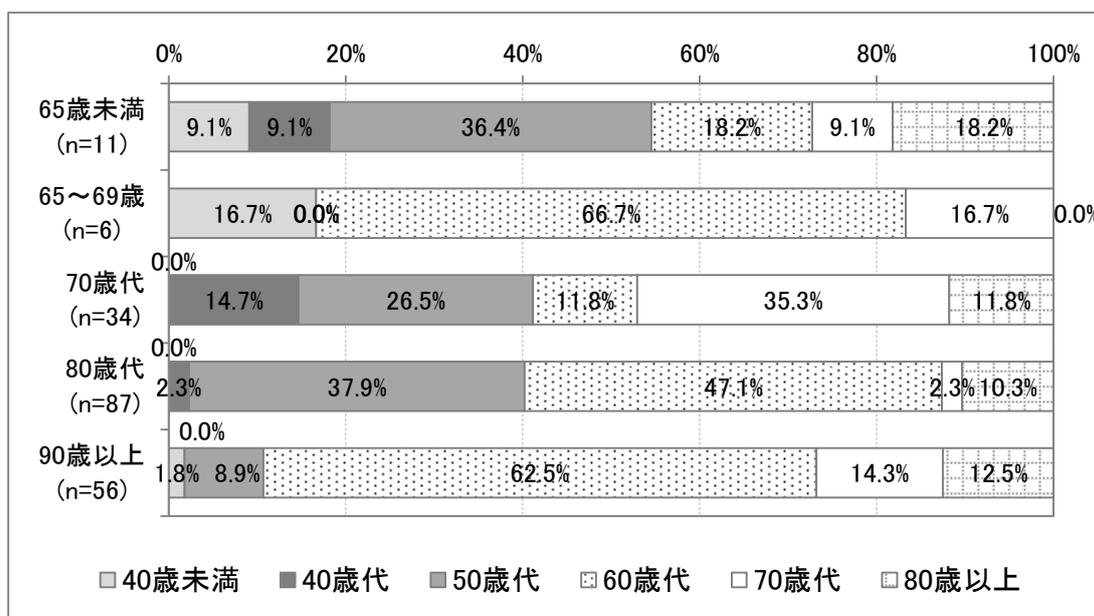
◇図 74 同（その他世帯）



(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

本人の年齢別の主な介護者の年齢について、本人の年齢が若い場合は主な介護者の年齢も若い人の比率が高く（本人：65歳未満、介護者の年齢が50歳代以下=54.6%）、一方、本人の年齢が高い場合は主な介護者の年齢も高い人の比率が高い（本人：95歳以上、介護者の年齢が60歳代以上=89.3%）。

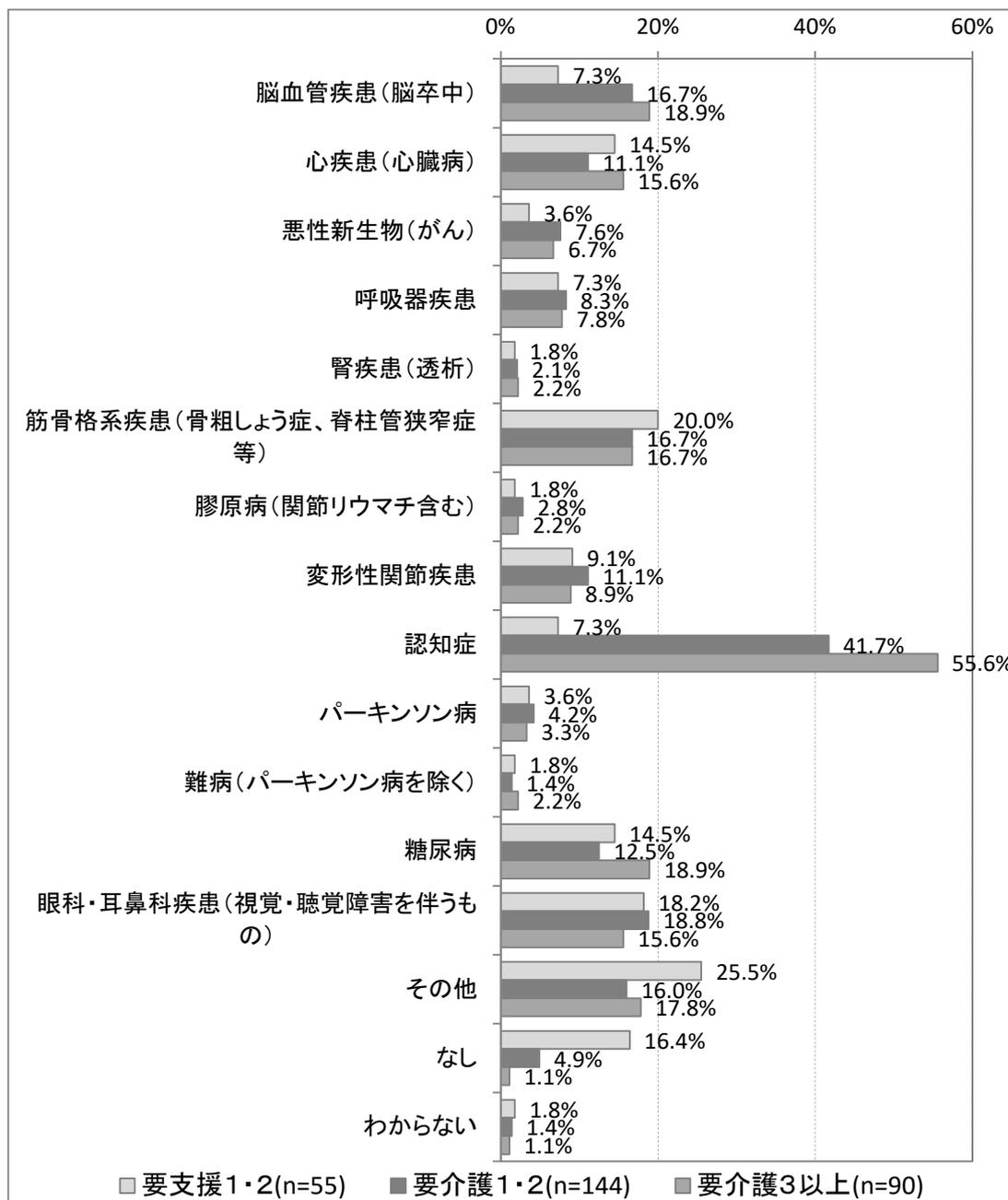
◇図 75 本人の年齢別・主な介護者の年齢



(5) 要介護度別の抱えている傷病

要介護度別の抱えている傷病をみると、「脳血管疾患（脳卒中）」及び「認知症」は要介護度の重度化に伴い比率が高くなっている。

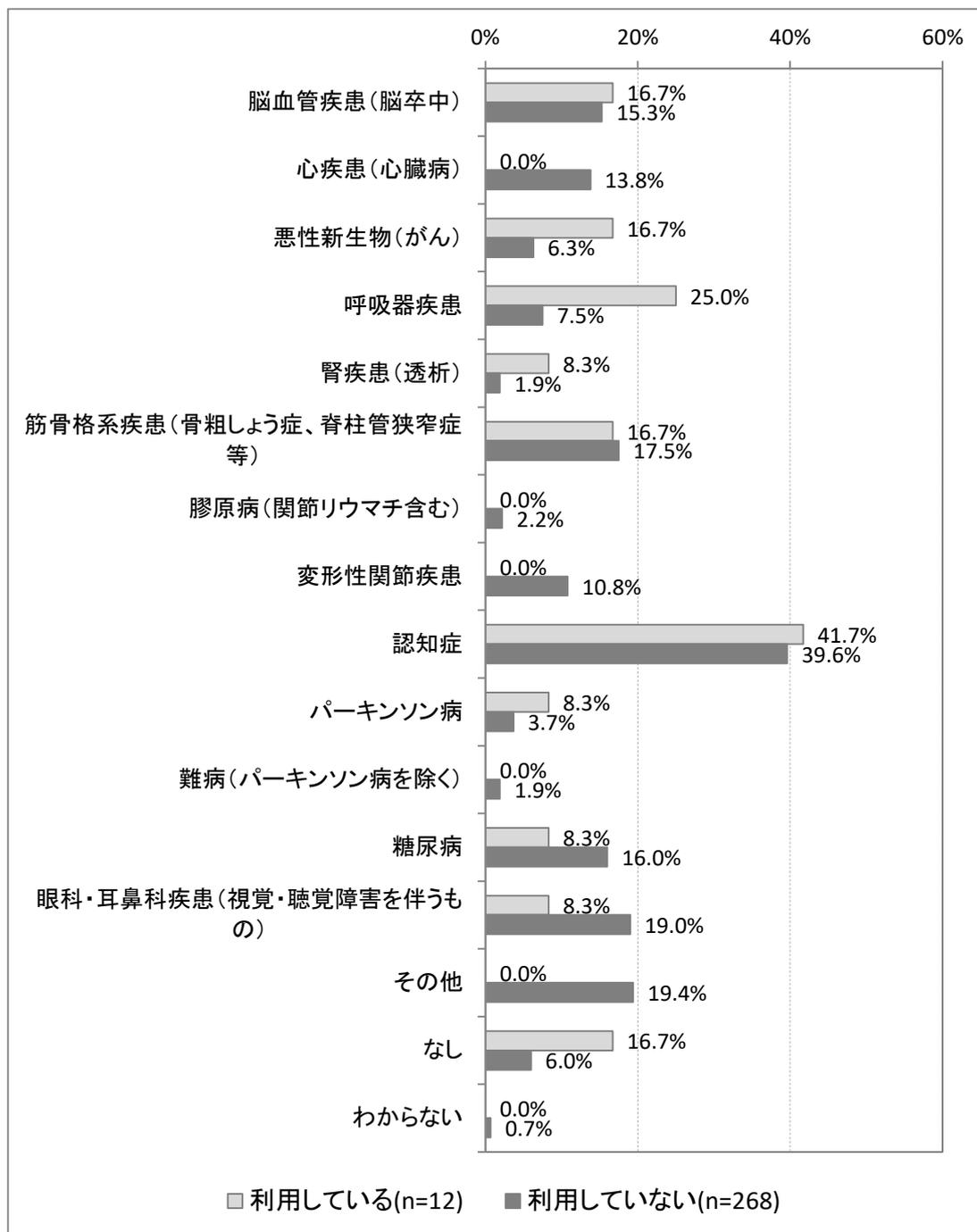
◇図 76 要介護度別・抱えている傷病



(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病の比率をみると、「呼吸器疾患」は訪問診療を「利用している」で25.0%、「利用していない」で7.5%と、訪問診療を「利用している」が高い。

◇図 77 訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病



会津美里町第8期介護保険事業計画策定に係る
調査票集計・分析業務
－ 調査結果報告書 －

発行日：令和2年6月

発行：会津美里町

編集：健康ふくし課 介護保険係